

鹿児島高専だより

第 66 号

平成24年 3 月

〈特集〉 平成23年度 全国高専教育フォーラム



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

グローバルに活躍する技術者について … 1

特 集

平成23年度全国高専教育フォーラム報告 …… 2

教育研究活動発表概要集の編集について … 4

Webを活用したフォーラムの案内と電子申請について …… 5

高専教育フォーラムに参加して …… 6

技術室が関わった業務状況 …… 7

自転車発電 …… 7

教務だより

相手の立場に立って考える技術者 …… 8

平成23年度一日体験入学 …… 9

平成23年度きりしまチャレンジャー実施報告 ……10

大島地区離島保護者懇談会及び離島

中学校訪問報告 ……11

学生支援研修会に参加して ……11

工場見学旅行を終えて ……12

電気電子工学科工場見学旅行 ……12

シンガポール工場見学旅行 ……14

工場見学を終えて ……15

工場見学研修旅行で学んだこと ……16

学生だより

本校生としての規範事項 ……17

学生会長を終えて… ……18

環境局長として ……18

文化祭を終えて ……19

体育祭を終えて ……19

対都城高専との親善試合結果 ……21

第48回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 結果一覧 ……23

第46回全国高等専門学校体育大会等結果 …24

学生表彰者リスト ……25

志学寮だより

寮生の就職面接指導を通じての考察 …27

専攻科だより

専攻科への勧め ……29

日鐵プラント設計株式会社のインターン

シップに参加して ……30

夏季休業中のインターンシップを終えて …30

インターンシップに行って ……31

「もの・クリCHALLENGE2011」で優秀賞

を頂いて ……32

学生会講演奨励賞を受賞して ……33

修了生に贈る言葉 つない ……34

学生何でも相談室だより

自殺予防について ……35

教職員研究活動

再生可能エネルギー技術を普及させる

ためのKey point ……36

「行為」と「責任」と「運」 ……36

発電してみましょうか？ ……37

卒 業

贈る言葉 ……39

卒業を迎えて ……40

5年間を振り返って ……40

鹿児島高専を卒業するにあたり ……41

感謝の言葉で振りかえる5年間 ……41

5年間の思い出 ……42

専攻科を修了するにあたって ……42

鹿児島高専専攻科を修了して ……43

専攻科を修了するにあたって ……43

卒業研究テーマ一覧表 ……45

特別研究テーマ一覧 ……50

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の

就職・進学一覧 ……51

教職員の動向

新任挨拶 ……54

退職のご挨拶 ……55

退職にあたって ……55

平成22年度永年勤続表彰（退職時）について …56

山内教授が国立高等専門学校教員顕彰

「優秀賞」を受賞 ……56

平成23年度教育功労者表彰について …57

平成23年度永年勤続表彰について ……57

国際交流だより

23年度国際交流事業 ……58

広報委員会だより

平成23年度の広報委員会の活動について …61

後援会だより

鹿児島高専と後援会と「わたし」 ……62

感動！の四年生～低学年の保護者の皆様へ～ …63

突然の依頼 ……64

5年間の思い出にありがとう ……64

みなさんに感謝 ……65

平成23年度1年生授業参観・懇談会

アンケート集計結果 ……66

平成24年度行事予定表 ……68

【表紙の説明】

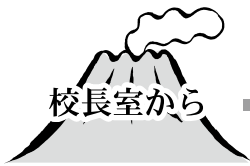
写真上左：平成23年度 全国高専教育フォーラム
開会式での林高専機構理事長挨拶

写真上右：4年情報工学科工場見学
理化学研究所計算科学機構にて

写真下左：全国高専体育大会ソフトテニス競技
男子団体優勝の集合写真

写真下右：全国高専体育大会サッカー競技
優勝の集合写真





グローバルに活躍する 技術者について

校長 赤坂 裕

本校は、学習・教育目標の2番目に「グローバルに活躍する技術者」を掲げています。日本にとって「グローバルに活躍する技術者」の養成は重要な課題であり、その必要性は今後益々高くなっていくと予想されます。

今回は「グローバルに活躍する技術者」について考えてみます。

1. (社)日本経済団体連合会の提言について

日本経済団体連合会（経団連）は、2011年6月14日に、「グローバル人材の育成に向けた提言」を発表しています。その趣旨は、急激な少子高齢化が進行し、国際競争が激化している中で、日本が成長を維持していくには、人材力を強化し、技術力、イノベーション力を高め、成長するアジア市場や新興国の需要を取り込んでいく必要がある、というものです。また経団連は、グローバル人材を、社会人としての基礎能力に加え、既成概念にとらわれずチャレンジ精神を持ち、外国語によるコミュニケーション能力と文化や価値観の差異に対する興味・関心を持ち合えた人材と位置づけています。

経団連がグローバル人材の提言を行った背景のひとつに、大学等の人材育成に対する危機感があります。海外赴任を前提とした人材を育成しようとしている企業が増加している一方で、日本の若い世代では、海外留学や海外赴任を敬遠する「内向き志向」が拡大しています。その一例を挙げると、米国の大学で学ぶ学生数はピーク時（1998年）の約4万7千人から2009年には約2万5千人にまで減少しています。ある大学の調査によると、海外赴任のニーズが増える一方で、海外で働きたいと思わない新入社員は、約半数に達するそうです。

2. 国際貢献

日本は第二次大戦の敗戦後の焦土から立ち直り、驚

異的な経済発展を遂げ、先進国のひとつに数えられるようになりましたが、この発展のプロセスで多くの国々からの支援を受けました。国際貢献とは、先進国となった日本が、今度は開発途上国に対して可能な支援を行っていくという意味です。その例として、政府開発援助（ODA、Official Development Assistance）や国際協力機構（JICA、Japan International Cooperation Agency）の活動があります。これらを通じて、日本政府は、開発途上国への資金の提供や貸与、人材の海外派遣事業等を行っています。

このような国際貢献は、いわば国のボランティアな活動であって、支援する側の日本にはあまり利益がないように思えますが、そうではありません。例えば、東日本大震災で甚大な被害を受けた日本には、多くの国々から暖かい援助の手が差しのべられました。それらの国の中には開発途上国も含まれます。見返りを期待しないボランティアな活動は、人の心を動かし大きな力となっていきます。

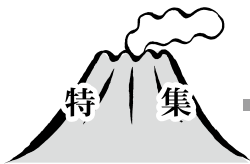
3. 国際競争

民間企業の経済活動は、殆どの場合、競争や競合を伴います。グローバル化（国際化）の中核は、物品の流通の国際化と企業の国際競争です。世界貿易機関（WTO、World Trade Organization）には現在153カ国が加盟しており、関税を引き下げることによって物品の国際流通を促進しています。国際規格（ISO、International Organization for Standardization）等により、寸法や性能の規格が統一されています。安価で性能のよい物品を生産すれば、国境を越えて流通するシステムが整備されています。

海外に進出する日本企業が増えています。数年前までは、日本国内に拠点を置いて海外に支店を広げる企業が多かったのですが、近年は拠点を海外に移転してしまう企業も出てきています。その理由として、マーケット（企業が生産した物を買ってくれる市場）の近さや大きさ、雇用条件（人材、賃金）の有利性、公共施設（インフラ）の整備状況、エネルギー価格や供給の安定性、制度（税制、環境基準）の有利性等が挙げられます。拠点が海外に移転すると、国内の雇用や税収入が減ります。日本としては痛いところです。グローバルに活動する企業には、拠点を日本に置いて、自国の経済の維持・発展に貢献してもらいたいのです。

4. グローバルに活躍できる技術者として

急速に進行しているグローバル化について、幾つかの側面から述べました。学生諸君は、基礎学力・技術力に加えて、グローバル化に対応できる能力を身につけることによって、将来の可能性を大いに高めることができます。



平成23年度 全国高専教育フォーラム報告

教務主事 植村 眞一郎

平成23年8月23日（火）から25日（木）までの3日間、鹿児島大学郡元キャンパスを会場として、今回で2回目となる高専機構主催の平成23年度全国高専教育フォーラムが開催された。会場である鹿児島大学は、鹿児島中央駅から路面電車で10分程度と参加者にとって利便性の面で大変良い所にある。主幹校である本校は、会場の決定、専用ホームページ作成のほか、教育研究活動発表会（新設）及び企業展示を担当することとなった。

本フォーラムにおける教育研究活動発表会は、前年度まで実施されてきた教育教員研究集会を前身に、従来の投稿論文の事前査読及び発表当日の審査という方式を廃止し、新たに口頭発表とポスター発表によるディスカッションの場として位置づけたもので、多くの教職員に教育研究活動について事例の成果発表の機会を設け、議論を活発に行って頂くことで、さらなる教育研究活動の発展、教職員の資質や教育ポテンシャルの向上を目指すことをその趣旨としたものである。さらに、今年度からそれまでのプロジェクト研究集会が廃止されたことに伴い、別途、学校としての組織的な取組等を発表する機会を提供するため、プロジェクト部門を新たに設けた。

本フォーラムでは、昨年度と同様に教育研究活動発表会のほか、基調講演、特別講演、高専・技科大フォーラム、カリキュラム検討研究会など高専機構主催のイベントに加え、高専情報処理研究委員会主催の情報処理教育研究発表会が合同開催されるなど様々なイベントが開催され、参加者は延べ1,200名にのぼった。



写真1 開会式

ここでは、全国高専教育フォーラム実行委員会で決定された事項に基づき、全国高専教育フォーラムのプログラムのうち、本校が主幹校として担当した業務内容は、①教育研究活動発表会、②ポスター展示、③企業展示で

あった。これら以外の、カリキュラム検討研究会、基調講演、特別講演、ワークショップ・委員会などは高専機構の担当であった。以下に主に教育研究活動発表会に関連した項目について報告する。

1. 教育研究活動発表会

前述したように、今年度より発表部門をプロジェクト部門と個人研究部門に分けて募集し、それぞれに①教育研究分野、②学生指導分野、③留学生・国際交流分野を設けた。それぞれの分野の内容は以下の通りである。

①教育研究分野

- 1) カリキュラム
- 2) 教育方法と評価
- 3) 教科研究
- 4) 地域連携（協同教育、インターンシップ、理科支援教育、社会人教育等）
- 5) その他

②学生指導分野

- 1) 学生指導
- 2) 学級指導
- 3) 課外活動指導
- 4) メンタルヘルス
- 5) その他

③留学生・国際交流分野

- 1) 留学生受入
- 2) 留学生派遣
- 3) 教育・学術交流
- 4) 海外インターンシップ
- 5) その他

この分野分けは論文集「高専教育」と同様としている。

ちなみに当実行委員会で決定されたこととして、G P等の外部資金、高専機構特別教育研究経費・高専改革推進経費の採択を受け平成22年度に取組が完了した事業等については、プロジェクト部門において必ず発表してもらうこととなった。

個人研究部門のポスター発表に関して、口頭発表のほかにポスター発表も募集したが、今年度からの新しい取組みとしてハイブリッド方式によるポスター発表とした。この方式は、ポスター発表会場での発表に先立ち、全発表者が別会場で4分間のショートプレゼンテーションによる研究内容の概要を紹介した後、ポスター発表を行うもので、いくつかの学会で既に実施されているものである。

また、事前に投稿いただいた発表概要の評価と当日の聴講審査を行い、優秀発表を選定し教育・F D委員会委員長賞を授与することとした。

以下に日程と発表件数、受賞者数を示す。

1) 日程

①プロジェクト部門

8月23日(火) 15:10~18:15

8月24日(水) 8:50~11:10

②個人研究部門

8月24日(水) 13:00~11:10

8月25日(木) 8:50~11:55

2) 発表申込み件数

①プロジェクト部門：

73件(41校)

内訳：教育研究分野 61件

学生指導分野 9件

留学生・国際交流分野 3件

②個人研究部門(口頭発表)：

96件(43校)

内訳：教育研究分野 79件

学生指導分野 15件

留学生・国際交流分野 2件

③個人研究部門(ポスター発表)：

30件(21校)

内訳：教育研究分野 23件

学生指導分野 5件

留学生・国際交流分野 2件

総発表件数は、プロジェクト部門、個人研究部門併せて199件であったが、総じて教育研究分野の発表が多かった。

なお、高専機構が募集している高専改革推進経費採択事業については、機構の教育研究調査室が担当する高専改革推進経費事例発表会で発表することとなり、ポスター発表の形式で35事業(事例)の発表があった。



写真2 高専改革推進経費事例発表会(ポスター発表)

3) 優秀発表者の表彰

今年度より、個人研究部門については発表審査を行い、口頭発表においては優秀発表賞、ポスター発表においては優秀ポスター賞として教育・FD委員会委員長賞を授与することとなった。審査基準は、口頭発表においては①講演概要集の評価、②発表内容のわかりやすさ、③パワーポイントの良否、④発表・説明時間、⑤質疑の対応時間、とし、ポスター発表においては、①、⑤は同様に、②発表概要説明、③ポスター説明のわかりやす

さ、④ポスターの良否、とした。なお、表彰式はサプライズの意味もあって閉会式の中で行った。以下に詳細を示す。

①優秀発表賞：9件

内訳：教育研究分野 6件、

学生指導分野 3件、

留学生・国際交流分野 0件

②優秀ポスター賞：6件

内訳：教育研究分野 4件、

学生指導分野 1件、

留学生・国際交流分野 1件



写真3 閉会式及び表彰式

4) 参加者数

参加者数は、事前登録者数として、発表者・一般聴講者341名の参加登録があった。

2. ホームページの作成について

高専教育フォーラム開催に関して種々の案内の周知徹底、また業務の効率化などを図るために、インターネットの活用を駆使した。具体的には、フォーラムの案内や発表論文の電子投稿、また参加登録などをインターネットを介して行うためのシステムをフォーラム関係者へ提供し、そのサーバ並びに「電子投稿サイト」及び「広報サイト」のソフト開発を外注した。サーバの設置場所については、開発の利便性から、鹿児島高専(情報教育システムセンター内)に設置することとなった。詳細については、以降に高専フォーラム実行委員でもある堂込情報教育システムセンター長が報告されている。

3. アンケート結果について

参加者に行ったアンケート結果について紙面の関係で簡単ではあるが以下に示す。

プロジェクト部門の発表会については、「大変良かった」「良かった」との回答は81.5%(昨年プロジェクト研究集会比で+10.7%)、個人研究部門は「大変良かった」「良かった」との回答は75.3%(昨年比で-9.3%)となった。個人研究部門が昨年度より下がっているのに、何が問題であったのか原因分析し、より良い教育研究活動発表会に発展して行くことを願うものである。

最後に、以下にフォーラムの日程概要について示す。

今回の全国高専教育フォーラムの運営にあたり、審査委員や司会者など学外の多くの先生方のご協力、また、学内の多くの教職員のご協力を頂いたお陰で、成功裏のうちに終えられたことについて心から感謝の言葉を申し上げたいと思う。有り難うございました。

高専教育フォーラムの日程概要

日時	時間	研究発表会・講演会等	ワークショップ・研究会等
8月23日(火)	9:45 - 10:30	・開会式 ・平成22年度教員顕彰受賞式	
	11:00 - 12:00	・基調講演 千葉大学大学院 工学研究科研究科長 野口 博 氏	
	13:00 - 14:50	・教育研究活動発表会 (教員顕彰受賞者講演)	
	15:10 - 18:15	・教育研究活動発表会 (プロジェクト部門)	
8月24日(水)	8:50 - 11:10	・教育研究活動発表会 (ポスター口頭発表)	・ワークショップ (知財教育事例発表会) (9:00 - 12:00)
	13:00 - 16:05	・教育研究活動発表会 (個人研究部門)	・カリキュラム検討研究会 (13:00 - 16:00)
	16:20 - 17:30	・特別講演 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 園田 昭真 氏	
	18:00 - 19:30	・懇親会	
8月25日(木)	8:50 - 12:10	・教育研究活動発表会 (個人研究部門)	・一般科目研究会 (9:00 - 12:00)
	15:00 - 15:40	・閉会式・表彰	・ワークショップ (女子学生に関する キャリア教育) (13:00 - 14:40)



写真 4 特別講演

教育研究活動発表概要集の編集について

都市環境デザイン工学科 山内 正仁

平成23年2月25日(金)に開催された全国高専教育フォーラム第3回実行委員会において、教育研究発表会の申込要領(案)、発表概要執筆要領(案)が了承され、3月1日(火)より研究発表の申込受付が始まった。当初、発表申込期限を4月15日(金)としていたが、東北地方太平洋沖地震の影響等を考慮し、5月16日(月)まで延長された。また、これにより発表概要集提出期限も5月31日(火)から6月13日(月)に延長された。

今回のフォーラムでは、昨年度までの投稿論文の事前査読及び発表当日の審査という方式が廃止され、新たに教育研究活動発表会が新設され、

1) 学校としての組織的に取組んだ教育研究成果を発表するプロジェクト部門(口頭発表)、

2) 個人または教員における教育研究成果を発表する個人研究部門(口頭発表、ポスター発表)

が設けられた。また、各部門に

- a) 教育研究分野、
- b) 学生指導分野、
- c) 留学生・国際交流分野

の3分野を設け、発表申込者は分野を選択し、研究発表題目、キーワード(5語以内)、講演要旨(200字程度)等を申込入力フォームに記入後、電子投稿してもらうことになった。

講演概要集を編集するにあたり、まず、部門、分野ごとの申込件数を調査した。その結果、プロジェクト部門73件(教育研究分野61件、学生指導分野9件、留学生・国際交流分野3件)、個人研究部門96件(口頭発表:教育研究分野79件、学生指導分野15件、留学生・国際交流分野2件)、個人研究部門30件(ポスター発表:教育研究分野23件、学生指導分野5件、留学生・国際交流分野2件)計199件の申込があった。全体的に教育研究分野での発表が多く、留学生・国際交流分野での発表は僅かであった。このため、分野ごとにプログラムを編成することは難しく、申込時に記入して頂いたキーワード、講演概要を活用し、プログラム(案)を作成した。また、他のイベントでの発表等と重複しないように、プログラム編成を可能な限り行った。

発表概要は6月13日(月)までに電子投稿して頂いた。その後、プログラム編成が難しかった一部の発表については、内容を読み、近いと思われるセッションに組んだ。また9名の教員で執筆要領及び記入例にしたが

い、発表概要のフォーマットチェックを行った。前年度までの執筆要領とは全く異なる形式であったため、修正依頼を行うケースが多く、オンラインでの概要集及びプログラムの公開は7月22日（金）となった。

今後の課題として、講演概要集を作成するにあたり、発表概要のフォーマットの修正が多かったことから、平成23年度、概要集に掲載された概要を記入例として示し、さらに執筆要領についても誤りの多かった事項の説明文を見直す必要があると思う。また、プログラム編成においては、分野ごと応募件数の偏りが著しかったため、現在の3分野を見直すなど今後検討する必要があると思われる。

なお、今回初めてハイブリット形式でポスター発表を実施した。発表者は少なかったが、その場でディスカッションができると好評であったため、口頭発表とポスター発表のバランスを考えつつ、今後も継続した方が良いと思われる。



写真 1 教育研究活動発表会（口頭発表）

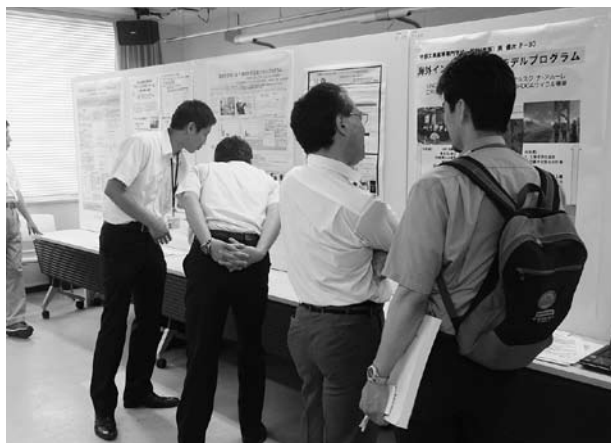


写真 2 教育研究活動発表会（ポスター発表）

Webを活用したフォーラムの 案内と電子申請について

情報教育システムセンター長 堂込 一秀

今年度の全国高専教育フォーラムから、すべての申込みと投稿を電子的に受け付けることになりました。そこで、本校の情報教育システムセンターでは、これまでの主幹校が個別に開設してきたフォーラム用のホームページと高専情報処理教育研究委員会のホームページを参考にしながら、新しい全国高専教育フォーラム用のWebサーバを構築しました。

このWebサーバ内には「広報サイト」と「電子投稿サイト」の二つが開設されています。二つのサイトに分割した理由は、運用開始までに日程の余裕があまりなかったことから、電子投稿機能の開発と並行してフォーラムの案内を行えるようにするためです。広報サイトは、主にフォーラムの案内を掲載するサイトです。使いやすさを考えて、定評のあるオープンソースのCMS（Content Management System）のひとつであるWordPressを使って構築しました。電子投稿サイトは、申込みと投稿を電子的に受け付けるためのサイトです。広報サイトと異なり、電子投稿サイトはプログラム開発が必要になるため、オープンソースのスクリプト言語（PHP）を用いてプログラム開発を行うことにしました。このプログラムは、参加受け、発表受け、発表概要の受けの機能に加えて、オンラインで発表概要を参照できる機能を備えています。具体的な開発作業は、本校で仕様を定めた上で、鹿児島市内にある東京コンピュータシステム（株）に委託しました。

本サーバのハードウェア構成とソフトウェア構成は、表1のとおりです。

稼働開始までのスケジュールは以下のとおりでした。

- | | |
|------------|-------------------------|
| 平成22年10月末 | 高専機構本部のサイトに告知ページを掲載 |
| 平成22年12月末 | 暫定版の「広報サイト」を稼働 |
| 平成23年2月22日 | ハードウェアを情報教育システムセンター内に設置 |
| 平成23年3月1日 | 本格運用開始 |

ハードウェアの設置時には、システム管理者の荒巻勇輔技術職員が基本ソフトウェアをインストールしました。また、その後の運用段階では、永田淳子総務係員が発表者との窓口になってサイト運営にあたり、その技術的な補佐をシステム管理者の前園正宜教員と清水勇喜技術職員が担当しました。

このWebサーバは、来年度以降も継続的に利用することを前提に構築したのですが、平成24年の4月から高

専機構本部の仮想サーバ内に移設されることになりました。移設にあたっては、過去の記録と将来の参考のために歴代の広報サイトをいつでも参照できるようにした上で、新しい主幹校用のサイトを運用することになっています。

表1 サーバのハードウェア構成とソフトウェア構成

ハードウェア構成		
項目	数量	備考
ラックマウントサーバ	2台(現用+予備)	富士通 PRIMERGY RX100
無停電電源	1台	
HUB	1台	
19インチラック	1台	最大16U収容可能
CPU切替機	1台	
外付けコンソール	1台	
ソフトウェア構成		
項目	名称	備考
OS	CentOS	
ウェブサーバ	Apache	
CMS	WordPress	広報サイトの 中核部分
データベース	MySQL	
スクリプト言語	PHP	
アプリケーション	外部委託	電子投稿サイトの 中核部分



写真1 全国高専教育フォーラムサーバ

高専教育フォーラムに参加して

一般教科文系 塚崎 香織

全国高専教育フォーラムには、司会補助者として参加いたしました。全国の高専からお見えになった先生方がプレゼンテーションをされる際のタイムキーパー（ストップウォッチで時間を計り、残り時間をベルでお知らせすること）が主な仕事でした。その関係で、担当会場で行われたいろいろな内容のプレゼンテーションを聞く機会に恵まれました。研究分野は異なっても、どの発表も大変興味深く、内容はもとより、発表の仕方なども大変参考になりました。

また、司会の先生方が気さくにお声をかけてくださり、普段はお会いすることがない他高専の先生方とお話できたことも、大変うれしい体験でした。特に、長野工業高等専門学校副校長の水野正志教授と高知工業高等専門学校電気情報工学科科長の今井一雅教授には、大変お世話になりました。水野先生は、以前、本校にも足をお運びになったことがあるとのことで、本校の教職員を何名も知っておられましたので、大変お話しやすく、さらに、長野高専のステキなエコバッグまでいただき、大変ありがたく存じます。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。水野先生は、ソフトウェアとハードウェアに通じ、「モデルベース開発の教育」という難しいご研究をされています。

今井先生の学校では、学内に無線LANが走っており、全学生がiPod touchを、全教員がiPad2を所有し、その情報端末を使って出席をとったり、英単語力を増進するアプリを開発して活用したりされています。iPod、iPhone、iPad2などは、学生の皆さんにとっても、私たち教職員にとっても、どんどん身近になってきているので、日常生活で使っている情報端末を学校生活にも活用することができたら、便利で勉強することが楽しくなるような印象を受けました。大変興味深い取り組みで、機会があれば、高知高専の英語の授業を実際に見てみたいと思いました。

今回、鹿児島で行われた高専教育フォーラムに参加し、全国の高専でどのような教育的な取り組みがなされているのかを勉強することができました。このような機会があれば、またぜひ参加したいと思います。

技術室が関わった業務状況

技術長 山下 俊一

今回のフォーラムは、複数の発表会が合同で開催され、本校は主幹校としてこの運営に全学挙げて取り組み、技術室は、各会場の設営および開閉会式会場、講演会場、研究発表会場のパソコンとマイク関連の機器の設置・運用についての業務を担当しました。この運営に対し、今回技術室員が行った主な業務状況を以下に記述します。

各会場の設営は、事務部の入念な事前準備もあり、割り振られた担当者で予定通り行われました。開催当日の発表データの受付業務は、発表会場の各階に設けた発表用のパソコンに発表者からデータを受け取る作業を行いました。複数の発表会場に多数の参加者があり、受け取り時の混雑が心配されましたが、担当職員の対応と、専攻科生の各持ち場を把握した行動により、支障無く行うことができました。この対応の中、発表者から持参したパソコンを使用したいとの申し出が数件あり、確認作業やデータ受付等の負担軽減を考慮すると、発表者持参のパソコンを使用した運用の方が良いように思われました。

マイクの運用では、事前チェックをしていたにもかかわらず、開会式でのハウリングの発生や、発表会場が違うマイクとの混線があったりして、その対応に追われる一幕もありました。この原因に、大学、本校、レンタル会社の機器が混同していたことや、本校外での開催のため準備が充分行えなかった事が挙げられます。事前に会場の職員を含めて、開催時と同じ状況での入念なチェックが必要であったことが反省点として残りました。

今回の業務を終え、いくつかの問題点はありましたが、各担当者の状況に応じた即時の対応により、大きな障害に発展せず、予定通り行うことができました。

今回のフォーラムは、実施に向けて早い段階から準備に携わった教員、事務部の多大な労力により成し得た成果であり、本校は様々な学校行事に対し教職員が一丸となって取り組む姿勢が伝統的に引き継がれていると感じますが、このことが今回の運営にも生かされていました。

また、教育研究発表会に技術室から3名が参加し、各々日々努力している教育研究内容を発表しました。その他の室員も運営業務の合間に講演や研究発表を聴講する機会があり、技術室職員の有意義な研修にもなりました。

自転車発電

一般教育科理系 野澤 宏大

平成22年の11月ごろから、私は自転車発電に取り組み始めました。そもそもの理由は単に「自前の電力があると面白いから」というだけなのですが、実際に出来上がってみると、これが思いのほか学生たちに好評でした。そんな折、全国高専教育フォーラムが鹿児島で開催されることを思い出し、「自転車発電機を用いたエネルギー教育」と題してポスター発表でもしてみましよう、と思った次第です。

私は今年度、電気電子工学科1年（1E）の担任となったので、クラスの特別活動の時間に3回ほど自転車発電機を取り入れました（①環境教育Ⅰ：池の水環境、②自転車発電Ⅰ：映画を観よう、③自転車発電Ⅱ：バッテリー運用）。フォーラム開催の時点では2回目まで実施しており、今回の発表の中心は、特別活動の途中経過紹介となりました。一生懸命に自転車を漕いでくれた1E学生諸君のおかげで、それなりのネタに仕上がりました。しかし、アンケートを取ったのは3回目終了後（10月）でしたので、残念ながらポスターに学生たちの意見を載せることはできませんでした。特別活動の予定は、フォーラムで発表するために組んでいるわけではないので、ある意味仕方ないことではありますが、もう少し欲を出してみても良かったかもしれません。

今回、全国高専教育フォーラムに参加したおかげで、同じような取り組みを行っている他高専の教職員と、有意義な情報交換を行うことができました。また、たまたま（？）ポスター会場に自転車発電機一式を置いていたので、これから発電に取り組みもうと考えている方に対しても、実物を示しながら助言することができました。「やはり高専。仲間は大勢いるものだ!」、と実感できたことが、自分としては一番の収穫だと思います。



写真1 自転車発電機



相手の立場に立って考える技術者

教務主事 植村眞一郎

鹿児島高専の学習教育目標については、折に触れて話していますので、学生の皆さんの大方はすらすらと語ることが出来ることでしょう。ここには4つの大きな目標が掲げられていますが、これは学生の皆さんにとっては「学習の目標」であり、教員に対しては「教育の目標」となります。そしてこれらの目標の最後は、全て「技術者」という言葉で終わっています。すなわち、本校の学習教育目標では、「人類の未来と自然との共存をデザインする」能力、「グローバルに活躍する」能力、「創造力豊かに開発する」能力、「相手の立場に立ってものを考える」能力などを学び身につける「技術者の育成と修得」をうたっているのです。



高専は大学と同じ範疇に入る高等教育機関です。したがって、高専では「生徒」と呼ばずに「学生」と呼んでいることは学生にも常常言っていることであり、また中学生や保護者向けの学校説明会においても申し上げております。辞書によると学生とは「大学等で学ぶ者」と記されています。では、生徒はというと「中学校・高等学校などで教えを受ける者」です。「学ぶ者」と「教えを受ける者」、ここには自ら行動する者と他から受けて行動する者との違いが読み取れます。学生は「自ら考えて行動する者」人であり、高専に学ぶ者はそのような者の集まりでなければなりません。

ところで今日、いずこの教育機関においても教育上の様々な問題を抱えています。もう随分前のことになりましたが、京都大学で不登校の学生が増えたため、教授陣が本人宅あるいは保護者宅を訪問してケアをしている状態が生じているというような記事を新聞で見たことがあります。国立大学のしかもトップクラスの大学で教授が家庭訪問のようなことを実施していることに大変驚きました。また、学生の不祥事事件についても多くの報道を目にする機会がこれまで何度か有りました。このようなマスコミに報道されるような件は特別としても、大学や高専においては、日々の教育の中で学生の学習面や生活面で数多くの問題を抱えており、それは残念ながら本校においても同様な状況です。今年度本校で特に問題となった学習面について触れ、それらの対策や課題について述べたいと思います。

学習面における問題点のうち、授業中における授業態度で、特に懸案となったのが携帯電話に関することです。本校では各試験が終わり成績が出たあとに全教員による成績会議が開催され、そこで担任のクラス報告や科目担当者によるクラスの状況あるいは問題となる学生の状況等が報告され、これらの状況を共有しています。その中で授業中に携帯電話をいじっている学生が多いとの報告が何件もありました。授業に集中しない典型的な例です。別の観点から言うと、学生に理解させようと一生懸命説明される先生の話を見無視し、当の学生は失礼な振る舞いをしている状況で、授業中の私語も同様です。もし逆の立場で人の話すを見無視するように振る舞われたら、その人はきっと不愉快に思うに違いありません。

携帯電話の件については、学校の方針としてやめさせる指導を徹底することとしました。先生方の共通認識を持ちながら、学生にはそのことを周知し、場合によっては携帯電話を没収することもやぶさかでないことも確認しました。授業中携帯電話を無用にいじり先生の話を見聞かないことが良いことかどうか、学生は当然わかっている筈です。あとは本人がどのように考え、判断し決断するかです。また、試験中の不正行為もありました。不正行為をした学生の全員が「ばれないと思っていた」と、「勉強していなかった」と述べています。不正行為をして良いかどうかは当然判断できる年齢で、あとはどう行動すべきか決断することです。「ばれないならば何をしてもいい」という考えを学生が改めないまま、また学生に改めさせないまま技術者の卵として社会に送り出すことは学校教育において看過できないことです。知識・技術の修得だけでなく、人間としてのモラルにおいてもしっかり教育しまた修得する責務があります。

本校の学習教育目標の4番目は、相手への思いやりや理解に関することで、本校独自のものととても素晴らしい目標だと思います。鹿児島高専は技術教育と同時に全人教育をうたっていますが、バランス感覚に優れた人材を育てることは、重要なことであることは言うまでもありません。「技術者の社会的な責任を理解することができ」、「様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる」とは、社会で活躍しようとする者が肝に銘じておくべきことであり、また人間として身につけておかなければならないモラルだと思います。特に私たちの生活に密接に関わるものを生み出す技術者は、誇りを持ちながらも社会的な責任があることを自覚しつつユーザーの視点にも立って、価値ある良いものを創造すると言う気概を持って活躍して欲しいと期待します。

平成23年度 一日体験入学

教務主事補 山田 真義

今年度の一日体験入学も、一昨年度の口蹄疫の影響で日程変更した昨年度と同時期の8月7日（日）に開催されました。真夏の暑い時期でありましたが、中学校訪問などによる一日体験入学の案内等の効果もあり、昨年度と比較すると約50名、一昨年度と比較すると約110名多い517名（うち女子66名）の中学生が一日体験入学に参加しました。各学科別の参加人数は、M科88（1）名、E科74（3）名、S科152（8）名、I科109（24）名、C科92（30）名でした（括弧内は女子の人数）。女子の参加人数割合は、約12%でした。

毎年、本科の5年生が体験実習の準備から実施、展示テーマの準備・後片付けと一生懸命がんばってくれています。テーマによっては専攻科生や低学年の学生なども積極的に一日体験入学の手伝いをしていていました。内容としては、体験実習の他に、学校説明会、学科説明会、展示テーマの見学、学寮での昼食、進学相談、奨学金・授業料免除相談、保護者・引率者のための学校説明会などがありました。体験実習では、高専での授業内容や実験・実習を元に作られているので、参加した中学生は高専でどのようなことを学んで行くのかを肌で感じることができたと思います。この体験実習は参加した中学生に大変好評です。

また、寮食堂での昼食についても好評が得られています。今年度は、既に閉寮しておりましたが、寮長を筆頭に寮生会学生有志（女子寮生含む）が食事指導をしてくれたおかげで500名を越える中学生や保護者が混乱することなく食事することができたと思います。

一日体験入学の手伝いをしてくれた学生に感謝しております。また、後援会にも大変お世話になり、感謝しております。

来年度も多くの中学生、保護者に一日体験入学に参加して頂いて、鹿児島高専のことを知って頂けたらと思います。また、在校生やOBの保護者の皆様方からも近所の中学生や保護者の方へ一日体験入学のこと、鹿児島高専のことをお伝え頂ければと思います。



写真1 学科別学校説明会の様子



写真2 体験実習の様子1



写真3 体験実習の様子2

平成23年度 きりしまチャレンジャー実施報告

教務主事補 田中 智樹

平成23年12月17日（土）、霧島市教育委員会との連携事業「きりしまチャレンジャー」の一環として「工業技術体験in鹿児島高専」と題し実施されました。77名の小中学生が鹿児島高専を訪れ、用意された7つのテーマから1つを選択して、普段学校の授業ではなかなか体験できない実験実習に臨みました。

小中学生を対象とした体験学習を通じての市教委との連携はH20年度から始まり、今年度で4回目となります。この活動の最大の特徴は小中学生を鹿児島高専に招待し、高専生が日頃利用している教室や実験室で実施するという点でしょう。初めて見て触る機材に興味津々の参加者の様子が印象的でした。

また今年は保護者の方が多くお見えになり、子供たちの実習風景を見学していました。保護者の見学は昨年まではありませんでしたが、先生方のご対応により教室内に席を設けていただきました。お陰をもちまして保護者の方々も大変満足された様子でした。

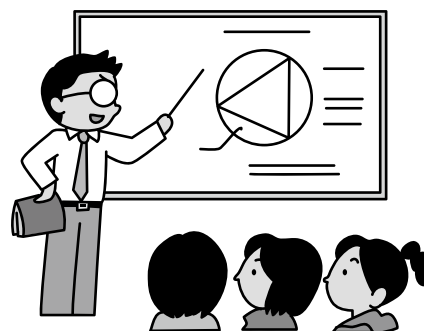
今年度は募集定員80名のところ144名の応募があり、小中学生の関心の高さが窺えます。これも実習担当の先生方や職員、学生の皆様、そして霧島市教育委員会の皆様のご協力の賜物と感謝しております。安全に配慮し、ケガなく無事故で終えられたことにつきましても、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

以下、今年度実施テーマと概要です。

- ◆ テーマ① 金属組織を顕微鏡で見てみよう
金属表面を研磨・腐食し、金属組織の違いを顕微鏡で見る。
- ◆ テーマ② 風に向かって走る車をつくろう
風の力を取り出して車を走らせる方法を学び、ウィンドカーを作り、走らせます。
- ◆ テーマ③ 作って体験エレクトロニクス
タッチセンサーからLED点滅機までいろんな機能の電子回路を作ります。
- ◆ テーマ④ トレペの芯でラジオを作る
ラジオを作って、電波と電子回路のすごさを体感！
- ◆ テーマ⑤ フローチャートでライントレーサーを動かそう
フローチャートでプログラミングし、ライントレーサーを動かしてみよう。
- ◆ テーマ⑥ 簡易ほのぼのゲームを試してみよう

情報工学科1年生が10年間に試作した46本の簡易ほのぼのゲームに挑戦します。

- ◆ テーマ⑦ 折り紙建築でつくる世界遺産
一枚の紙に切り込みを入れ、山折り・谷折りを組み合わせ、折紙の立体的な世界遺産を作成します。



大島地区離島保護者懇談会及び 離島中学校訪問報告

教務主事補 鎌田 清孝

平成23年度奄美大島地区離島保護者懇談会は、11月22日（火）に徳之島亀津で行われた徳之島会場および翌日23日（水）に奄美大島名瀬で行われた奄美大島会場の2か所で開催した。懇談会には、学校を代表して私と電子制御工学科の岸田教員（寮務委員）、また後援会を代表して長谷川副会長（徳之島会場）が出席した。会場でそれぞれ約10名の保護者の皆さんが出席され、なかには2時間以上かけて遠方からご夫婦で来られた方もおられ保護者の熱意を感じた。

懇談会では、学校全体（教務関係、寮関係）の話をした後、個別面談を行った。事前に各担任から頂いた学生に関する所見および学生本人との面談資料をもとに、学生の成績・進級に関することや、生活の様子などの連絡や意見交換を行い大変有意義な時間を過ごすことが出来た。

懇談会後は保護者の方および卒業生との懇親会もあり、懇談会とは違ったざっくばらんな雰囲気のもとで学校の事、学生の中学生時代の話、家庭での話を聞くことができた。保護者からは、「鹿児島高専は素晴らしい学校なのにまだまだ離島においては認知度が低い。先生方の中学校訪問の努力は認識しているが、まだまだ鹿児島高専のPR活動が足りない」と言う叱咤激励の言葉も頂いた。

また、保護者懇談会と合わせて、21日（月）から25日（金）にかけて中学校訪問も実施し、本校のPR活動を行った。今回は徳之島地区では北、東天城、天城、大田布、伊仙、面縄、亀津、井之川の8校の中学校を、奄美大島地区では住用、古仁屋、名柄、田検、久志、朝日、大和、名瀬、小宿、金久、笠利、赤木名、赤徳、龍南、龍北の15校の中学校を訪問した。訪問の際、沖縄高専が年に3回訪問し学校のPRをしているということをお聞きし、保護者の方がご指摘したとおり、まだまだ本校のPR不足だということを痛感した。今後も奄美大島地区はじめ県内各地域の多くの中学生が、鹿児島高専に是非入学したい・学びたいという気持ちになるように特色のあるまた、魅力溢れる学校作りを進めていかなければならないと思う。

学生支援研修会に参加して

一般教科文系 塚崎 香織

平成17年4月に「発達障害者支援法」が施行されたことにより、近年、いわゆる、発達障害が注目を集めるようになってきました。身体が不自由な人がバリアフリー施設の設置などの支援を受けるように、発達障害がある人にも相応の支援をしようという国全体の動きです。学校教育の現場においても、その重要性を認識し、きちんとした支援をしていこうという動きがあります。

そのような流れで、国ではいろいろなセミナーを開催して啓発活動をしています。平成23年12月8日～9日に、日本学生支援機構主催の「平成23年度障害学生修学支援教職員研修会」に参加してきました。（日本学生支援機構とは、学生のみなさんがお世話になっている奨学金を扱う団体です。）

研修会では、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱・虚弱、発達障害の人が、それぞれ、学校生活において、具体的にどのような困難さを感じているのか、また、そのような人が高等教育機関（大学・短大・高等専門学校）に入学した際に、どのような支援を必要としているのかについて学びました。

聴覚障害者のためには、授業を一緒に受けてノートを取る手伝いをしたり、グループで話す時には手話による通訳をしたりする支援があります。視覚障害者のためには、授業の支援に加えて、視覚障害者が歩いて危なくないように、キャンパス内に点字ブロックを設置する必要があります。肢体不自由者のためには、授業の支援に加えて、移動の妨げにならないようなバリアフリーの施設が必要となってきます。

発達障害の人は、ある特定の分野が苦手とされます。例えば、文字の認識が苦手な人、文字を書くのが苦手な人、授業の内容を聞きながらノートを書き取ることが苦手な人など、個人によってケースバイケースです。従って、個々が必要としている支援もさまざまであると考えられます。

現在、本校においても、今後そのような学生が入学してきた時のために、学校全体としてどのような支援ができるのかについて準備を進めているところです。

工場見学旅行を終えて

機械工学科 4 年 西村 隼人

高専の最大イベントである「高専祭」が終わって間もなく、4年生は工場見学旅行に行ってきました。私たち機械工学科4年生は、例年通り九州各地の工場を周り、今年は「YKKAP 九州工場」、「サントリー熊本工場」、「三菱重工長崎造船所」、「JR 西日本博多総合車両所」、「新日本製鐵八幡製鉄所」、「TOTO」6社7工場を見学しました。その中でも、私の印象に残った工場を紹介したいと思います。

三菱重工長崎造船所では、造船所と火力発電用のタービン工場を見学しました。工場が広く、バス移動をしながらの見学でした。建造されている船や、製造現場を実際に見て、規模の大きさに驚きました。また、長崎造船所には鹿児島高専のOBの方が勤めておられて、一般の工場見学では見せてもらえない現場も見学できました。新日本製鐵八幡製鉄所では、鉄を溶融させる現場や、加熱した鉄を圧延し、延ばして薄板に加工する現場を見学しました。鋼の熱処理や圧延など、材料学や機械工作法の授業で習った加工を実際に見ることができて、非常に勉強になりました。

その他の工場にも、独自の生産方法や会社の魅力があり、有意義な工場見学をすることができました。鹿児島高専のOBの先輩から話を聞ける機会もあり、これからの就職活動にとても役に立つ話を聞けることができました。

現在、私は就職について考えなければならない時期ですが、高専祭の中心となるため、なかなか就活モードに切り替えることができませんでした。しかし今回の工場見学を終え、クラス全体が就職について真剣に向き合うようになった気がします。今鹿児島高専で勉強している内容は、将来どのように役に立つのか、各教科の内容をどういう職場で使うのか、全くわかりませんでした。しかし、実際に工場を見学し、OBの方の話を聞き、今後私たちがどのような仕事をするのか、そのために今やるべきことが何かを知ることができました。就職活動を控える私たち4年生にとって、この経験はすごく大きいものだと思います。

今年も工場見学旅行に行くことができ、このような経験ができたのも、先生方、後援会、保護者の方々の協力があったからです。ありがとうございました。



写真1 偶然にも三菱重工で建造されたダイヤモンドプリンセスが長崎国際港に入港していました



写真2 JR西日本博多総合車両で新幹線整備を見学



写真3 三菱重工業長崎造船香焼ドックで

電気電子工学科工場見学旅行

電気電子工学科 4 年 河津 航大

1. 目的

工場見学旅行は、将来、私たちが携わる日本の工業技術の現状についての見識を深め、私たちの将来の進路決定の参考にするために行われるものである。

2. 11月7日（月）

◆ AE パワーシステムズ見学

・初めての工場見学の最初の企業は富士電機や日立製作所、明電舎の3社による事業提携により誕生したAEパワーシステムズでした。この企業では電力用変圧器をメインとしてつくっている企業ということもあり溶接や機械工作など、どちらかといえば機械を中心に見学しました。私が特に気になったのは技術の向上や作業の短縮化などに力を入れているところでした。たとえば変圧器の核ともいえる巻線作業などの精密な作業では事故が起きないように細心に注意を払い作業に従事していました。変圧器自体はとても大きなものなのですが細部にも注意して作業をすることが大事だということを思いました。

3. 11月8日（火）

◆ 富士電機東京工場見学

・今回は、先日見学をした企業の東京事業所を見学しました。この企業は電力系統からセンサや計測機器、電子デバイスなど多種多様な方面に手を広げている企業です。ここでは、地熱発電や太陽光発電などの電力関係や他の企業や工場から送られてくる製品の修理や保守などについて見せてもらいました。ここでは、防塵のためにいろいろな工夫をこらしていたり、どこへ行くにも身分証明をするカードがなければドアを開けなかったりと小さなことに気をつけていることがわかりました。また、情報を伝達するために白板やマグネットを用いて情報に相違がないようにしているなどしていました。やはり、情報は重要で大切なものだと思います。

4. 11月9日（水）

◆ 東芝科学館見学

・この科学館は、名前の通り東芝の科学館です。東芝の発足から現代にいたるまで、過去に制作した製品から最近使われている新技術まですべてを知ることができる科学館でした。テレビなどで使われている3Dの技術や顔や体などを認識し映像にトレースする技術などとても楽しめる内容でした。中でも気になったのは、Wheelie（ウィリー）と呼ばれる二輪で姿勢制御しながら走行するロボットでした。障害物に当たることなく、また坂道などの水平ではない面でも走行することが出来ていたのですごいといえませんでした。このようなロボットを将来作れるようになりたいと思いました。

◆ 日産自動車横浜工場見学

・次に見学したのは日産自動車の工場でした。男子ならみんなが興味あるであろう車のフレームやエンジンなどの生産工場でした。ここでは、実際のエンジンの組立などとても見ていて心をくすぐられる見学となりました。

特に人件費削減や時間短縮のために導入したであろう自動ロボットの正確で精密でなおかつ繊細な作業や、匠と呼ばれる人たちがひとつのエンジンにつき一人が最初から最後までを担当するまさに職人技ともいえる作業はどちらも対照的ですがこのような制作方法が高品質で大量生産を可能にしているのだと思いました。

5. 11月10日（木）

◆ サントリー武蔵野工場

・ここでは、プレミアムモルツの美味しい作り方について見学しました。このような食品関係の工場ではやはり自動化のための機械が大活躍していました。私たちに安全でおいしい飲料水を提供するためにいろいろな工夫を凝らしていることがわかりました。麦とホップの選定から、おいしい水の選定など色々と突き詰められて出来たのだと思いました。また、武蔵野工場では、ゴミの分別についてかなり気を配っていることがわかりました。やはり食品会社などは清潔さにも気を配っているのだと思いました。

◆ 東京副都心見学

・東京副都心見学では、各自ホテルからの自由行動となりました。自分たちはメトロに乗って浅草へ行きました。浅草では雷門や浅草寺など有名な観光場所で自分たちも観光や土産物を買に行きました。観光名所であるということからなのか平日でも人が多く商店街や出店で店が賑わっていました。少し気になったのはこの店の人も英語等の外国語を使い言葉巧みにお土産を売りさばっていたのでどこに住んでいても外国語というのは重要なのだと再確認しました。

6. 工場見学の感想と今後の目標

・今回、4泊5日の工場見学を過ごしてみて、第一の感想は私にとって、とても充実した工場見学になったと思いました。変圧器や発電機、自動車などの生産工場から食品関係の会社など日頃の生活に深く関わっているモノの成り立ちやそれに対する企業のこだわりなど普段生活しては気づけないようなことに気づけたのではないかと思います。今後の目標としては、私はモノづくりということに興味があるので生産関係や開発に携われるような仕事に就きたいと考えています。そこで、今回の工場見学で学んだ、小さなことから気を付けて些細なことをないがしろにしないように気を付けていきたいと思います。どんなものでも一つではなく小さなモノの積み重なりであると私は思っています。生産や開発に携わるにはそのようなことに気を配るべきではないかと私は思いました。



写真1 浅草雷門

シンガポール工場見学旅行

電子制御工学科4年 小山 智樹

11月7日昼過ぎ、私達、電子制御工学科はシンガポールへ向け鹿児島空港を出発しました。

上海経由で、シンガポールに到着したのは現地時刻の午後9時頃、時差は日本より1時間遅れていました。そこからバスでホテルに向かい部屋に荷物を置いて、ホテルの周辺を友達と散策しました。

まず、バスでホテルに向かう途中に見かけたセブンイレブンに行き、飲料水を買いました。ジュースなどよりも水がとても高いことに驚きました。

その後も歩きまわって、たくさんある屋台の中の一つに入り、夜食を食べました。300円でとても安く、よかったです。平日にも関わらず夜の12時を過ぎても、屋台は多くの人でいっぱい日本ではなかなか見られない光景でした。

朝、ホテルで朝食をとり、一つ目の工場のPOKKAへ向かいました。その工場は、清料飲料水を作っていて、工場の中は、ほとんど機械で人はあまりいませんでした。工場見学後、そこで働いている日本人の方の話を聞きました。その中で、私が印象に残っていることをいくつか挙げると、

- ・POKKAで作っているお茶は、ハーブティーに近い味で砂糖を入れている。
- ・シンガポールでは人種が多いので、飲料水のパッケージにはたくさんの言語が書かれている。
- ・ほとんどの水はマレーシアから買っている。
- ・人件費は安い、言ったことをやってくれない。などがあります。

次にNewaterVisitor Centerに向かいました。そこは、汚水を浄化し飲み水にしている工場でした。説明が全て英語だったので、残念ながらあまり理解できませんでした。

その日の夕食はディナークルーズでした。ほとんどの料理は美味しかったです、口に合わないものもありました。また食後、甲板から見たシンガポールの夜景は最高に綺麗でした。友人らは「今度は彼女を連れて、この夜景を見に来たい。」と言っていました。

翌日は自由行動で、私は友達とUSS（ユニバーサルスタジオ・シンガポール）に行きました。しかし、ホテルからUSSに向かう途中、行き方が分からず、同じUSSに向かう一般のインドネシア人の家族に引率してもらいました。あまり英語が話せなかったのでジェスチャーを駆使してなんとか付いて行くことができました。いろいろと迷惑を掛けてしまいましたが、その方々はとても親切でした。また、このような交流ができ、貴重な経験ができたのでよかったです。USSはセントーサ島という埋立地でできた島にあります。USSではアトラクションをたくさん乗り回ることができ、Water Showも観られて楽しむことができました。

その日の夕方は「SINGAPORE FLYER」に乗りました。それは、各カプセルの定員数28名で世界最大級の観覧車です。チケットは29.5シンガポールドル（約2000円）で少し高かったですが、シンガポールの夜景を見て感動しました。言葉では言い表せないほど綺麗でした。是非、シンガポールに行く機会がありましたら一度乗ってみてください。

そして、シンガポール最終日、午前中にパナソニック・エレクトロニクス・デバイスを見学しました。名前の通り日本の会社でICを製作しているところなのです。そこに勤めている日本人の方からシンガポールの生活について教えていただきました。

- ・国が生活に必要なものは安く、贅沢なもの（車など）には高い税金をかけている。
- ・初めの頃は言葉の壁があって大変だった。
- ・シンガポール人はギャンブルをするのにお金を払わないといけないが、外国人は自由に参加できる。
- ・夜に女性が一人で出歩いていても大丈夫で、治安がとても良い。

など、お話を聞いていて改めて素晴らしい国だなと思いました。

夕方にシンガポール空港を出発し、上海に向かいました。そこで一泊して、11月11日に鹿児島に帰ってきました。

私がこの工場見学旅行を通して感じたこと、また、シンガポールという国に行ってみて思ったことは、一つに英語の重要性で、ある程度はどうか相手に伝えることはできますが、とても苦勞しました。現地の方々は親切な人ばかりで、もっと英語力をつけて軽い会話でもできれば、もっと楽しかったなと思います。次に、日本では、蛇口をひねれば飲める水も、わざわざ買わないといけないのが分かってはいたのですが、お話を聞いたり、実際に生活をして日本は恵まれているなど改めて感じました。そして、シンガポールは、多くの人種の人々が一緒に生活していることが素晴らしいと思いました。しかも、元気な国で、夜でも毎日何かしら盛り上がっていました。周りは大きな建物ばかりで、夜景も綺麗、どんどん新しい建物を建築していて、とても活気のある国だなと思いました。外国に行くことで、日本とは違ったその国の文化や独特な雰囲気、また、いつもと違う観点で自国のことも知ることができてよかったです。

また機会があれば、次は語学力を身につけ、シンガポールや、また別の国にも行ってみたいです。

最後に、旅費を捻出してくれた両親と今回お世話になりました関係の皆様へ心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



写真1 ポッカ工場の見学



写真2 Newater Visitor Centerの見学



写真3 パナソニックエレクトロニックデバイス見学

工場見学を終えて

情報工学科4年 濱元 真太郎

4年生は、毎年高専祭が終わってすぐに、工場見学旅行を行います。僕たちは去年の11月7日から11日にかけて、色々な企業や工場、研究所を見て回りました。僕のいる情報工学科は関西方面に行き、理化学研究所やNTT西日本・朝日新聞社などを見学することで、その企業が今までどのような功績を残してきたのか、それぞれの研究所が今どのようなことを研究し、どのような分野で役立てようとしているのかを知ることができました。

また、実際に働いている人達を見て、自分たちの将来像を感じることができたと思っています。

特に印象に残ったのは理化学研究所と京セラコミュニケーションシステムです。理化学研究所計算科学機構では、世界最高性能を誇るスーパーコンピュータの『京』を見ることが出来ました。『京』は、浮動小数点数演算を1秒間に約1京回(10ペタフロップス)の計算ができる京速コンピュータで、CPUも8万CPU以上、総メモリ数も1ペタバイト以上ある世界一のコンピュータです。実際に『京』は去年の6月と11月に計算速度の世界ランキング「TOP500」で1位を取っています。

技術者になるべく勉強している以上、このようなハイスペック・コンピュータの開発・研究の現場に対して強い憧れを抱きました。

京セラコミュニケーションシステム(以下KCCS)では、企業がどのような人材をほしいと思うかという話を熱心に聞いていただき、自分がこれからの1年間何に励み、どのような心構えで勉強していくべきかを深く考えさせられました。また、「ここが好きだと胸を張って言える

ような会社に入ろう」ということを言われ、それが強く印象に残りました。また、言外に「自分の心構え1つで会社に対する自分の気持ちと姿勢が変わるのだ」と言われたように感じ、自分も技術者としての考え方・生き方を確固たるものにし、そのように会社に対しての誇りを持てるようになりたいと思いました。

他にもたくさんの企業を見学しました。それぞれに対して学ぶこと・得ることが非常に多かったです。このようなことを体験できて本当に良かったと思います。5年生では、工場見学旅行での経験から得たことや感じたことを生かし、自分の進む道を選べたらと思います。



理化学研究所計算科学機構にて

工場見学研修旅行で学んだこと

土木工学科4年 白石 貴大・草原 大貴

平成23年11月7日から11月11日まで工場見学研修旅行が実施されました。まず、初日は鹿児島空港から神戸空港に飛び、そこから「新日本製鉄広畑製鉄所」へ見学に行きました。工場内に入った瞬間、ものすごい熱気が襲いました。目の前で温められている真っ赤になった鉄が次々に転がって行きました。工程の中盤あたりで、鉄を冷やすために水をかけた瞬間、ものすごい水蒸気が噴きあがりました。高速で生産されていく鉄を見て、短時間のうちに大量生産される鉄の多さに驚きを隠しきれませんでした。

次の日には「明石海峡大橋」を見学しました。その長さは約4キロメートルで、ケーブルに使われている1本1本をつなぎ合わせるとなんと地球を7周できる量だそうです。現場ではアンカレイジの中から階段を上がり、作業用の通路を歩かせてもらいました。しかし、この通

路、下がすかすかで丸見え。高所恐怖症ではないですが、ひやひやしました。世界最大ということで改めて日本の技術力の高さに感心させられました。

その後は「阪神淡路大震災記念公園」に行きました。ここでは震災後の断層や実際被害に遭った民家など、当時のまま残された光景が広がっていて、震災の恐ろしさを思い知りました。

2日目の最後は、「㈱大林組」に向かい、会社概要や仕事内容の説明を聞かせてもらいました。スーパーゼネコンのシステム、東京スカイツリーの設計製作等、自分達の学んでいる土木技術が企業でどのように活かされているのか知ることができました。また、卒業生の方への質問会が設けられ、楽しい雰囲気の中で、就職活動の話や、高専生時代の話まで様々なことを知ることができました。

3日目の最初は、「㈱竹中土木本店の宅地造成工事の現場」へ行きました。様々な重機が実際に動いている様子や、それを動かす人を見て、実際の現場工事の雰囲気を肌で感じるすることができました。

その後、「㈱横河ブリッジ大阪工場」へ向かい、部材を現場で組み立てる前の仮組み立ての作業を見学いたしました。専用の大きい機械で出来上がった部材をひとつひとつ組み立てていました。仮組み立ての段階なので橋の仕組みが大層分かりやすかったです。最後に「JR西日本㈱本社」、阪和保線区へ行きました。JR西日本の本校先輩の説明では、とにかく安全を重要視していることが伝わり、また「事故が起こってから対策を立てるのではなく、起こる前に対策を立て」という方針があることを知り、とても納得でき、これからの生活の中でも役に立ちそうな話を聞くことができました。

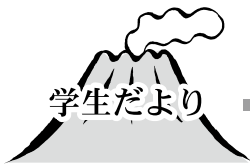
4日目、5日目は、「自主研修」で、大阪の食べ物を食べ、そして笑い、遊び、友達と楽しい時間を過ごすことができました。

今回の研修旅行はどの日も充実していて、とても楽しく生涯の為になるものでした。

研修旅行引率の先生方、行かせてくれた親、その他にも関わってくれた全ての人に感謝し御礼のご報告といたしたいと思います。



㈱竹中土木本店の宅地造成工事現場



本校生としての規範事項

学生主事 あべ松 伸二

新学生委員会がスタートして、早や1年が過ぎようとしています。ちょっと振り返ってみれば、昨年度3月11日に発生した東北関東沖地震による被災地の復旧・復興を願って、新旧の学生会が合同で義援金活動を行ない、全額を高専機構本部に送りました。正に「相手の立場に立ってものを考える」行動の表れであり、学生諸君が自主的に行なった、とても素晴らしい活動であったと思います。4月には新入生を歓迎し、多方面でオリエンテーション等が行われました。5、6、7、8月には様々な地区大会、県大会、対都城高専親善試合、九州・沖縄地区体育大会、そして英語弁論大会等が行われ、多くのクラブが素晴らしい活躍をしました。8月にはいくつかのクラブが全国高専大会に出場し、ここでも見事な成績を収めました。10月には、ロボコン九州沖縄地区大会が北九州で開催され、決勝戦は本校同士の対決であったということも特筆すべきです。そして10月一杯は高専祭準備のために放課後遅くまで、多くの学生が応援団練習、やぐら絵に取組みました。みんなの安全面を守るために、ほとんどすべての先生方が校内の巡視をしてくださいました。ご協力に深く感謝致しております。高専祭は、正に全学を挙げて取り組むメイン・イベントです。ところが、何故だろう？これまでに様々な問題が発生しました。器物損壊、盗難事件、交通違反・事故、地域住民の方々からの苦情電話ありと、枚挙にいとまがありません。これらの不祥事そしてその対応について少々言及します。

- ① 器物損壊：校舎の壁、男子トイレの引戸が壊されたり、雨傘が折り曲げられたり、自転車やバイクの備品が壊されたりしたというものです。現場写真をクラスに掲示してもらい、学生に「モラルの向上」を訴えました。頻繁に壊される設備については、一定期間使用禁止にしております。
- ② 盗難事件：自転車、物品、現金が本校駐輪場や教室内で盗られたというものです。これについては、自分のことは自分で守るという自己管理だけでは指導が不十分であり、むしろ盗る者に対して重い犯罪行為であるということを知らせるポスターを各クラスに掲示してもらい、注意喚起をしました。自転車には、二重ロックをすることが必要です。盗難される場合には、鍵がしっかりかけられていない自転車が大半でした。貴重品や現金については、誰もいない教室等に置いたままにしないこと、大金は持っていないことも心得ておく必要があります。

③ 交通違反・事故：交通事故については、自転車対バイクや自動車、バイク対自動車、自動車対自動車など様々なケース(11件)がありました。ほとんどが、前方不注意による接触(3件)、追突・衝突事故(5件)に因るものでした。万一事故に遭った場合には、相手側と話をし「示談にしよう。」というように即断即決せず、まず保護者や警察に連絡するということが肝心です。相手の口車に乗ってしまい、不利な状況に追い込まれるかもしれないからです。上記の交通違反とは「学生心得」に示されている使用車両に関する事項に違反しているというものです。朝の正門指導や校外指導の際に、半ヘルメットで登校(8件)したり、通学不許可車両(16件)を学校周辺の空き地に迷惑駐車(14件)をしたりして、指導を受ける学生が後を絶ちません。基本的な交通ルールを守る・守らせるという認識のもと、お互いの安全確保に努めるべく、今後厳格な対策を行なう必要があります。

④ 地域住民からの苦情：4月初、くわえタバコをしながら自転車で登校したり、近くの病院駐車場に自動車やバイクを無断駐車したり、JR通学生で、友人のために席を占有し他の乗客に譲ろうとしない、そして空き地で喫煙した後、吸い殻やゴミを投げ捨てたりしているというものです。周辺地域の巡回指導については、警察にも協力依頼しておりますが、学生委員会としても、更に強化しなければいけません。寮務委員会と連携して交通指導等を行なうことも考えています。

上記の案件は、いずれも学生便覧(7～10ページ)の「学生心得」に反する行為であり、「相手の立場に立ってものを考える」という教育目標からも逸脱したものです。「学生心得」は、諸君が鹿児島高専生としての自覚を持ち、学生生活を健全に送るために築き上げられたものです。いつも「相手の立場に立ってものを考える」という姿勢を礎にして「学生心得」を遵守することこそが本校生としての規範に通じるものと確信します。学生が充実した、意義ある学生生活を送れるように学生を補助し導くことが学生委員会の務めだと思いますが、学生委員会だけでは微力です。保護者・学生・教職員が一体となって、協力していかなければなりません。学生諸君が学生生活において留意しておくべきことはまだまだ山積しております。今後、学生委員会で検討し、整理した上で周知できるように致します。

今後も皆様方からご教示を頂きながら、邁進しようと存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

学生会長を終えて…

機械工学科 4年 飛田 憲吾

「よし！今年は学生会長として今まで以上に高専を盛り上げていこう！」と志高く会長の役職に就いてから早一年が過ぎ、私も引退の時期がやってきた。

私は二年生の時から学生会に入らせていただき、会計という役職を与えられた。学生会の先輩達は仕事ができる人ばかりであこがれを抱くほどかっこよかったのを今でも覚えている。そんな中で私は先輩の指導を受けながらやっとかっとな仕事をこなしていた。会計は他の局に比べて仕事が多い。しかし、私は一度もしんどいと感じたことはなかった。

それほどに学生会のメンバーは仲が良く居心地がよかった。学生会に入ってよかったとつくづく思う。そうして一年また一年と時を重ねるごとに後輩が増えてゆき、私達が四年生になりついに先頭に立って学生会を引っ張ることになった。私は学生会に入ったときから会長になりたいと強く思っていた。学生時代に何か残したい、そして大好きな母校鹿児島高専をもっともっと盛り上げていきたい、そういう思いで選挙に立候補し会長をさせていただくことになった。

最初は若気の至りでみんなに認めてもらいたくて何でも一人でこなそうと必死だった。それが間違いだと気付いたのは一、二ヶ月過ぎたころだった。私は一人じゃ何も出来ていなかった。真剣に私達の意見に耳を傾けてくれる学生主事をはじめとした担当の先生方、後押ししてくれる優しい先輩方、共に学生会を引っ張っていく頼れる四年生役員、しっかり仕事をこなす有能な後輩役員達。みんなが一つになって成り立っていた。何だかすごく気が楽になった。無理して頑張るのではなく、ありのままでいようと思った。そして学生会という輪を大事にして学生のみんなで鹿児島高専の色を深めていこうと決意した。そこから本当の意味の会長になれたのだと思う。

仕事は主に行事の際の挨拶などがある。何回やっても緊張するがみんなの温かい視線のおかげで自由な意見を言うことが出来た。正直すごく楽しかった。

私は会長の仕事を通して人生の中で一番成長出来たのではないと思う。多くの人に助けられ支えられ感謝した。また多くの人に頭を下げた。こんなに「ありがとう」「すいません」の単語を使った期間は人生初であると思う。私が今こうして無事仕事を終えることができたのはみんなのおかげである。学生会のメンバーには特に感謝している。かけがえのない仲間です。一年間一緒に仕事

ができてすごく楽しかった。心からありがとう。

最後に関係者の皆様、一年間本当にありがとうございました。

環境局長として

機械工学科 4年 船迫 康広

こんにちは、学生会環境局長を務めさせて頂いています。船迫です。

私は1年生の頃、学生生活を送る上で何か1つ頑張ったと、胸を張って言えるような事しようと思い、学生会へ立候補しました。4年間学生会を継続してきて、今では局長という重要な仕事を任せていただける身となりました。今までは役員として与えられた仕事を行うだけでしたが、学生会を動かす歯車として自分が任命されたのだと思うと、自分でいいのだろうかと何度も思いました。しかし、これは自分を大きく成長させるためのいい機会を与えて頂いたのだとプラスに考え、精一杯取り組みました。そして、私は環境局長として次のような仕事を行ってきました。

1つは、正門、ロータリー前の花壇の水かけや草取りを行っています。水かけは平日、毎朝8時ごろから学生会各部署ごとに曜日を振り分け活動しています。草取りは草が伸びてきた都度行っています。学校を花でいっぱいにしたいという学生会全体での心意気から始め、今では花も元気に咲き校内が明るくなったように感じられます。

また、隼人駅の清掃を環境局が中心となり学生会全体で行っています。学校から出発し高専の学生が利用する通学路のゴミ拾い、隼人駅周辺の清掃をしています。学生全体での美化意識向上と隼人駅への感謝の意味を込め、毎年しています。今年も例年どおりおこなったのですが、昨年に比べゴミが少なくなっていたと感じました。学生一人一人の意識が高まってきているのではないかと思います。環境局長としても嬉しいばかりでした。以上が環境局の主な仕事内容です。毎年このような仕事出来るのも先生方や地域の方々の理解や協力があったからだと思いました。

一年間、局長をして学校全体の美化に全うできたとは言いきれません。私がしてきたことはほんの小さな事です。ですが、これからも後輩たちに是非、継続して欲しいと思います。それが学校全体の美化に繋がり、よりよい鹿児島高専になると思います。局長として仕事をして達成感より大変さが勝っていた気もしますが、自分自身、

成長でき本当にやってよかったと思いました。一年間支え続けていただいた先生方や学生会役員の皆様本当にありがとうございました。

文化祭を終えて

文化祭実行委員長 機械工学科4年 五反田 剛

「自分がこんな大役を務められるのだろうか？」という不安の中始まった実行委員長の仕事。私は1年生の時から、文化祭実行委員として仕事をしてきました。毎年たくさんの来場者が来て、お年よりから子供まですごく盛り上がるイベントや工夫された内容のプログラムで行われる文化祭を見てきて、実行委員長ってすごいなと思って何気なく3年間仕事してきました。その大役を任されて、私は不安でたまらなかったですが、先輩が「お前なら大丈夫だよ。」とやさしく言ってくれたのですごく勇気付けられて、私は例年の文化祭に負けないように、むしろより良い文化祭にしようと思いました。

前期や夏休みは、今年の文化祭の構成を考えたりスポンサーを集めたりして少しずつ文化祭の準備をしました。しかし後期になり文化祭が近づくとうままでにない仕事が増えたりして、また私は応援団の副団長もしていて、どちらも納得のいくようなものに仕上げられるのか焦りを感じたりしましたが、前年度実行委員長の神田さんに適切なアドバイスを頂いたり、周りの実行委員のみんなの積極的な協力のおかげで順調に文化祭の準備をすることができました。当日は雨の予報だったのですが日頃の実行委員の行いが良いせいか、見事に快晴となり来場者もたくさんとなりました。文化祭は本校の学生だけでなく来場者の方々にも楽しんでもらい、そして学校展示などにより鹿児島高専について周囲の方々に少しでも理解を深めていただき興味を持って頂けたのが嬉しかったです。結果最後の最後で雨が降ってしまい慌てることもあったのですがしっかりと対応することができ、また来場者の楽しそうな表情を見ると今回の文化祭は大成功だったのではないかと自分では思います。

今回の文化祭が成功に至ったのは先生方や実行委員のみんな、テントを貸して頂いた隼人中学校さんの協力、周辺の方々の御理解や御支援があったからだと思います。そして何より盛りあげてくれた鹿児島高専の学生一人一人のおかげだと思います。本当に皆さんには感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

文化祭実行委員長という立場になって、いろんな人と接し仕事をしたり、みんなをまとめることの難しさや苦労がすごくわかりました。それから自分のことばかりではなく、相手の立場や気持ちになり考えなければならぬということもありました。でも、みんなで時間と労力を使い創り上げた文化祭をみんなで成功させられたときは、他の人では味わえないような感動をあげました。応援団があったりして、実行委員のみんなには迷惑ばかりかけて頼りない実行委員長だったかも知れないけど、本当に最後までついてきてくれてありがとうございました。実行委員長という役になり私自身、成長させられまた貴重な体験をすることが出来ました。本当にこの一年間は私の中でのすばらしい財産となると思います。この経験をこれからの人生でうまく生かして生きたいと思います。

体育祭を終えて

体育祭実行委員長 土木工学科4年 三反園 健太

今年度の体育祭は、「今まで以上に盛り上がりがあり、皆が楽しめる体育祭」、「後で困らないように早めから準備をする」を目標にしてきました。

夏休みから少しずつ準備を始め、最初のうちはやることも少なく順調に進んでいましたが、後期が始まり、日が進んでいくにつれて、本番が近づくにつれてだんだんやることも増えていき余裕も無くなっていきバタバタだして、あまりにもアップリすぎてついには仕事の手につかなくなる日もありました。体育祭実行委員の集まりや団長などの集まりでも、上手く話し合いを進めることが出来ないなど頼りがいがなく、みんなには迷惑ばかりかけてしまって反省しています。

体育祭を迎えるまでの道のりは自分が予想していたよりもはるかに険しいものでした。色々と協力をして下さった先生方、沢山相談に乗って下さり色々なことに手を貸して下さった池田先生、何かあれば快くすぐに対応をして下さった学生課のみなさん、余裕が無くなり切羽詰っていた自分にたくさんのアドバイスをくれた下山さん、頼りない自分に文句ひとつ言わず最後まで一緒に頑張ってくれた実行委員のみんな、自分に協力をしてくれて団員をしっかりまとめてくれた応援団幹部のみんな、素晴らしい櫓絵を完成させるのにメンバーをまとめ、自分の言うことに協力してくれた櫓隊長のみんな、そし

て鹿児島高専の学生のみんなの支えがあったので最後までやりきることができました。本当に感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

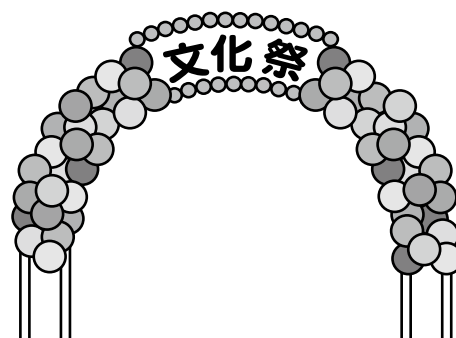
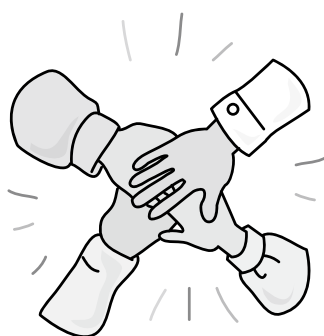
体育祭当日の朝は、雨が土砂降りで不安は少しありましたが自分は、「きっと雨は止む」と信じていたので、早朝から先生方に迷惑をかけてしまいましたが、先生方の許可を得、体育祭決行をさせてもらいました。体育祭が始まるとだんだんと雨も治まっていき、大きな事故なども無く無事に体育祭を終えることが出来ました。

体育祭が終わった後に沢山の友達や後輩が、「今年の体育祭最高だった！」と言ってくれたり、メールをくれたりしてくれて本当に嬉しかったです。自分も、今年は上から下までの学年みんなが楽しめる体育祭を目標としていたので、この目標は達成できたとおもいます。

自分は応援団をすることができなくて、クラスの人々と最後の応援団をすることができなかったですが、今年の体育祭は自分にとって一番心に残る体育祭でした。

体育祭実行委員長という大役は、苦しいことばかりで、心が折れそうになったことがありましたが、今こうやって振り返ってみれば高専に入学して以来四年間で一番充実していた一ヶ月で、自分が一番成長できた一ヶ月だったとおもいます。

2012年は就職活動も始まるので、実行委員長をさせてもらって学んだ経験をいかして就職活動に臨み、高専生活ラストの年を頑張っていこうとおもいます。



対都城高専との親善試合結果

平成23年5月14日(土)

鹿児島高専会場

競技種目	試合結果
陸上部	総合点 都城 (146.5 - 182.5) ○ 鹿児島
硬式野球	第1試合 ○ 都城 (16 - 11) 鹿児島 第2試合 都城 (2 - 5) ○ 鹿児島
男子バレーボール	第1試合 ○ 都城 (25 - 20) 鹿児島 第2試合 都城 (15 - 25) ○ 鹿児島 第3試合 都城 (20 - 25) ○ 鹿児島
女子バレーボール	第1試合 ○ 都城 (25 - 12) 鹿児島 第2試合 ○ 都城 (25 - 12) 鹿児島 第3試合 都城 (-) 鹿児島
卓球	◆ 団体戦 第1試合 ○ 都城 A (3 - 1) 鹿児島 A 第2試合 都城 B (2 - 3) ○ 鹿児島 B 第3試合 ○ 都城 C (3 - 0) 鹿児島 C 第4試合 ○ 都城 D (3 - 0) 鹿児島 D ◆ 個人戦 1 位 宇治野勇大(鹿児島) 2 位 野邊走馬(都城) 3 位 五反田浩志(鹿児島)
テニス	◆ 男子団体戦 第1試合 都城 (1 - 2) ○ 鹿児島 第2試合 ○ 都城 (2 - 1) 鹿児島 第3試合 都城 (0 - 3) ○ 鹿児島
柔道	◆ 団体戦 第1試合 ○ 都城 (3 - 1) 鹿児島 第2試合 ○ 都城 (3 - 0) 鹿児島
弓道	◆ 男子団体戦 第1試合 都城 (23 - 30) ○ 鹿児島 第2試合 都城 (-) 鹿児島 第3試合 都城 (-) 鹿児島 ◆ 女子団体戦 第1試合 ○ 都城 (24 - 22) 鹿児島 第2試合 都城 (-) 鹿児島 第3試合 都城 (-) 鹿児島 ◆ 男子個人戦 1 位 田中謙介(都城) 2 位 宮田竜成(鹿児島) 3 位 東 啓介(鹿児島) ◆ 女子個人戦 1 位 塩本みなみ(都城) 2 位 七夕 萌(鹿児島) 3 位 淵脇貴子(鹿児島)

都城高専会場

競 技 種 目				試 合 結 果													
サ ッ カ ー	第1	試	合	○	鹿	児	島	(	4	—	0	)		都	城		
	第2	試	合	○	鹿	児	島	(	2	—	0	)		都	城		
	第3	試	合	○	鹿	児	島	(	3	—	1	)		都	城		
	第4	試	合		鹿	児	島	(	1	—	2	)	○	都	城		
ハ ン ド ボ ー ル	第1	試	合		鹿	児	島	(	1	1	—	1	7	)	○	都	城
	第2	試	合		鹿	児	島	(	4	—	9	)	○	都	城		
	第3	試	合		鹿	児	島	(	1	4	—	2	0	)	○	都	城
	第4	試	合	△	鹿	児	島	(	7	—	7	)	△	都	城		
	第5	試	合	○	鹿	児	島	(	1	2	—	7	)		都	城	
男子バスケッボール	第1	試	合	△	鹿	児	島	(	5	8	—	7	4	)	○	都	城
	第2	試	合		鹿	児	島	(	3	0	—	3	0	)	△	都	城
	第3	試	合		鹿	児	島	(	3	9	—	6	9	)	○	都	城
	第4	試	合		鹿	児	島	(	3	1	—	4	3	)	○	都	城
バ ド ミ ン ト ン	第1	試	合		鹿	児	島	(	0	—	3	)	○	都	城		
	第2	試	合		鹿	児	島	(	1	—	2	)	○	都	城		
	第3	試	合	○	鹿	児	島	(	3	—	0	)		都	城		
	第3	試	合		鹿	児	島	(	1	—	2	)	○	都	城		
	第3	試	合		鹿	児	島	(	1	—	2	)	○	都	城		
ソフトテニス	第1	試	合	○	鹿	児	島	A	(	3	—	0	)		都	城	A
	第2	試	合	○	鹿	児	島	B	(	2	—	1	)		都	城	B
	第3	試	合	○	鹿	児	島	A	(	2	—	1	)		都	城	A
	第4	試	合	○	鹿	児	島	B	(	2	—	1	)		都	城	B
	◆ 個 人 戦																
	(男子)				1	位	濱園・平谷 (鹿児島)										
					1	位	小玉・今村 (鹿児島)										
	(女子)				1	位	西田・国永 (鹿児島)										
					2	位	川元・宇都 (都城)										
剣 道	第1	試	合		鹿	児	島	(	1	—	3	)	○	都	城		
	第2	試	合		鹿	児	島	(	0	—	3	)	○	都	城		
	第3	試	合		鹿	児	島	(	1	—	2	)	○	都	城		
	第4	試	合		鹿	児	島	(	1	—	3	)	○	都	城		
	第5	試	合		鹿	児	島	(	1	—	3	)	○	都	城		
水 泳	総 合 点			○	鹿	児	島	(	315	—	219	)		都	城		

第48回（平成23年度）九州沖縄地区国立高等専門学校学校体育大会 結果一覧

H23

種目	成績	団 体 戦			個 人 戦		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
陸上競技		佐世保高専	久留米高専	有明高専	男子走高跳:大園 晃平	男子200m:大坪 純也	男子走高跳:谷口 隼一
						男子4×100mリレー: 森・大坪・江口・徳留	男子やり投:徳留 広崇
ソフトテニス		有明高専	鹿児島高専	北九州高専	男子:濱園・竹下	男子三段跳:菅蒲谷 周平	女子:西田・國永
バドミントン		北九州高専	有明高専	佐世保高専			
水泳					男子800m自由形:西川 央哲	男子400mメドレー: 西川・草原・宮川・春田	男子100m背泳:内山 晴貴
		熊本高専(八代)	佐世保高専	鹿児島高専	男子200m背泳:西川 央哲		男子100mバタ:宮川 大輝
					男子100m平泳:草原 大貴		男子400mリレー: 鯨島・春田・小野・西川
					男子200m平泳:草原 大貴		
					男子200mバタ:土器園 駿士		
ハンドボール		熊本高専(熊本)	熊本高専(八代)	北九州高専			
硬式野球		北九州高専	鹿児島高専	熊本高専(八代)			
バスケットボール(男子)		北九州高専	久留米高専	沖縄高専			
バスケットボール(女子)		沖縄高専	久留米高専	熊本高専(熊本)			
卓球		有明高専	都城高専	佐世保高専			
剣道		佐世保高専	熊本高専(熊本)	久留米高専			
サッカー		鹿児島高専	佐世保高専	熊本高専(熊本)			
柔道		都城高専	有明高専	熊本高専(八代)			男子90kg以下級:前田 大翔
バレーボール(男子)		佐世保高専	鹿児島高専	有明高専			
バレーボール(女子)		佐世保高専	都城高専	熊本高専(熊本)			
テニス(男子)		鹿児島高専	佐世保高専	大分高専	男子ダブルス:内門・鮎川	男子シングルス:内門 大地	

網掛け表示は、全国大会出場

(敬称略)

◎第46回全国高等専門学校体育大会

(1) ソフトテニス

開催日：平成23年8月20日～21日

会 場：南長野運動公園テニスコート

結 果：団体戦（男子） 優勝

個人の部（男子） 3位 濱園・竹下組

(2) サッカー

開催日：平成23年8月20日～23日

会 場：千葉総合スポーツセンターサッカー場 外

結 果：優勝

(3) テニス

開催日：平成23年8月25日～27日

会 場：サニーインむかい共同テニスコート

結 果：団体戦 初戦敗退

個人戦男子シングルス 初戦敗退

個人戦男子ダブルス 準優勝 鮎川・内門組

(4) 水泳

開催日：平成23年8月28日

会 場：千葉県国際総合水泳場

結 果：メドレーリレー 400m 7位

（西川、草原、宮川、春田）

自由形 800m 4位 西川

平泳ぎ 200m 6位 草原

背泳ぎ 200m 3位 西川

平泳ぎ 100m 予選敗退

背泳ぎ 100m 予選敗退

バタフライ 100m、200m 予選敗退

学校対抗 13位

(5) 陸上

開催日：平成23年8月27日～28日

会 場：長野市営陸上競技場

結 果：走高跳 3位 大藪

200m 予選敗退

4×100mリレー 予選敗退

三段跳 16位

やり投げ 21位

(6) 硬式野球

開催日：平成23年8月20日～21日

会 場：前橋市民球場

結 果：初戦敗退

◎第8回全国高等専門学校選抜弓道大会

開催日：平成23年3月17日～18日

会 場：豊田市運動公園弓道場

結 果：男子団体 準優勝

女子団体 準優勝

男子個人 準優勝 川邊

女子個人 準優勝 上野

射道優秀賞 竹下

◎第33回全国高等専門学校通信弓道大会

開催日：平成23年6月25日

会 場：都城市体育文化センター弓道場

結 果：女子団体 優勝

女子個人 優勝 七夕

◎第41回西日本地区高等専門学校弓道大会

開催日：平成23年7月9日～10日

会 場：鳴門・大塚スポーツパーク弓道場

結 果：女子個人 準優勝 七夕

◎第44回九州沖縄地区国立高等専門学校

英語弁論大会

開催日：平成23年8月26日

会 場：大分工業高等専門学校

結 果：暗唱の部 1位 高見

3位 川俣

弁論の部 1位 室屋

◎高専ロボコン2011九州沖縄地区大会

開催日：平成23年10月9日

会 場：九州共立大学福原記念館（鶴鳴記念館）

結 果：優勝 鹿児島高専Aチーム（全国大会出場）

準優勝 鹿児島高専Bチーム

学生表彰者リスト

◎文化賞

大会名	学年・氏名	成績
日本機械学会九州学生会 第四十二回学生員卒業研究発表講演会	機械・電子システム工学専攻 1 年 ウチダ ショウタ 内田 翔太	優秀講演賞
平成二十二年度土木学会西部支部 研究発表会	土木工学専攻 2 年 ヒラガ スケトモ 平賀 祐朝	優秀講演者賞
第44回九州沖縄地区国立高等専門学校英 語弁論大会	情報工学科 3 年 ムロヤ チサ 室屋 知佐	弁論部門優勝
	都市環境デザイン工学科 2 年 タカミ セイヤ 高見 誠也	暗唱部門優勝
	情報工学科 2 年 カワマタ ハルカ 川俣 悠香	暗唱部門 3 位
かのや『ばら』と『海』フォトコンテス ト2011	電子制御工学科 5 年 ツカミズ ソウ 若水 宗	チャレンジ部門入選
	機械工学科 5 年 アンチ マコト 庵地 誠	チャレンジ部門入選
電子情報通信学会九州支部第19回学生会 講演会	機械・電子システム工学専攻 2 年 オカモト トモユキ 岡元 智志	学生会講演奨励賞
精密工学会九州支部「第 1 2 回学生研究 発表会」	電子制御工学科 5 年 ホリサコ アキモ 堀迫 晃朝	ベストプレゼンテーション賞
第 9 回作文コンクール 読書感想文の部	情報工学科 2 年 ノボト ミサキ 野元 実咲希	特選
	電気電子工学科 1 年 マツモト リョウ 松元 瞭	入選
	電気電子工学科 2 年 ハマダ マサヤ 濱田 昌也	入選
	情報工学科 1 年 ヤノ アミカ 矢野 史華	佳作
	都市環境デザイン工学科 2 年 タナカ アカネ 田中 茜	佳作
	情報工学科 3 年 ヒサトミ あすか 久富 あすか	佳作
第 9 回作文コンクール 小論文の部	電子制御工学科 1 年 ツボヤマ ユウヤ 坪山 佑哉	特選
	電気電子工学科 3 年 タネダ カズアキ 種田 和晃	入選
	情報工学科 3 年 ハヤシ タクヤ 林 拓也	佳作

◎特別賞

※学生の模範として表彰に値する者を表彰

学年・氏名	功 績
機械・電子システム工学専攻 2 年 ナカシマ ユウタロウ 中島 佑太朗	本科及び専攻科に在学中、部活動（陸上部）、学業の双方で顕著な業績を残した。専攻科修了後は東京大学大学院新領域創成科学研究科へ進学予定。
情報工学科 5 年 イヅツキ トモアキ 稲付 智昭	情報処理技術者試験「エンベデッドシステムスペシャリスト試験」（2009年度合格）、「情報セキュリティスペシャリスト試験」（2011年度合格）

◎文化賞

大会名	学年・氏名	成績
3次元デジタル設計造形コンテスト (第4回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ)	機械工学科 5年 モリゾノ ユウタ 森 湧太	準優勝
	機械工学科 5年 モリ ショウヤ 森 翔也	
	機械工学科 5年 マエダ ナオキ 前田 直樹	
	機械工学科 5年 シマオカ ケンタ 島岡 健太	
	機械工学科 5年 サチト メーヌカ	
第14回 校内英語暗唱大会	電気電子工学科 1年 モリ コウダイ 森 幸大	優勝
	情報工学科 1年 シオン トマ	準優勝
	都市環境デザイン工学科 1年 イワイ サコ ラン 岩井迫 蘭	3位
	情報工学科 1年 コニシ アユム 小西 歩武	4位
	情報工学科 1年 クズオカ マリン 葛岡 真凜	5位
	電気電子工学科 1年 マツモト ケイタ 松元 佳汰	5位

◎平成23年度 学習到達度試験成績優秀者一覧

	学 科	氏 名		学 科	氏 名
1	機械工学科	大 藺 晃 平	9	情報工学科	阪元 亘
2	電気電子工学科	内山 晴 貴	10	情報工学科	下舞 恭 平
3	電気電子工学科	杉 藺 光 太 朗	11	情報工学科	藤崎 邑 吏
4	電気電子工学科	西元 稜 太	12	情報工学科	淵上 和 喜
5	電気電子工学科	濱崎 柊 耶	13	情報工学科	フドゥルムルオヤンガ
6	電気電子工学科	リファンアグスティアン	14	情報工学科	柳田 智 也
7	電子制御工学科	岩下 大 輝			
8	電子制御工学科	松崎 達 也			

寮生の就職面接指導を通じての考察

志学寮舎監 川井田 一郎

時の寮務主事が小生の経歴を生かす方策はないかと考察され、民間企業の人事経験が永かったことに目をつけられたのでしょうか、高専寮生が就職するに当たって必須となる、入社面接の練習を依頼され、仰せつかったのは5年前のことでした。

爾来毎年、面接練習を希望する学生に対し、夜間、個別面接や集団面接などを練習させ、入社合格の成果を学生と共に喜ぶ機会をいただいていた。参りました。

さて、練習に際し、小生が当初から強調してきたのは、“面接とは自分を売り込む場であり、志望する企業等が自分を採用することが、先方企業の将来にとっていかにプラスになるかということ forcefully アピールする力をつける”ということでした。

そこで、“高専寮生として過ごした自己の売り”は何かとすることを箇条書きにさせて分析させ、説得力ある話として述べる力を付けさせる訓練を行ってきました。

では高専寮出身の学生の売りは何でしょうか？

- ① 当然の事ながら1学年から始まる専門科目の授業による理工学の専門知識です。
- ② そして、寮生活という厳しい生活を送ってきたことでしょう。
- ③ さらに通学時間不要の寮生活にて得られた時間的余裕を、部活動等に振り向け、課外の活動を如何に頑張ってきたか。

この3点に要約されます。

先ず①に関しては申すまでも無いことで、企業が高専卒業生に最も期待するのは、即戦力としても通用する知識の習得です。全専門科目を完全に習得するのは無理としても、少なくとも自分の好きな科目、得意な科目、卒研テーマに関するくらいは、どんな突込みに対しても直ちに応答出来る位に自信を持つこと事を念願し、小生の専門科目への拙い知識を総動員して訓練させてきました。

次に②の高専寮生活の経験に関しては、企業は可成り好意的に興味を持っていると思ってよいでしょう。それにもかかわらず、意外にも寮生自身はこのことに関して、なかなか分析できず、的確な応答が出来ません。その原因は何なのでしょう？

それは、かねての寮生活がマンネリ化しており、自己の人格形成に積極的に利用しようと言う意識の無いままに生活してきた事を表しています。

実は、現在志学寮の抱えている各種の問題点はここに

起因するのですが、このことは別の機会に譲りここでは置きます。

ともあれ、自分の子供を入寮させるに当って、保護者の方々が最も期待していることを要約すると“(ア) 少年から青年への移行期に、団体生活を送らせることで、他を思いやる心を養成できること。(イ) 厳しい規則の中での生活を通じて規律を守る心を涵養し、自律心を身に付けられること。(ウ) さらに欲を言えば、寮と言う人間関係の組織の中で各種のリーダーシップを身に付けられること。”となるでしょう。

つまり、採用する側の企業等としても、高専の寮出身者ということで、当然の事ながらこの3点を期待しているわけです。

したがって、1学年として全寮制のもとで入寮したその日から、この3点を如何に認識しつつ生活するかと言うことが必須であり、高専に寮が存在している最大の意義であり、メリットであり、そして売りでもあるわけです。

この趣旨に沿って、4年後期から5年前期の時期に面接練習をすることは、その学生自身が志学寮で過ごしてきた4年間を総括し、改めて見直すことに通じます。

一方、4年間これらのことに無頓着で過ごしてきた学生にとっても、遅まきながら、いずれ近いうちに始まる社会生活に対する心構えの準備にもなるものと信じ、寮での生活を分析させ、言葉で表現する訓練をさせることで、それが自己の信念と化すところまで高めてやれるよう、繰り返し反復練習させて居ります。

更に③に関しては、キャンパス内に寮が有ることから、一般通学生に比べて通学に要する時間的メリットは年間累計すると莫大な時間であり、これを活用しない手はありません。

かつて企業は、体育会系の運動部出身者を“根性”と言う言葉で表し、高度成長を支える力として大いにもてはやしてきました。勿論現在もその傾向が無いとはいえません。

しかしながら昨今は、むしろ学生自身が、限られた時間の中で得られた時間を無為に浪費することなく、長年継続して、5年間、人によってはそれ以上の期間、ひたむきに努力を続けて来たと言う実績を評価する傾向が強くなってきています。

したがって運動部に限らず、文化部、同好会、学生会活動、その他なんでも、本当に継続して必死でやってきた課外活動は、寮生にとって売りになるのです。

その他に、④ここでもう一つ付け加えてよい高専生の売りがあります。それは体育祭の応援団練習です。運動部に所属している為に参加できない学生も多いのでし

うが、これに参加した学生は大いに胸を張って自慢してよいことです。ただし応援団練習で得た実績が日常の生活に生かされるレベルにまで到達していて初めて自慢できるのですが…。

それは、“人前で、大きな声で、はっきりとものを言える”という行動習慣を身に付けることです。これは習得出来た学生のみが手にした大いなる特権となります。

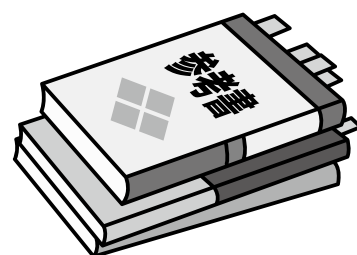
古来“声の大きな人に悪人は居ない”という人間社会の常識から来ているのですが、これに鑑みると、応援団練習が昨年から1ヶ月ほどに短くなった事は、大きな声で話すという行動が日常の習慣化する前に練習が終了してしまい、単に体育祭の応援合戦の為にだけの練習になってしまった感のあることが惜しまれます。

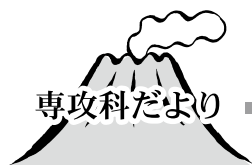
したがって、日頃から寮事務所で窓口対応にて、蚊の鳴くような声でしか用件を言えない学生にはその場で発声練習をさせておりますが、教室においても毎日の“出席応答”や、先生方が生徒を名指しされた時、“ハイ”と言う大きな声で返事をさせる等、日常の教育を心がけていただくことが、企業人のみならず社会人としての資質にも有効に繋がってくることをここに記しておきます。

以上、寮生活を積極的に活用することが寮生の将来にとって如何に有意義なことなのかを、単なる就職面接という事象だけを捉えてみても、これほど大きなメリットがあるのだという視点で申し上げました。

時代と場所こそ違い、小生の半世紀前の、中高一貫校での6年間300名のドーミトリ生活や、大学校の4年間2000名の学生舎での団体生活を振り返ってみて、若かりし人格形成期の寮生活が事後の人生の基盤に成った事は有り難い事実であり、更には今も付き合っている親友はいずれも過去の寮生活によって培われた友情が原点になっていることを考える時、高専志学寮での5年間の寮生活を積極的に前向きに過ごす事が、必ずや学生自身の大きな宝となって内部蓄積されていくと信じております。

今後とも、さらに質の高い寮生活指導を目指して勤務させていただくことをここにお誓い致します。





専攻科への勧め

専攻科長 三角 利之

本校に専攻科が設置されたのは12年前の平成12年4月である。これまで、219名の専攻科修了生を輩出し、多くの修了生が社会で活躍している。専攻科は、本科における教育の基礎の上にたって、特定の専門領域におけるより高度の知識・素養を使いこなすことによって理解の程度を進化させ、複合領域に対応できる幅広い視野を身に付け、高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者を養成する課程である。専攻科を修了すると大学卒業と同等の「学士」の学位を取得することができる。また、本校は大学4年間に相当する本科4年、5年と専攻科2年間の技術者教育が、国際的水準を満たした教育プログラムであることを日本技術者認定機構(JABEE)から認定されている。このプログラムを修了すれば、技術士補となり技術士の一次試験が免除され、実務経験の後に技術士の試験を受けることができる。本校の専攻科生の最近5カ年の修了状況を調査したところ、専攻科に入学したほとんどの学生が、専攻科修了時に学位取得とJABEE修了の資格を取得していることから、専攻科の目的に沿った充実した技術者教育が実施されている。

専攻科教育について、ある大企業に在籍している高専専攻科修了生にアンケート調査を行った結果によれば、専攻科教育について「満足している」、「やや満足している」と回答した割合は70%程度を占め、専攻科教育の満足度は非常に高い評価が得られている。また、専攻科教育・運営等で良かった点として、研究時間、少人数教育、視野の広がりなどが上げられ、専攻科の特色を生かした教育の成果が上げられている。さらに、大学・大学院出身者との比較として、専門知識、問題解決の能力、行動力・実行力、創造性について設問したところ、「優れている」および「同等」と回答した割合は、80%以上を占めることから、技術者として十分通用する教育がなされているといえる。一方、教育費用の点から見ると、中学校卒業時から学士取得までの費用を本校専攻科修了と大学卒業のルートで比較すると、公立高校から国立大学のルートで授業料および入学金を合計すると243万円かかるのに対して、本校に入学して専攻科を修了した場合にはこれらの経費が145万円で済み、約98万円も得をすることになる。

次に、専攻科を修了した後の進路であるが、過去5年間の大学院への平均進学率は約32%である。進学先は、

東京大学大学院、名古屋大学大学院、九州大学大学院、長岡技術科学大学大学院、豊橋技術科学大学大学院などであり、非常に高いレベルの大学院にかなりの学生が進学している実績は、注目に値する。また、本校の専攻科は北陸先端科学技術大学院大学、早稲田大学大学院情報生産システム研究科と推薦入試に関する協定を締結しており、これらの大学院への推薦については、面接試験が免除され書類審査のみで選抜されるメリットがあり、受験生の負担が軽減されている。一方、専攻科修了生の就職については、修了生が様々な分野で活躍しており、各企業から高く評価され、就職希望者は100%内定している。過去5年間の本科の求人倍率は18.5倍であるのに対して、専攻科の求人倍率は23.1倍で、就職先も一流の企業や高度な技術を有している企業に就職できている。

以上、専攻科のPRをさせていただきましたが、本校学生がさらに高い目標を掲げ、専攻科を目指して勉学してほしいと思います。そして、将来、グローバルに活躍できる技術者として育つことを期待します。



日鐵プラント設計株式会社の インターンシップに参加して

機械・電子システム工学専攻 1 年 中村 彰

私がお世話になったのは、福岡県北九州市の日鐵プラント設計株式会社です。インターンシップに参加した理由は、将来就きたい業種のプラント業界について勉強するためと、同業種に興味のある学生と仲良くなるためでした。インターンシップ初日、会社概要と部門概要の説明を受けました。日鐵プラント設計株式会社は新日鐵株式会社のプラント設計業務を専任しており、製鉄プラントをメインに環境プラントやエネルギープラントなど様々なプラント設計業務を展開しています。社員の中には新日鐵株式会社から派遣されてきている方も多く、その方たちからもお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。インターンシップ二日目、八幡製鉄所と北九州エコタウン事業を見学しに行きました。八幡製鉄所の様々な工場は、どれも大きな設備で熱気と騒音がとても凄かったです。しかし、大きな設備ながらも数ミリ単位の精度を出す技術は、長年の経験と緻密な計算とが裏付けられたものであると感じました。北九州エコタウン事業ではリサイクル工場と風力発電を見学しました。風力発電の真下まで行くことができ、その迫力と羽根の回転の速さには圧巻されました。インターンシップ三日目～六日目は部門実習を行いました。私はエネルギープラントエンジニアリング部に配属され、液化天然ガスの貯蔵・輸送について学びました。現在、クリーンなエネルギー源として注目されている液化天然ガスについて学ぶことができ、今回の実習はとてもためになりました。さらに、ポンプの設計や発熱量計算、図面からの読み取りなど、様々な点で学校での勉強が役に立ち、学校でやった勉強も無駄ではなかったことが分かり、これからも勉学に励みたいと思いました。インターンシップ七日目～九日目は 3DCAD 実習を行いました。ICAD という普段使わないソフトウェアを用いたため、四苦八苦しましたが説明をしっかりと聞くことで何とかついていけました。ここでもやはり、図学などの製図法の基礎をしっかりと理解しておけば、たとえソフトウェアが普段使うものと違っても理解が早いことが分かり、学校での授業の意味に気がきました。まとめの感想としては、初めてインターンシップに参加させていただき、実り多き経験になったと思います。他の参加者も社交的な方が多く、すぐに仲良くなることができました。これからもこの交友を将来への財産として大事にしていきたいと思

います。最後に、インターンシップを受け入れて下さった日鐵プラント設計株式会社の皆様、協力して下さいました先生方、東代宮様、この場を借りてご御礼申し上げます。

夏季休業中のインターンシップを終えて

電気情報システム工学専攻 1 年 田ノ元 正和

今年の夏私は 1 ヶ月間のインターンシップに参加しました。インターンシップは我々学生が企業の活動を実際に体験できるとても貴重な機会です。本校では就職・進学を翌年に控えた本科 4 年次および専攻科 1 年次の希望者が参加するものとなっています。専攻科でのインターンシップは 2 週間または 4 週間以上の期間となっており、本科と比べて期間が長いのが特徴です。そのため単なる会社見学やちょっとした手伝いではなく、企業の一員として従事する場合がほとんどだと思います。

今回私はじめ 3 名が 1 ヶ月、1 名が 2 週間の日程で、鹿児島市にある株式会社コムツァイト様にお世話になりました。コムツァイト様は焼酎の製造過程の温度管理システムや今流行のクラウド・コンピューティング関連など、さまざまなシステム開発をされている会社です。実習の内容は、3 名でプロジェクトに取り組むというものでした。プロジェクトの内容は「高齢者向けパソコン訓練システムの開発」です。これは実習生用の練習問題ではなく、実際に外部の顧客から受注したものでした。会社外部に顧客がいるということで、いい緊張感をもって実習を行うことができたと思います。1 ヶ月という期間では最初のほうの工程しか終わることができませんでした。顧客とのメールのやり取りなどをしながら仕様書の作成等に取り組みました。また、学校では「何を作れ」と明確に指示されるのに対し、「そもそもどんなものを作ればいいのか」という状態からのスタートだったため、手探りながらアンケート調査なども行いました。

今回の実習を通して一番感じたのはグループワークの難しさです。普段の研究などは一人で行っていますから、決めたことをいちいち他人に伝えることはしません。

しかしグループでの作業ではメンバーはもちろん、実習の担当の方、顧客の方含めて認識を共有する必要があります。失敗も多々ありましたが、それらを通して身をもって学ぶことができたと思います。今回の実習ではほかにも技術的な内容など、ここに書ききれない様々なことを学ぶことができました。

また、多くの社会経験を持つ会社の方の話を聞いたのもとても有意義だったと思います。

この経験を社会に出ていく上での判断材料とし、今後に生かしていきたいと思います。

最後にこの場をお借りして、たくさんの実習生を快く受け入れてくださった株式会社コムツァイトの岩倉社長はじめ会社の皆様方と、実習先の手配等尽力くださった先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

この今回のインターンシップでの経験・学んだ知識を今後の学校生活または研究で活かしていきたいと思います。

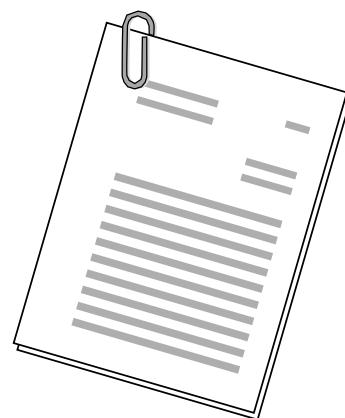
インターンシップに行って

1 ACC 3 番 萱場 将士

私は、昨年も9月12日から27日の約2週間に渡りインターンシップに行かせていただきました。インターンシップ先は、鹿児島市の七つ島にある鹿児島県環境技術協会でした。鹿児島県環境技術協会は、主に環境に係る調査解析、測定分析、技術指導、普及啓発活動を行い、良好な環境の保全を目的として業務を行っています。

特別実習期間中、私は技術部・環境分析課に配属し、その業務の一端に従事させていただきました。実習期間が2週間と短かったため多くの事柄を実習することはできなかったのですが、簡易な測定や分析、実験等の業務の一部の作業に携わることができました。主な実習内容は、BOD（生物化学的酸素要求量）・SS（溶存酸素量）の測定や試験液による滴定、濁度・色度の測定など、水質を示す指標を測定する業務でした。どの業務においても、ご指導頂いた分析員の方々が丁寧に教えてくださり、実習期間中に問題なく業務を行うことができました。実習で行ったBOD・SSの測定は、本科3・4年時の環境工学(特)や環境工学実験で扱ったものと類似した装置を使用しており、業務内容が覚えやすく、授業が役立ったと感じました。その他にも、環境分野の実習中には、自分が現在取り組んでいる研究と関連する分析や装置の説明もしていただき、その後の研究活動への意欲も増しました。

今回のインターンシップを通して、私は様々なこと・知識を学ぶことができました。普段の学生生活を離れ、職場の業務に携わることで、実際社会に出たときにいかにコミュニケーション能力が必要であるか、幅広い知識や学ぶ意欲が必要であるかを感じました。また、学校での「実験」ではなく企業で「業務」として作業を行うことで学生にはない大きな責任感を実感でき、良い経験になったと思います。



「もの・クリCHALLENGE 2011」で優秀賞を頂いて

1 AMS 加藤 良治

「加藤今月暇やろ？」その一言で私の一ヶ月は暇ではなくなった。研究指導教員の先生から「もの・クリCHALLENGE2011」（以下ものクリ）へ参加しないかという声をいただいたのだ。この「ものクリ」は熊本大学が主催している学生ものづくりコンテストであり、全国の大学・高専からの参加学生はテーマに沿った自由な発想でものづくりを行い、発表するというコンテストである。今年のテーマは「クリーンエネルギー×ものづくり」であった。正直、時間があつたわけではなかったが、研究室を見渡すと専攻科2年生の先輩方は学位論文、本科5年生は卒研が大詰め…という状況。私は腹をくくった。

前置きはここまでとして、作品とその製作について述べたいと思う。近年、音楽プレーヤーの発達によりランニング中に音楽を聴く人が増えてきている。そこで、ランニングによる腕振りの運動エネルギーを電気エネルギーに変換できれば音楽プレーヤーの電池残量を気にしない「クリーンな発電」ができるのではないかと考えた。発電機構には、コイルの中を磁石が通過することで電圧が発生する「電磁誘導」を用いた。腕を振ることで磁石を上下運動させ、発電しようと試みたのである。

製作案が出来たところから、専攻科2年生の堤先輩に手伝っていただけることになった。先輩の手助けなしでは完成できなかったのも、今でも感謝の気持ちでいっぱいである。しかし私も堤先輩も機械系出身、「発電」を相手にするにはあまりにも未知のものが多かった。そのため、十分な発電量を得るためには最低限どれほどの大きさやコイルの巻数が必要であるか、基礎実験を重ねた。約2週間実験と考察を繰り返したが、そのたびに絶望しか見えてこなかった。満足な発電量が得られないのである。作品の形状も当初は腕時計のようなものを想定していたのだが、実験結果から最低でもペットボトルより一回り小さいくらいが必要であることも分かっていた。

締め切りも近づいていたので、製作に取り掛からざるを得なかった。発電をより効率的にするために、機械的に磁石を高速移動させるための工夫を盛り込んだ発電部を完成させた。その後、外枠のデザインと発表資料の準備、整流回路の製作を分担して行った。最終的に手を持って振る製品になったので、外枠は誰もが持ち慣れたペットボトルの形状を参考にした。肝心の発電量は、

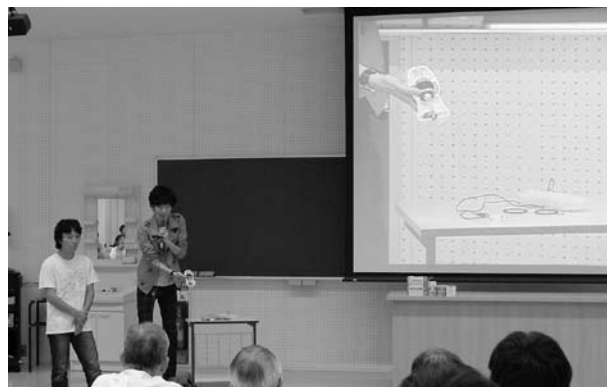
LEDの発光は可能だが、残念ながら音楽プレーヤーの充電には届かなかった。

発表当日、製品の想定外の巨大化や発電不足を補うために全力でプレゼンした。資料も凝りに凝った内容で望んだ。そのかいあってか一次審査、二次審査とも高評価をいただき、見事優秀賞を獲得するに至った。

「クリーンエネルギー」、環境問題解決のための謳い文句として取り上げられるこの言葉だが、その実用化がいかに困難であるか今回のものクリを通じて学ぶことが出来た。そして何より、ものづくりの経験がほとんどない私でも、高専で学んだ知識と能力を活かせば国立大学生にも負けないものづくりが出来るのだと実感し、喜びと自信につなげることが出来た。



応募作品



プレゼンテーション



授賞式

学生会講演奨励賞を受賞して

機械・電子システム工学専攻2年 岡元 智志

先日、佐賀大学で行われた電子情報通信学会九州支部学生会講演会で講演奨励賞を頂きました。この賞を頂いて「高専だより」の執筆を依頼されたので、これを機会に簡単ではありますが、私の研究や学会発表について話したいと思います。

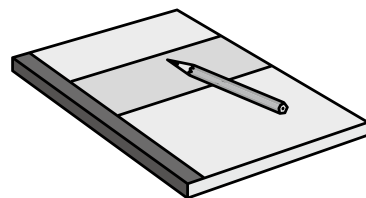
私の研究テーマは「BCIにおける多チャンネル脳波信号の分類に関する基礎研究」です。このテーマだけ聞いただけではなんじゃそりゃと思われる方ばかりだと思います。研究テーマに入っているBCIというのは、ブレインコンピュータインターフェースの略称で、BCIとは脳の電気信号を読み取り、コンピュータに入力する装置です。BCIを使ってどんなことをしているか簡単に言うと、世界中には、筋萎縮性側索硬化症による筋肉の委縮や筋力低下によって会話や体を動かすことができない人がいます。このような人たちは、コミュニケーションを取ることが非常に困難であるため、自分の意思を伝えることができず心理的に苦しい思いをしています。その人たちのために脳波を利用してコミュニケーションを行う研究が進んでいます。

そこで、私はその基礎研究として、本を読んでいるときや音楽を聴いているときなどの様々な作業の脳波を測定して、脳波の解析結果から、その作業内容が判別可能かどうか検証し、筋萎縮性側索硬化症患者の脳波によるコミュニケーション手段の可能性を探る研究を行っています。

簡単ではありましたが、これが私の研究です。私は、脳波を用いた研究を本科の5年生の時から行ってきました。5年時の卒業研究では3人で同じ研究を行いました。専攻科での特別研究では、1つの研究テーマに対して1人で行わなければならないので、まず相談できる相手がいません。すべて自分で考え、研究を進めていかなければなりません。そして、必ず専攻科では学会発表を行わなければなりません。私も学会発表を行うまでは、難しい質問ばかりされるのだろうな、などと不安でいっぱいでした。しかし、学会発表をしてみると、学会発表よりも5年生の時の研究発表や専攻科での中間発表のほうが正直怖かったように思いました。しかし、ほかの大学や高専の方に発表するのは、とても貴重な経験です。きっと、この経験は社会に出てからもきっと生かせるはずだと思います。

最後になりますが、少しでも私の研究に興味を持たれ

た電子制御の学生がいましたら、5年生になったらぜひ原田先生の下に訪れてください。



修了生に贈る言葉 つない

電気情報システム工学専攻 平成23年度専攻長 入江 智和

本校に着任して2～3年目（もう5～6年も前）のことである。退勤の際にFMラジオ放送を流し聞いていたところ、DJ ポッキー氏の番組（だったと思う）で「鹿児島島の珍しい名字」というコーナーが始まった。題の「つない」はそのコーナーで知った鹿児島島の珍しい名字「十」の読み方である。

次に、話は僕が博士課程1年生の頃（もう10年以上も前）にさかのぼる。あまりに昔のことなので、本段落記載の内容は少々うろ覚えで不確かな可能性があることをあらかじめご了承ください。大学院入学後の初めての学会発表の予稿を執筆している時だった。執筆要領（のようなもの？）を参照していると、数字の使い方を説明している箇所があり、値等を示す際のアラビア数字と漢数字の使い分け方が例示されていた。1個、2個、3個、…、1台、2台、3台、…、等アラビア数字を使うのは数値を変数（例えば n 等）に置き換えても成立する場合とのことだった。一方、一つ、二つ、三つ、…、のように漢数字を使うのは数値を変数に置き換えると成立しない場合とのことだった。浅はかな僕は当時「 n つ」が成立すると安易に考えた。一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、…。しかし、執筆要領に楯突く程の荒々しさも既に持ち合わせていなかったため、一つ、二つ、三つ、…、は例外的に漢数字を使うのだと考えることにした。このため、実際、本校に着任してしばらくは、卒業論文の書き方を学生に説明する際に「一つ、二つ、三つ、…、は例外的に漢数字を使うようです」と示していた。

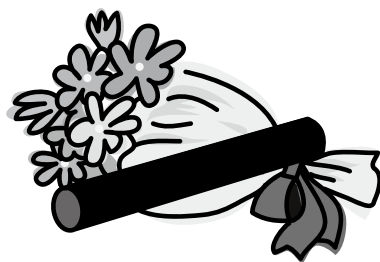
鹿児島島の珍しい名字「十」の読み方が「つない」であるを知ったとき、全てが繋がった。一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九つ、十（とう）！そう、「つ」がないから「つない」と読むのだそうだ。つまり、「 n つ」は成立しない…。しかも、たかだか10個目で…。

浅はかな僕は、六つ、七つ、辺りまでを確認して安易に「 n つ」が成立すると思い込んでしまった。もうほんの少しでも多く確認していれば、十、に容易に気付けただろうに。このことから、自分では十分と考えていることが、実は意外なほどあっさり和不十分な場合があることを痛感した。世間で「想定外」という言葉が踊るこのご時世、あまりにも笑えない話である。

以上に基づき、僕から修了生諸君に贈る言葉を、自分が十二分あるいは十五分と思えるところまで実行することの意義を知っておいて欲しいという思いを込めて、「つ

ない」にします。

修了、本当におめでとう。これからの皆の活躍に期待しています。



自殺予防について

学生何でも相談室長 松田 信彦

この原稿を書き始めた前日（1月10日）のニュースで、平成23年の1年間で、自殺者の数が日本全体で30,513人にのぼったこと、そして14年連続で3万人を超えたことが報じられました。前年比3.7%減ということで、年々減少してはいるものの、それでも3万人という数には驚きと悲しみを禁じ得ません。ちなみに、同じく平成23年の交通事故による死者の数は4,611人（前年比5.2%減）で、自殺者の数は交通事故死の実に7倍近い数に上ることになります。また、昨年（2022年）のいづゆる3・11の大震災での死者数は、1月10日現在（警察庁発表）で15,844人（行方不明者は3,450人）となっており、それとくらべても約2倍の数になります。

さて、これは日本全体の話ですが、実は高専も同様に深刻な問題をかかえています。すでに高専機構から公式に発表されている過去のデータによれば、多い年には全国の高専での自殺者は10名を超えます。国立高専の在籍者数は、専攻科も含め6万人を少し切るくらいですから、10万人あたりに換算すると20人前後になります。（一般に自殺者のデータは10万人あたりの数で比較をし、これを自殺率といいます）。

ちなみに、一昨年（H22）の大学生の自殺者は全国で513名（警察庁発表）と、全大学生（学生数は288万7千人：文部科学省発表）に占める割合は、10万人あたりおよそ18人となります。高校生ですと、同じく一昨年で、およそ336万人の生徒数に対し自殺者は204名で、10万人あたりにするとおよそ6人となります。これらの数と比べても、高専生の自殺率が、同年代の生徒・学生と比べても高いということがわかるでしょう。

そして、今回このような話題をテーマにしたのは、最近、たまたま目にした資料で、高専生の自殺者数が、本年度はちょっと多くなっているというデータを目にしたからです。日本全体では上述のとおり前年比3.7%減で、減少傾向にある中で、高専生は前年よりも増加傾向にあるのです。実際、たまたま別の用事で訪れた、（九州ではない）別の地区のある高専でも、残念なことに5月にお一人の学生が亡くなられていたと聞きました。

幸いに鹿児島高専では、長い間そのような悲劇は起きておりませんが、だからといって、鹿児島高専は大丈夫ということではないだろうと思います。仮に毎年10名の学生が不孝にも亡くなるとしたら、全国にはおよそ50高専あるので、均等にならせば、どの高専でも5年に1人

は亡くなる計算になります。そう考えると、鹿児島高専でこしばらく、そういう悲劇がおこらなかったのは、奇跡的とさえ思えます。裏を返せば、いつ起きてもおかしくないということでもあります。

本校ではしばらくそういうことがなかったため、本校関係者には、そういう危機意識をあまり感じていらっしやらない人も少なくありません。これは、本当は素晴らしいことなのだろうと思います。そのような心配のない学校生活を送ることができるというのは、学生はもちろん、保護者・教員にとっても、幸せなことだと思います。だからといって、こういうことに無神経になってはいけないのだろうと思います。

何か事が起こってから気を付けるのではなく、事が起こる前に、学生・保護者・教員のそれぞれが、ひょっとしたらそういうこともあるかもしれないと、少しでも自分の周囲に気を配ってくだされば、おそらくこのような悲劇は防ぐことができるのだろうと思います。

友人が、家族が、最近少し様子が変わったような気がする…。クラスメイトが、最近少し悩んでいるようだ…。など、どんな些細なことでもいいのです。ちょっと気が付いたことがあれば、本人に一声かけてあげてください。自殺をする人に共通の心理として、「孤独感」というものが挙げられるそうです。また自分は価値のないダメな人間だという「自己否定」も見られるそうです。そういう状態に陥らないためにも、周囲の人が積極的に声をかけてあげることが大切なのだろうと思うのです。

また同時に、相談室にも教えてくだされば幸いです。相談室は、自分の悩みを相談するところと思っている学生・保護者も多いのですが、友人や家族で気になる人のことを相談してもいいのです。実際に、友人が悩んでいるようだ、あるいは、最近元気がないのだが…と相談に来るケースは少なくありません。そういうことが一つ一つ積み重なって、皆が安心して過ごせる学校になっていくのだろうと思うのです。

再生可能エネルギー技術を 普及させるためのKey point

機械工学科 小田原 悟

原発の安全性に対する国民の不安が日毎に募っている。国は原発から脱却する方向に修正すべきである。そうすると、人々が毎日利用する電力をどのようにして調達するかが今後重要となることは当然である。

再生可能エネルギーの研究は昔から行われている。太陽光、太陽熱、風力、水力など地球の資源を消費しないようにしてエネルギーを有効に得る方法は多く存在する。ただ、供給安定性やコストが大きい問題となっている。

風力エネルギーについて言えば、風速が年平均5～6 m/s以上であれば有効な電力エネルギーが得られる。しかしながら、陸地で平均4 m/s以上の地域は限られている。そこで、10年ほど前に九州大学の研究グループが小さい風力で大きい出力が得られるように風車の周りにレンズ型の集風体を取り付けた“風レンズ風車”を開発した。風レンズ風車によって同じ風速及び直径で通常のものに比べて2～3倍の出力が得られる。

一方、風レンズ風車は高い回転数ゆえに破損トラブルに見舞われるケースがこれまで数度あった。回転中の風車翼に生じる荷重がどの程度であるかは、計算では推定が困難であるので、実際に計測することが必要である。そこで、この問題の解決のために2012年に本校屋上に写真に示すような風レンズ風車（1kWタイプ）を建設設置して安全性の実証試験をする予定である。1kWは家電製品で言えばせいぜいドライヤーひとつ程度の電力量ではあるが、実証試験のためのデータを取得することができる点では十分である。学生の斬新なアイデアで安定した信頼性のある風力発電装置の開発と社会的な早期普及を目指して取り組んでいく。



写真 九州大学春日キャンパスの風レンズ風車
同型が今年本校屋上に建設予定

「行為」と「責任」と「運」

一般教育科 中村 隆文

誰もが日常において、「それはあなたの責任でしょう」とか「これは我々に責任がある！」などの言い方はしょっちゅう耳にしてきたことであろう。そうした「責任」というシステムのもと、或る人たちはなんらかの補償をしたり、罰を受けたりしてきたのであるし、我々だって程度の差はあれそうやって生きてきたはずである。そして、これからもそうやって生きるのが当然であるかのように我々は信じている節がある。

しかし、そもそもそのシステムはどのようにして成り立っているのか？行為と責任の哲学はまさにそれについて問いを投げかける。これはなにも「責任なんて考えるような常識的思考はやめようぜ」というような超左翼的態度の表明などではない（「哲学」についてよくそのように勘違いしてしまう方がいらっしゃるが）。これはただ純粋に、「我々は責任があるとかないとか、大きいとか小さい、とか当たり前のように言っているが、その理由とは一体なんなんだろう？」と見つめ直す、いわば、自分たち現に行っていることを分析するような自己反省にも繋がる問い掛けなのである（もちろん、この「反省」とは懺悔や改善などを直接要求するものではない）。

責任システムについての一つの説明として、「或る種の人間行動は（それが作為であれ無作為であれ）「行為」と呼ばれる種類であるのに対し、別種のものは「非行為」と呼ばれるような区別の仕方が前提となっている」というものをすぐさま思いつく人もいるだろう。つまり、その人が意図をもってその行為したのであればそれは責任があるし、そうでなければ責任はない、という説明であり、これは常識的な解答といえる。そして、そこから「では何が行為と呼べるものであり、何がそうは呼べないか？」という問いが提出できる。この行為論的問いこそが「責任」の分析として一つの方向を示すといえる。そこではさらに、①行為を成立させる心的状態とは何か、そして、②そこで機能している因果性が、行為者の自由と両立しうるか、という問題が関連してくる。①については、Donald Davidson, *Essays on Actions and Events*, Clarendon Press (2001)、②については、Harry G. Frankfurt, “Alternate Possibilities and Moral Responsibility,” in *The Journal of Philosophy* 66 (1969), などが有益なサジェスションを与えてくれている。

しかし、行為と責任との問題は、前者があればすぎさ

ま後者が成立するとか、あるいは、前者がなければ後者は成立しない、とかいうような単純な問題ではない。何故なら、小学生が行う行為のすべてが、その責任をそのまま当事者のその子に帰属させるものであるとは通常考えられないし、また、大人が行為をしたわけでもなんでもないので、ただ当事者だからという理由で生じた結果の責任をとられることはおおいにあるだろう。ここには、「当事者をとりまく周辺環境・社会環境側の視点からの期待」というプラクティカルな要因があるが、しかし、その背後にはさらに根深い哲学的難問が潜んでいる。それこそ、「責任」の分析におけるもう一つの方向性に待ち受ける「道徳的運(moral luck)」という問題である。ほとんどの人は、道徳とは「善人」を肯定・称賛し、「悪人」を否定・非難するような単純明快なものと理解しているかもしれない。また、運次第で責任が負わされるようなことを道徳が許すわけがない、と信じているかもしれない。しかし、複数の人々との交流のもとでの社会的責任が問題となる場合、道徳はそんな簡単なものとなりえない。心が清らかであっても、生じてしまった思いがけない重大な結果に対して道徳的責任を負う必要はあるようにも思われる（結果責任とはまさにその類のものである）。また、同じ行為をした2人であっても、片方がその一連の作用によって甚大な被害をもたらしてしまった一方、他方が別の作用によって社会的にもものすごく貢献した場合は、「同じ意図・同じ行為」にも関わらず、その責任の有無や大小が異なるケースがある。つまり、「行為」と「責任」は、それぞれが単なる独立の変数的な関係項というわけではない。実際には、それを取り巻く社会環境、そして、その時間的経過のもとで行為者単体を越えたところで物事を動かしているような「運」のもとで理解されるような「認識の産物」なのである。Bernard Williams, *Moral Luck—Philosophical Papers 1970–1980*, Cambridge University Press (1981), は、まさにこの問題を論じるなかで、時間的に拡がりながら運に左右されつつ生きる「行為者性(agency)」こそが、「行為」と「責任」という概念を成立させている、と主張する。ここでのポイントは二つである。一つは、或る事柄とそこでの当事者の責任を理解するための我々の道徳的な認識スキーマは、我々自身が思っているほどシンプルで客観的で普遍的なものではなく、そこには運に態度、そして状況依存的な社会的・文化的な色が付着しているということ。もう一つは、「責任」とは単一的な「行為」によって成立されるのではなく、時間的拡がりのなかで覚悟をもって生きるような「行為者(agent)」によってはじめてその成立が可能になる、ということなのである。

発電してみましようか？

一般教育科理系 野澤 宏大

私の研究テーマというと、漠然と「宇宙・天文」という単語を連想する教職員・学生が多いと思います。一般的にはそれで間違いとは言いませんが、正しくは正解ではありません。私の研究テーマは、地球物理学の中に含まれる、「惑星磁気圏物理学」というものです。ターゲットは木星内部磁気圏のプラズマ環境、手法は天体望遠鏡を用いた光学観測、というスタイルを取っているので、世間一般から見れば「宇宙・天文以外の何ものでもない」、というのが実情です。

さて、そのターゲットである木星ですが、これは太陽系最大の惑星として知られている他、地球の約2万倍の磁気モーメントを有する強固な固有磁場と、周期約10時間という高速自転とが織りなす活発な磁気圏を有しています。その様相の代表例である「木星オーロラ」は、ハッブル宇宙望遠鏡による極端紫外線波長域での観測例が多数公開されているので、ご存知の方も多いと思います。

ひとくちに「惑星磁気圏」とは言っても、その特徴は惑星により異なります。地球の磁気圏が太陽活動の影響(外的要因)を大きく受けるのに対し、木星の磁気圏は太陽活動の影響をあまり受けず、そのエネルギーは木星自身の自転により生じる発電(内的要因)によりまかなわれています。と、ここまで話すと、ようやく今回の文章と本来の研究テーマをリンクする「発電」というキーワードが出てくる訳です。以降、木星磁気圏物理の話は出てきませんので、ご安心下さい。

「発電」という単語から、避けて通れない話題が昨年3月11日に発生した東日本大震災と、福島第一原子力発電所の事故だと思っています。「だから発電なのですか？」と考える方もあるかと思いますが、時系列的には逆でして、話は震災の3ヶ月以上前に遡ります。

平成22年12月、とある思いつきから、私は自転車発電機というものを作りました。とは言うものの、ゼロから発電機を作ったわけではありません。書籍やネット上の情報を参考に、自転車の後輪の回転を自動車の発電機(オルタネーター)に伝えて直流12ボルトを発電し、最後にインバーターにより交流100ボルトに変換して家電を動かせるようにする、というものです。その当時、私は4年生の物理学実験を担当していたのですが、実験後半の残り時間にやることなくなった学生を捕まえて、試しに自転車を漕がせてみました。すると想像以上の反響が得られ、教材としての手応えを実感しました。

その後、大震災と原発事故が起こり、電力の安定供給やエネルギー教育の重要性が高まったことと、私が電気電子工学科1年（1E）の担任に（半分作爲的に）なったこともあり、自転車発電機に様々な改良を加えました。結果、1Eの特別活動を皮切りに、某テレビ局の夏のチャリティーイベント、全国高専教育フォーラム、鹿児島市内で行われた某環境・エネルギーフェア、そして某クリスマスイルミネーションの点灯式などで、体感型の教材として大いに活躍することになった次第です。

ところでこの自転車発電ですが、電力の安定供給の難しさと重要性を学ぶ教材としてはいいのですが、実際の電力源としては大変脆弱なものとなります。これを安定供給という観点から、もう少し頼りがいのある電力にしたい、という発想から、次に太陽光発電を取り入れました。基本的には自転車とオルタネーターの部分に太陽電池パネルとチャージコントローラーに置き換え、これにバッテリーを追加するだけです。移行は簡単にできました。このシステムは、平成23年7月から10月末までの間、本校ロータリーの池に設置し、ウォータークリーナーを動かすのに使用していましたので、ご存じの方もいるかと思います。これが池の水環境向上につながったのかどうかはさておき、図1の様に測定結果を（7月4日から屋上で観測を開始したばかりの）日射量と比較することで、太陽光発電システムへの理解を深めることができました。当たり前ですが、日射強度と発電量の時系列変化が、非常によく対応しています。

そんな発電尽くしの平成23年も終盤にさしかかった

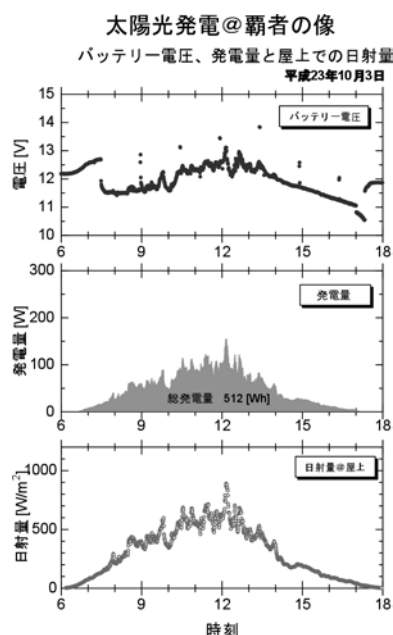


図1 上段：バッテリー電圧、中段：発電量、下段：日射量の時系列変化（平成23年10月3日の例）

ころ、本校のCAD室の前を歩いていたら、都市環境デザイン工学科の岡松先生から、前述の某クリスマスイルミネーション（霧島商工会議所青年部と共同）の話を伺いました。ペットボトルを利用したイルミネーションの電力を太陽光発電でまかないたいとのことで、最初は難儀しましたが、消費電力さえ決まっていれば、あとの話は比較的簡単です。夏以降、本校の池で培ってきた太陽光発電の経験のおかげで、パネル・コントローラー・バッテリー・タイマーの選定、及び回路設計といった電気的な面は、それほど苦労しませんでした。ただし、ペットボトル組に関しては、数が数だっただけに（2万本）霧島商工会議所・本校学生ともに、相当大変だったと思います。イベントの都合上、失敗は許されない状況でしたが、平成23年12月20日から平成24年1月9日までの間、とりえず毎晩イルミネーションに電力を供給することができました。やはりこういうときは、単なる知識よりも実践に裏打ちされた経験がものを言うものです。この辺の下り、何となく実践を重んじる高専っぽくていいですね。

以上、発電について書いてきましたが、これは研究というより、むしろ自由研究に近い内容です。学術論文に直結する訳でもないので、正直のところ研究者としてはあまり面白くありません。しかし一方で、教育者もしくは一般大衆としては、非常に面白いと感じています。とある思いつきから始まったこの1年ばかりの発電活動は、自分にとって何一つ無駄になっていないばかりでなく、あろうことか人様のお役にまで立っています。改めて、発想や着眼点、それから事を起こすタイミングの重要性を認識した次第です。ここで「今後は発電活動をより一層充実させたいと思います」、という教科書的な発言をすれば良いのでしょうか、それだけでは面白くありません。そんなことよりも、今後も常に何か新しいものに取り組む姿勢を忘れぬよう心がけたいです。ということで、1年後の自分に対しては、今とは全く別の取組も行っていることを期待しています。

全く別の取組の参考例：

- ・平成21年度 ティフトン芝の増殖・拡大
- ・平成22年度 金魚の生態と浄水用バクテリア



贈る言葉

機械工学科 5 年担任 岩本 才次

この度、蜚雪の功なつて目出度く卒業する学生諸君に、5 年の担任を代表し祝意を表します。また、保護者の皆様には長年のご苦勞が報われ、この慶き日を迎えられることをお祝い申し上げるとともに、学生諸君の就学に関して陰に陽に御支援を賜ったことを深く御礼申し上げます。

平成 23 年度は、3 月 11 日の東日本大震災とそれに伴う大津波、またそれを主因とする東京電力福島第 1 原子力発電所の致命的事故の衝撃の中で明けました。地震と津波による死者・行方不明者数は 2 万人近くに上り、原発事故による避難者は福島県だけでも 12 万人を超え、その実態は現在でも正確には把握されていません。そして一年を経た今日においても、原子炉溶融と核物質汚染除去の問題については何ら好転する兆しはなく、原子炉由来の飛散核物質による被爆は今も続いています。

災害による就職活動への影響は、大手企業の試験日の先送りなどの形で現れましたが、我が鹿児島高専の卒業生は、立派に自らの本分を全うし晴れがましく学び舎を巣立って行きます。その姿を 5 年担任一同、この上なくうれしく思っています。

科学・技術の一分野である理学と工学の要諦は、簡略に言えば、「理学」は物理現象の真理探究を目的としますが、「工学」は真理探究のみならずその原理を人類社会に役立てることを目的としています。すなわち、工学は必然的に「ものをつくる」という行為を内包します。それは直接的に政治と経済に関連します。従って、政策や経済重視の立場をとるか、科学技術の良心を重視する立場を取るかによって、科学・技術者の取る姿勢は相反する場合があります。技術者となる諸君はどの立場に立つのか、各人の立ち位置が問われることになります。

生物が環境変化を生き抜くためには、その多様性こそが重要であるといわれています。種の単一性は、その種の絶滅を意味します。

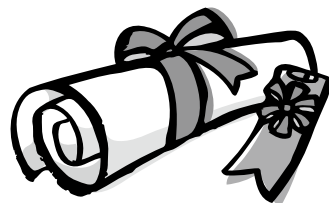
私たちは非関税自由貿易競争（TPP や FTA）による資本主義経済という世界標準の乗り物に乗ろうとしています。日本号だけではなく他の国の乗り物にも、アクセル（経済競争）はあってもブレーキはなさそうです。ちょうど今、急なカーブ（地球環境）に差し掛かっており、ブレーキを踏んでスピードを落とせば安全に曲がれそうだということは皆分かるのですが、踏むべきブレーキがありません。あるのかもしれませんが誰も踏もうとしま

せん。競争に負けたくないからです。さあどうしよう、ということで皆が殺気立っているというのが現在の世界状況のような気がします。

先進国の一員である私たちはどのような心構えで居たらよいのでしょうか。ある仏教書に「昨日と同じ今日を感謝し、今日と同じ明日を願う」という一節がありました。また、「吾ただ足るを知るのみ」という言葉もあります。心の持ち様によっては物質的に豊かでなくても幸せはあるのかも知れません。ブータン王国のように。しかし、一度手に入れた物質的豊かさと利便は失いたくないというのが凡人の業であり悲しさです。確かに、現代社会を生き抜くためには、競争に打ち勝たなくてはならぬことも事実です。時代の移ろいととも人間に直面する問題も変化し、その都度物質的豊かさと精神的豊かさの狭間で思い悩むことになるのでしょうか。

私は、諸君に考える人間になって欲しい、そして他者の立場に立って悩む人間になって欲しいと切に願うものです。

卒業おめでとう。



卒業を迎えて

機械工学科 5年 森 蘭 湧太

月日が経つのは早いもので鹿児島高専に入学してから5年経ちました。私たちは間もなく卒業を迎えようとしています。長いようで短い5年間でした。そして、多くのことを経験し、学ぶことができ、そして、楽しかった5年間でした。

私は4年次までは部活中心の生活を送っていたように思います。高専ならではの部活動であるロボコンに携わり、自分たちで一から物を作っていくことを経験できたことはとてもためになったと思います。様々な種類の工作機械の使用や、CADを用いた設計などを低学年のうちから学べたことは学校の授業や実習にも役立ちました。高学年では部活の中心となり、後輩の指導や部活の統括など、将来的に役に立つ経験をすることができました。何より、チームワークの重要性を学べたことが非常に価値あることだと思います。

最終学年である5年は卒業研究を始めとして多くの新しい体験をすることができました。大阪府や三重県、北海道など多くの場所を訪れることもできました。昔からの夢であった鈴鹿サーキットに行くことができ、そこでレースに参加することができたことには感動を覚えました。

志学寮では4年間過ごし、夜遅くまで皆と一緒に勉強したり、レポートを書いたりしたこともありました。親元を離れての生活は、最初は戸惑うことも多くありましたが、親のありがたさなど多くのことを気づかせてくれる機会になりました。

高専でこのように様々な経験ができたのは、クラスメイトや部活のメンバーを始めとした友人たちがいたからだと思います。クラスでは5年間共に過ごしてきて、時にも言い争ったり、物理的に揉めたりすることもありました。しかし、それも今では笑い話にできるいい思い出です。共に生活する中で様々な名言も生まれ、忘れられないものとなりました。高専生活5年間を通して、多くの友人を得ることができ、彼らのおかげで有意義な高専生活を送ることができました。卒業して就職・進学していき、皆ばらばらになりますが10年、20年と経ってもまた再会することを楽しみにしています。

私は、進学して勉強することはもちろんのこと、コミュニケーション能力などの社会に出て必ず必要になる能力を鍛えていきたいと思っています。

最後になりましたが、5年間お世話になった先生方、家族、先輩後輩その他の方々、そして友人たちにこの場

をお借りしてお礼を申し上げます。5年間ありがとうございました。

5年間を振り返って

電気電子工学科 5年 増山 翔

高専に入学してから5年たち、いよいよ卒業です。5年間で様々なことを体験し、学ぶことができました。

高専に入学して大きく変化したことは寮に入ったことです。全然知らない人と一緒に生活することや集団で行動することに不安がありましたが、寮生活を通して親のありがたさやおいしいご飯が食べられる幸せに気付かされました。共に過ごす時間が多いため、普通の学校生活では得ることができない仲間に出会えたと思います。また、テスト期間では人に教えること、伝えることの難しさを痛感しました。

1年生から3年生まで部活の弓道に励み、他学科に友達ができ、先輩や後輩ができました。大会に出場することで負ける悔しさや勝つ楽しさを味わうことができました。そして、弓道の三段取得のためコーチの先生から技以外の心についてもご指導をいただき、非常に勉強になりました。

高専祭は鹿児島高専が誇れる行事です。高専祭はクラスが丸一となつて取り組みました。私はやぐら絵を担当しました。やぐら絵の製作は毎日夜遅くまで作業し、大変なこともありましたが皆で一つのことをやり遂げる達成感を味わうことができました。

4年生になり、工場見学がありました。習慣を変える製品を提案している花王の川崎工場や、首都圏の電力をまかなっている東京電力横浜火力発電所などを見学しました。また、東芝科学館では東芝の製品等を通じて最新の技術に触れることができました。クラスのみんなと一緒に過ごすことができ、とても楽しかったです。

5年生では卒業研究があります。今までの授業は先生に教えられてきましたが、研究は自分で考えて実験や解析を行わなければなりません。実験や解析を行った後、結果の整理や考察をして担当の先生に報告をします。仕事や研究はチームですするため、実験の結果などを他の人にわかりやすく伝え、情報を共有する必要があります。これを習慣にすることが大切だと感じました。

卒業後は、5年間の経験を生かし専攻科で勉強と研究をがんばります。

鹿児島高専を卒業するにあたり

電子制御工学科 5年 岡山 亮太

平成 19 年 4 月、桜が見事に咲き誇るなかで入学式が行われ、自分たちは鹿児島高専に入学しました。あれからもう 5 年が過ぎ、ついに卒業することになりました。このような文章を書かせていただく機会をいただいたため、この 5 年間で振り返ってみたいと思います。

1 年生の時、自分たちが入学した頃は 1 年生も寮生活と自宅通学を選択することができました。そこで自分は自宅通学ではなく寮生活を選び、不安と期待の中での高専生活が始まりました。クラスには当然のことながら知っている人がおらず、不安は増すばかりでした。しかし、始まってみると様々な問題やいざこざはあったものの、それなりの学校生活を送ることができていました。自分は中学校の時は何の部活もしていなかったため、高専に入学した際には何か部活をしようと決めていました。そこで自分は吹奏楽部とワンダーフォーゲル部、バトミントン部の 3 つで悩みました。最終的に自分は吹奏楽部に入部し、掛け持ちでワンダーフォーゲル部にも入部しました。その後、環境創造物理研究同好会にも掛け持ち入部しました。体育祭のスケールの大きさや寮生パーティーの壮大さ(?)にビックリしました。何もかもが新鮮で、驚きが満載の 1 年間でした。

4 年生、この学年は高専生活でも特に大きなイベントのある学年です。それは、高専祭では櫓絵や応援団で中心となることと、工場見学旅行です。自分がこの学年で特に思い出となっているのは、工場見学旅行です。行先は東京方面でした。ANA の整備工場や日産自動車の工場などを見学してまわりました。自由時間には秋葉原に行ったり、渋谷に行ったり、原宿へ行ったり、幕張メッセまで行ったり、六本木に行き、そこから歩いて 1 時間ぐらいかけて渋谷駅まで行ったり…。様々なところへ行きました。とある人物と共に初めてメイド喫茶に行き、びっくりするぐらいの金額を請求されたことが自由時間の中で印象深いことでした。様々な経験ができた工場見学、また行きたいといまだに思います。

5 年生は就活がとても忙しく、就職先が決まると次は卒業研究が忙しくなってきました。この文を書いている時はまだ 12 月なので、卒業論文はまだできていません。提出日までに完成することを願っています。もう少し学生生活の期間があるので、卒業研究をきちんとして、空いた時間で楽しい時間を過ごしていきたいと思います。クラスのみんな、部活と一緒に活動してきたみんな、自分が挫折せずに 5 年間高専生活を送ることができたの

は、みんなのおかげだと思います。ありがとうございました。

最後に、先生方、技術職員の方々、他職員の方々、5 年間お世話になりました。学校生活だけではなく、社会人になってからも大切なことも教えてくださったり、様々な悩みに相談にのってくくださったり、とても感謝しています。本当にありがとうございました。今後も、先生方やクラスのメンバーなどにはお世話になったり、相談したりすることがありかもしれません。その際はよろしく願いいたします。

最後に、高専生活はとても楽しかったです。

皆さん、本当にありがとうございました。

感謝の言葉で振りかえる 5 年間

情報工学科 5年 盛田 詩織

5 年間とは、こんなにあっという間に過ぎるものなのでしょうか。卒業を目前にして改めて振り返ると、私にとって濃く短い高専生活でした。

私達の学級、情報工学科は女子学生の比率が高く、入学式ではちょっぴり安堵したことを思い出します。初めての 3 年間では部活動のソフトテニスに励みました。その時のチームメイト、コーチには本当にお世話になりました。部活動で得られたことは沢山あり、どれも忘れられない思い出です。本当にありがとうございました。

2 年生から始まった工学実験では毎週レポートに泣きました。真剣に取り組んだ分、記憶にととも残っています。しっかり提出できてよかったと本当に思います。4 年生ではインターンシップ、高専祭、工場見学という行事ラッシュに盛りあがりました。インターンシップと工場見学は将来の自分を考えるきっかけになりました。高専祭では櫓に携わりました。あれ程大きなスケールのもので作り上げるという達成感はそうそう味わえるものではないと思います。そして 5 年生での就職活動。不安に襲われた数カ月でしたがが無事に決まりました。改めて周囲の力添えに感謝します。これからがスタートです。新天地でまた気を引き締めて頑張っていきたいと思います。

私は一期一会という言葉が好きです。高専に入学し、出逢う事のできた友人とは、これからも仲良くしていきたいです。名ばかりであったかもしれませんが、総務という立場で 5 年間学級に関わられてとても幸せでした。本当にありがとう。クラスマッチで(焼き肉の為に)燃え

る皆が大好きです。

この5年間、私はとても充実した日々を送ることが出来ました。これも自分を支えてくれた家族のサポートがあったからだと思います。この場を借りて、お礼を言わせて下さい。最後に、ご指導していただいた先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

5年間の思い出

土木工学科 5年 足立 宏富

5年前に鹿児島高専に入学してからもう今年卒業の年を迎えました。

過ごしている間はひたすらに長かった5年間でしたが、残りの学生生活も少なくなってきた今、時の過ぎる早さを感じます。新幹線が全線開通して、鹿児島中央から気がついたら博多に着いているような早さでした。

僕は5年間サッカー部に所属していました。一年生の頃は雑用の割合が大きかったのですがそれでもサッカー三昧の毎日でした。暑い季節も寒い季節も皆でボールを蹴っていました。長期休みの間に行われる合宿では、朝日が昇る前に起きて一日中走り回って、ボール蹴って、バイキングのご飯を腹いっぱい食べて、ミーティングが終わったところには疲れ果てて次の日に備えてぐっすり眠りました。そんな毎日がきついと思うことも、休みが少ない、もっと休みが欲しいと思うことも、ほんのたまにありました。この5年間を振り返ってみるときつい思い出の方がよみがえってきます。

思えば僕は5年間クラスの総務をやらせてもらいました。きっかけは一年生の頃、当時の担任赤澤先生に「写真写りが一番いいから」と言われ、総務を選ぶ基準は写真写りなのか、と多少疑問に思うところもありましたが、そこから5年間総務をやらせてもらいました。とはいっても、特に何もすることはありませんでした。しいて言うなら現場見学などに行った際の最後に会社の人たちへのあいさつが一番大きな仕事でした。「本日はお忙しい中・・・学校の授業だけでは分からない・・・本当にありがとうございました。」とワンパターンのあいさつに皆から「この前も同じこと言ってなかった?」と、つつこまれ、恥ずかしさを感じることも多々ありました。応援団にしても見学旅行にしても楽しかった毎日もあったという間に過ぎてしまいました。ですが、高専で得た経験と仲間は一生忘れません。

まだまだ思い返せば書くことはあるのですが、とても

A4用紙1枚に書ききれものではないのでこの辺で我慢したいと思います。

最後に、この高専での5年間に僕に関わっていただき、お世話になった先生方、仲間たちに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

5年間本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

専攻科を修了するにあたって

機械・電子システム工学専攻 2年 中島 佑太郎

気がつくと今までの22年間の私の人生の内、鹿児島高専での生活は約1/3をも占めていました。そんな鹿児島高専での7年間は多くの方との出会いがあり、私にとって非常に密度の濃い日々でした。

本科での5年間は勉学にも励みましたが、特に私は部活動に力を入れました。私は陸上部に所属しており、指導者の先生方、コーチの方、そしてチームメイトに大変恵まれ、多くの貴重な体験をすることができました。時には故障に悩まされたり、チームメイトとの意見の衝突もありましたが、それらを乗り越え、最終的にはチーム一丸となり、全国高専大会4×400mリレーで2位を獲得することができました。みんなで同じ目標に向かって、互いに切磋琢磨しながら練習ができたことは最高のチームの証であり、これらの体験が今の私のシン（芯、心）を大きく成長させてくれたのだと思います。私にとっては本科時代で1番の大切な思い出です。

そして5年生の春、私の今後の人生を大きく左右するであろう進路選択がやってきました。私は他大学への編入や技科大への入学等ギリギリまで迷った末に専攻科への進学を決めました。専攻科はJABEE認定校であり、条件を満たせば技術士補となれるため技術士への近道となります。進学に関しては、後のページに掲載されている修了生の就職進学一覧を参照していただきますと、大変魅力的で多様な進学先があることがわかると思います。そして何より、専攻科では研究に力を入れることができます。本科5年次の卒業研究、及び専攻科での2年間の特別研究と、普通の大学と比較して2年も長く研究に携わることができます。この3年間の研究活動は、大学院への進学を考えていた私にとって非常に心強い武器となりました。また専攻科1年生のうちは講義が多いため単位の修得に集中することになりますが、2年生の講義は大部分が選択科目なので自由な時間が増えます。専攻科

ではこの自由な時間の使い方こそが重要であり、私は積極的に特別研究やTOEICの勉強に活用しましたが、他にも資格試験や進学先の勉強をすることができます。さらに、PBL形式の講義（問題解決型授業）、2度の学会発表、及び大学院入試等を通して、自分の研究テーマに対する知識はもちろんのこと、プレゼンテーションスキル、及びコミュニケーションスキルもアップさせることができたと思います。

私は専攻科を修了後、東京大学大学院新領域創成科学研究科へ進学します。今の自分があるのは、指導してくださった先生方、友人、及び家族の支えがあってこそであり、感謝の気持ちでいっぱいです。これから新しい環境での生活になりますが、鹿児島高専専攻科を修了したことを誇りに持ち、大学院での研究に勉学に励んでいきたいと思います。

皆様、お世話になりました。

鹿児島高専専攻科を修了して

電気情報システム工学専攻2年 丸山 幸輝

専攻科に進学して、早いものでそろそろ2年が経とうとしています。思い返せばこの2年間、様々な事を経験し、心身共に大きく成長することができました。

入学した当初は、進学とはいえ以前とほとんど変わらない環境での生活なので、特に不安はありませんでした。授業では、本科とは異なり、自分が授業で学んだことをプレゼンしたり、他の分野について学んだり、幅広く密度の濃い講義を受けることができました。私は特に「環境創造工学プロジェクト」で他学科の学生と協力し、新聞紙でイスを製作したことがとても印象に残っています。一見単純そうに思えますが、人が座となると相当強固で安定してなければなりません。さらに製作条件も付加されることで、エンジニアの醍醐味であるものづくりに必要な創造力を養うことができたと思います。また、あの授業をきっかけに、他学科の仲間と新たなコミュニケーションが生まれ良い刺激になりました。

5年生から引き続き行なっている研究では、専門知識はもちろん、後輩が研究室に所属してきたことにより、指導力やリーダーシップ力を身につけることが出来ました。これは、社会人は備えるべきと認識しているので、積極的に指導にあたりました。また、取得データを解析して、まとめ、皆で議論し、発表することで、エンジニアとして基本的な考える力やチーム内で働く力、相手に

伝える力を養うことが出来ました。私の研究室は企業と大学との共同研究なので、学生である我々が企業と共に研究を行うことはとても良い経験となり、これは今後の社会人生活で最も大きな糧となると思います。

私は専攻科修了後、とある化学メーカーにプラントエンジニアとして就職します。プラントエンジニアではプラント建設という規模の大きなプロジェクトに携わることができ、海外の需要が多いことから、海外で働く機会も与えられます。私は以前からこの大規模でグローバルなプラント業務に携わりたいと考えており、いろいろ探した結果、この会社に就職が決まりました。電気科卒でありながら化学メーカーを選んだ理由の1つに、異分野のメーカーでの電気部門における業務が幅広く、様々な仕事を行えることがあります。幅広く業務をこなすことは大変だと思いますが、プロジェクト全体を見通すことは重要です。そのための様々な技術や専門知識を身につけることは、エンジニアとしてのまた新たな成長になります。プロジェクトを終えた時の達成感は間違いなく大きいものであると思います。

最後に、高専生活7年間ご指導くださった先生方や先輩方、共に学生生活を過ごしてきたクラスの皆さんに、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。今後は学生ではなく、社会人として生活していきます。学生と社会人では立場が全く異なります。専攻科入学当初とは違い、不安と期待が入り混じった複雑な心境ですが、これまで高専で学んだことを生かせるように、さらに努力していこうと思います。ありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

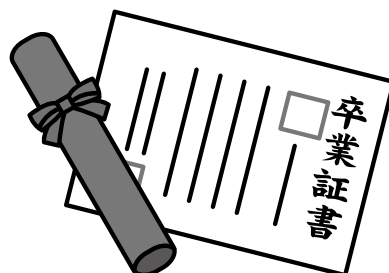
土木工学専攻2年 宮原 景信

卒業生・同期の皆様、ご卒業・ご修了、おめでとうございます。また、在校生の皆様は進級おめでとうございます。私は今春、この鹿児島高専専攻科を修了します。思えば8年もの間、私はこの鹿児島高専に通い続けたことになりましたが、学生生活はあっという間に過ぎていき、今春からは大阪を中心にお客様にガスを提供する仕事につきます。在校生の皆様も、テストや体育祭などの学校行事をこなしていくうちに、あっという間に過ぎていく学生生活を悔いの残らないように過ごしてください。

これまでの学生生活を通して、私はこの学校には皆様の夢をかなえてくれる力があると思いました。私は4年次に留年をし、「このまま学校を辞めようか」と悩んだ

ことがあります。しかし、私は思いとどまりました。その後、本科を卒業、専攻科に進学、さらにこの学校に入学した時の目標である企業の内定を頂くことができました。

それは、この学校に一人一人が輝くことができる環境があるからです。何年も同じ学校に通い続けましたので、先生方はひとりひとりの顔を覚えてくださっていますし、卒業研究の際には大学とは違い一人の学生に対して多くの時間を割いて指導していただけます。また、長い間、同じ環境で過ごしてきたことで友人たちとは深い交流をすることができ、手を取り合って勉強や部活動などを行うことができます。皆様もそのような恵まれた環境で学生生活を送ることで、進路に悩む時期には人並み以上の専門的知識と大学生と同等の一般教養も持ち合わせ、きっと幅広い選択肢が用意されているでしょう。ですから進路に悩み、自分では無理だとは決して思わずに、まっすぐ自分のやりたかったことを目指してください。そして夢を実現するためにもこれからの学生生活に花を咲かせて実りあるものにしてください。最後に先生方、学校職員の皆様をはじめとしてこの学校での生活にこれまでお世話になった皆様にこの場を借りて感謝の言葉を贈ります。



— 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 —

《機械工学科》

ANA フライトラインテクノクス株式会社
TOTO株式会社
旭化成株式会社
大阪ガス株式会社
大阪シーリング印刷株式会社
株式会社コスモテック
株式会社シマノ
株式会社テクノ21
株式会社日立プラントテクノロジー（2名）
株式会社ヤマサキ
関西電力株式会社（2名）
キヤノン株式会社
九州旅客鉄道株式会社
京セラ株式会社
極東石油工業株式会社
山九株式会社
シチズン時計鹿児島株式会社
ダイキン工業株式会社
中部電力株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東洋インキＳＣホールディングス株式会社
独立行政法人国立印刷局
日立建機株式会社 日本事業部
三井製糖株式会社
三菱自動車エンジニアリング株式会社
三菱重工業株式会社下関造船所
村田機械株式会社
メタウォーター株式会社（2名）
鹿児島高専専攻科（6名）
熊本大学
豊橋技術科学大学
山形大学

《電気電子工学科》

J F E スチール株式会社西日本製鉄所
オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社
ソニーセミコンダクタ株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社NHKアイテック
株式会社Y P K
株式会社ソフト流通センター
株式会社親和電機
株式会社南電工
株式会社日本システムデザイン
株式会社日立ハイテクフィールドディング
関西電力株式会社（3名）
丸善石油化学株式会社千葉工場
京セラ株式会社鹿児島国分工場
京セラ株式会社鹿児島川内工場
九州電力株式会社（2名）
九州旅客鉄道株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
鹿児島空港エンジニアリング株式会社
石田エンジニアリング株式会社
大阪ガス株式会社
中部電力株式会社
東海旅客鉄道株式会社
九州工業大学（4名）
熊本大学
鹿児島高専専攻科（5名）
鹿児島大学
豊橋技術科学大学
立命館大学

— 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 —

《電子制御工学科》

イクス株式会社
大岡技研株式会社
鹿児島市役所
株式会社森精機製作所
関西電力株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場（2名）
京セラ株式会社鹿児島川内工場
住友化学株式会社千葉工場
ダイキン工業株式会社
ダイダン株式会社
電気興業株式会社
東海旅客鉄道株式会社
独立行政法人国立印刷局
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社
富士ゼロックス株式会社
富士ゼロックス福岡株式会社
富士通株式会社
三菱電機株式会社神戸製作所
三菱電機システムサービス株式会社
三菱電機特機システム株式会社
南九州川崎建機株式会社
メタウォーター株式会社
安川コントロール株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
音楽専門学校ミューズ音楽院
鹿児島高専専攻科（6名）
九州工業大学（4名）
豊橋技術科学大学（2名）

《情報工学科》

CTCシステムサービス株式会社
CTCテクノロジー株式会社
NTTコムテクノロジー株式会社
大阪ガス株式会社
オムロンリレーアンドデバイス株式会社
株式会社藤田ワークス
株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ
関西電力株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
スマートエンジニアリング株式会社
セイコーエプソン株式会社
東海旅客鉄道株式会社
日本放送協会
富士通株式会社（2名）
メタウォーター株式会社
メルコ・パワー・システムズ株式会社
森永乳業株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト
京セラコミュニケーションシステム株式会社
富士電機株式会社
鹿児島高専専攻科（4名）
九州工業大学（2名）
熊本大学
豊橋技術科学大学
広島大学
鹿児島大学

— 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 —

《土木工学科》

IHIプラント建設株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
あおみ建設株式会社
出光興産株式会社
宇部興産株式会社
大阪ガス株式会社（2名）
小野田ケミコ株式会社
鹿児島県庁（2名）
鹿児島水処理株式会社
株式会社シーティーアイグランドプランニング
株式会社カーネギー産業
株式会社九建
株式会社ブリッジエンジニアリング
株式会社ヤマウ
株式会社ヤマサキ
九州電力株式会社
九鉄工業株式会社
霧島市役所
こうかき建設株式会社
五洋建設株式会社
三軌建設株式会社
成豊建設株式会社
電源開発株式会社
東海旅客鉄道株式会社
東京コンサルタンツ株式会社
東京ファブリック株式会社
東邦ガス株式会社
東洋建設株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
日特建設株式会社
万代ホーム株式会社
山崎プラント株式会社
ライト工業株式会社
鹿児島高専専攻科（2名）
千葉大学
長岡技術科学大学

《機械・電子システム工学専攻》

セイコーエプソン株式会社
株式会社カネカメディックス
株式会社ジェイ・エム・エス
株式会社日立プラントテクノロジー
住友金属工業株式会社交通産機品カンパニー
本田技研工業株式会社
豊橋技術科学大学大学院
九州工業大学大学院
九州大学大学院（3名）
東京大学大学院

《電子情報システム工学専攻》

旭化成ケミカルズ株式会社
株式会社日立情報制御ソリューションズ
九州リオン株式会社
セイコーエプソン株式会社
株式会社ダイセル
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社
大阪大学大学院
九州工業大学大学院
九州大学大学院

《土木工学専攻》

東京水道サービス株式会社
九州旅客鉄道株式会社
株式会社クリタス
大阪ガス株式会社

新任挨拶

総務課財務係 米倉 亜友美

平成 23 年 8 月 1 日付けで総務課財務係に採用になりました、米倉亜友美（よねくらあゆみ）と申します。

私は、生まれも育ちも隼人町ですので、地元の学校で仕事ができることにとても喜びを感じております。鹿児島高専に来てとてもびっくりしたことがあります。それは、学生みなさんがいつも笑顔で挨拶をしてくれることです。まだ鹿児島高専に来たばかりで、何も分からなかった私にとって、学生さんたちとの挨拶は仕事をしていく上でとても励みとなりました。社会人 1 年目ということで、初めの頃は何をどうしてよいか分からず、戸惑ってばかりいて、周りの方々にご迷惑をかけてばかりいたのですが、いろいろな方の暖かいご指導とご協力のおかげで、今では少しずつですが、落ち着いて仕事ができていると思います。

私が担当している業務は、旅費の支給や謝金の支出など、主に支払いに関する業務を担当しております。まだまだ分からない事が多く勉強の毎日ですが、様々なことを吸収して、少しでも学生の皆さんや教職員の皆さんのために役立てるよう日々努力して参りますので、至らぬ点も多くあると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



退職のご挨拶

一般教育科 理系 赤沢 正治

三十年程前に、「新任の挨拶」を書きました。
…「鹿児島高専の印象は？」と聞かれたら、「夕陽の美しさです。」と答えることにしています。バドミントンで汗を流した後、爽やかな風を頬に受けて沈みゆく大きな赤い太陽を見送るのは、格別です。『赤々と山燃えて陽は暮れかかるシャトル追いし学びの庭に』…
という様なことを書きました。その頃の卒業生の子供さんがバドミントン部に入部するようになりました。時は流れ、人も流れる中、私は次第にシャトルを満足に追いかけられなくなりましたが、隼人の夕陽の大きさそして美しさはそのままです。

顧問をしたバドミントン部や野生動物研究部そして授業等で巡り会った学生諸君から、実に多くのことを学んできました。しかし、私の感受性の減退が一番の問題ではあるのですが、目が輝き頬が光っている元気玉満帆の学生が少なくなってきた現状がとても気掛かりです。さて、話は少し逸れますが、物理では「力」をととても大事に扱います。「ニュートンの運動の三法則：力と加速度」についての解説のついでに、高専での五年間で「一番目に現場で技術者として通用する学力、二番目に働き続けるための体力、そして三番目に上を目指し失敗にも挫けない気力」をしっかりと養いなさい、と話してきました。最近とみに感じる学生の学力と体力の低下もさることながら、気力の薄さがとても気掛かりです。

「サラダ記念日」という短歌集が評判になった頃の学生が、「俺たちのサラダ記念日」という卒業文集を書き残してくれました。その中の

技術者の卵と言われて早や五年

殻が硬くてなかなか破れん

という大傑作が未だに忘れられません。「啐啄同時」という言葉があります。雛が殻の内側から破ろうと奮闘しているのを、親鳥が殻の外側からそっと手助けをする。これは正に教育の現場における学生と教員の本来の姿ですが、まずは『自ら進んで殻を破ろうとする気力』が肝要だと思います。

このままでは沈没しかねない日本を救う若い力に期待しています。

退職にあたって

情報工学科 榎園 茂

昭和50年4月に電気工学科助手として採用され、電気工学科に13年、情報工学科に24年、計37年間在籍し、この3月末に定年を迎えることになりました。

赴任当初は情報教育システムセンター内に教員室が与えられ、古賀先生、外菌先生と一緒に全学科の情報処理教育のお世話と、電気工学科の工学実験を担当しました。電気工学科の最初の担任ではE科13期生の3年、4年、5年の3年間を担当して送り出しました。当時の高専は男子校状態で元気な学生が多く、若葉マーク付の担任としては、学生と衝突することもあり、指導力の不足を感じさせられた時期でした。先輩の先生方のご助言があつて務められたと思っています。

在任中の一番の思い出は情報工学科の増設（平成61年4月）に関わった事です。その前年度から芝先生と共に学科棟の建屋の検討や、2年次から始まる工学実験の実験テーマの選定、工学実験の装置や設備の購入計画、担当する1期生の授業の準備、その他諸々のゼロからスタートする新設学科立ち上げ作業を、微力ながら手伝いさせていただきました。平成61年2月の1期生の入学試験では情報工学科の志願倍率は3.6倍（ちなみに4期生の倍率が学科最大で4.8倍）で、合格した43名（内女子7名）が入学しました。62年10月に情報工学科棟が完成し、和田先生、芝先生、榎園の3名が学科棟の5階、4階の教員室に入りました。情報工学科では延べ8年間担任し、3回の卒業生（I科1期生、8期生、17期生）を送り出しましたが、どのクラスも真面目で勉強熱心な学生が多く、楽しく担任させてもらった印象しか残っていません。多くがIT業界で活躍されており心強い限りです。

他にも硬式テニス部の顧問として、学内や学外で行った合宿など思い出は尽きませんが、こうして無事に定年を迎えられますのも、共に学んできた学生諸君、現在の教職員や歴代の教職員の皆様、更には保護者の皆様の暖かいご支援とご配慮の賜物と、心より感謝申し上げます。長い間誠に有難うございました。

最後に、本校の更なる発展と、皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして退職のご挨拶といたします。

平成22年度永年勤続表彰 (退職時) について

永年勤続表彰は、退職の日において、在職期間30年以上の方を表彰するものです。平成22年度永年勤続表彰式については、平成23年3月31日（木）に校長室で行われました。表彰者は次の5名の方です。

所 属	氏 名
一般教育科理系	藤 崎 恒 晏 教 授
電気電子工学科	加治屋 徹 実 教 授
電子制御工学科	河 野 良 弘 教 授
都市環境デザイン工学科	内 谷 保 教 授
総務課（総務担当）	小田原 正 享 総務課長補佐



山内教授が国立高等専門学校教員 顕彰「優秀賞」を受賞

都市環境デザイン工学科山内教授が、平成22年度国立校等専門学校教員顕彰「特別賞」を受賞されました。この教員顕彰は、「国立高等専門学校教育業績賞」という名称で、教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められ教員を表彰するものです。

山内教授は、地域資源を活かした産学官・農商工連携プロジェクトに学生を積極的に参加させ、学外の研究者、技術者と技術開発を共にすることで、幅広い視野をもち、かつ、自己の研究に対する強い自覚を持った学生を育成することに繋がった。同時に、学習意欲・研究意欲の向上により、学会発表や資格試験においても、大きな成果を上げた。これらのことが高く評価され今回の受賞となりました。

この授与式が、平成23年10月3日（月）に校長室で行われました。



平成23年度教育功労者表彰 について

この教育功労者は、本校の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

教育功労者選考委員会委員及び各学科等の長から推薦のあった方について、平成23年8月9日（火）に教育功労者選考委員会を開催し、選考の結果、次の10名の方が平成23年度教育功労者に決定しました。この表彰式が、平成23年10月7日（金）に大会議室で行われ、それぞれに表彰状及び記念品が授与されました。

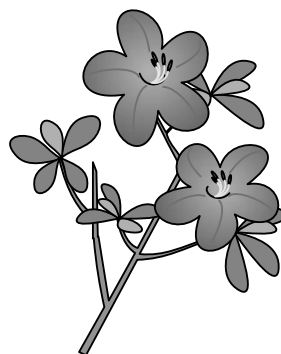
所 属	氏 名
一般教育理系	山 崎 亨 嘱託教授
機械工学科	渡 辺 創 助 教
電気電子工学科	今 村 成 明 准教授
電子制御工学科	原 田 治 行 教 授
情報工学科	幸 田 晃 教 授
情報工学科	芝 浩二郎 教 授
都市環境デザイン工学科	山 内 正 仁 教 授
都市環境デザイン工学科	岡 林 巧 教 授
都市環境デザイン工学科	山 田 正 義 講 師
技 術 室	上 沖 司 技術専門職員



平成23年度永年勤続表彰 について

永年勤続表彰は、勤労感謝の日において、在職期間が20年以上の方を表彰するものです。平成23年度永年勤続表彰式については、平成23年11月29日（火）に校長室で行われました。表彰者は次の4名の方です。

所 属	氏 名
一般教育科理系	村 上 浩 准教授
都市環境デザイン工学科	山 内 正 仁 教 授
学 生 課	田 畑 優 子 学生課主任
技 術 室	上 野 孝 行 第一技術班長





23年度 国際交流事業

国際交流・留学生担当 椎 保幸

現在、本校が行っている国際的な活動としては、海外出前授業、海外語学研修、国際学生交流、海外インターシップ、留学生支援活動等が挙げられます。そこで、これらの活動に関して平成23年度に実施された事業および実施予定のものについて報告いたします。

[1] 海外語学研修

① 23年度カナダ語学研修

日 時：平成23年9月13日から9月23日

研修先：ノートルダム・リージョナルセカンダリースクール（カナダ・バンクーバー）

対 象：本科学学生2年生および3年生

参加者：2年生13名、3年生1名 計14名（うち女子学生2名）

引率者：岡松国際交流委員、篠原2年電子制御担任
（概 要）

本研修では、学生はホームステイをしながら研修先（キリスト教系の高等学校）に通い授業を受けます。本校学生には研修先高等学校の生徒が世話役（Buddy）としてつき、Buddyが受けている授業と一緒に受講します。この研修は、主に現地生徒やホストファミリーとのコミュニケーションに主眼を置き、異文化理解および英語力の向上を目指した内容となっています。



② 23年度パース語学研修

日 時：平成24年3月14日から3月23日（予定）

研修先：ジョンフォレスト・セカンダリーカレッジ（オーストラリア・パース）

対 象：本科学学生1年生および2年生

希望者：1年生10名、2年生6名 計16名

引率者：坂元国際交流委員、三原国際交流委員

（概 要）

カナダ研修と同様、学生はホームステイをしながら研修先に通い授業を受けます。パースの語学研修では、カナダ語学研修と異なり、上記の授業参加に加え、ものづくりの授業を取り入れています。内容は簡単なロボット製作ですが、ここでは本校の学生が指導役となり、現地の生徒に組立て方法を教えながらグループでロボットを組み上げるというものです。参加対象は本科1、2年生であり、本研修では英語学習および工学への動機付けを行うことを目的としています。

[2] 国際学生交流

① 第4回テマセクポリテクニクとの学生交流

日 時：平成23年9月7日から9月16日

場 所：テマセクポリテクニク（シンガポール）

対 象：本科学学生3年生および4年生

参加者：3年生21名（うち女子学生3名）

引率者：樫根国際交流委員、椎

（概 要）

本校では平成21年度からシンガポールのテマセクポリテクニクとの国際学生交流を実施しております。この交流は、テマセクポリテクニクの学生と本校学生とが交互に相手校に訪問し交流を深めるとともに、現地での研修や企業見学等を通し、異文化理解をすることを目的としております。また、本校の学生にとっては研修先での英語によるプレゼンテーションの授業を通して、英語によるコミュニケーション能力を養うことができるなど、低学年生向けの海外語学研修に比べ、よりレベルの高い研修内容となっております。





②第5回テマセクポリテクニクとの学生交流

日 時：平成24年3月29日から4月3日（予定）

場 所：本校および鹿児島県内

来訪者：テマセクポリテクニク学生30名程度、引率者2名

（概要）

昨年（22年度）は、東北地方で起きた大震災の影響により、3月に予定していた本校での交流会が実施困難となり、残念ながらキャンセルとなりました。テマセクポリテクニクの学生は日本に大変興味を持っており、昨年度実施出来なかったこともあって、今回の交流は大変楽しみにしております。本校での交流の内容としては、日本文化の紹介や各種レクリエーション、また、県内の企業見学や観光地巡り等を予定しています。この交流によって、より一層親交が深まることを期待いたします。

〔3〕海外出前授業

日 時：1回目 平成23年6月14日から6月21日

2回目 平成23年9月6日から9月14日

場 所：カセサート大学（タイ）

対 象：大学生および付属校の中学生、小学生

派遣講師：引地国際交流委員

（概 要）

①大学生向け

- (1) ロボットと地球環境との因果関係、ロボットの必要性および動く仕組みに関する講義について、環境



工学講義室で環境工学科の学生を対象に英語とタイ語で授業を行った。特に、福島原子力発電所の事故調査で必要とされるロボットの課題について学生に考えてもらった。

- (2) 実際にロボットを製作するにあたって重要ポイントについて理解してもらった。
- (3) 後半は受講生全員で「4チャンネル操作型ロボット」（環境工学科に対応させて汚泥サンプルの入った500mlPETを回収するマシン）の製作に取り掛かり、動作のメカニズムについて実習した。
- (4) 最後に、8月までの3か月間で行うロボットの製作のノウハウに関する助言を行った。

②中学生、小学生向け

- (1) ロボットの動く仕組みに関する講義について理科室で生徒および教員を対象に英語およびタイ語で一日あたり2時間行った。
- (2) 実際にロボットを製作するにあたって重要ポイントについて理解してもらった。
- (3) 後半は受講生全員で「ピンポン玉運搬ロボット」の製作に取り掛かり、動作のメカニズムについて実習した。
- (4) 最終日に、ロボットの製作について助言を行った。



〔4〕海外インターンシップ

日 時：平成24年3月中旬から3週間（予定）

派遣先：グルメ・マッシュルームズ社（アメリカ・カリフォルニア州）

参加者：土木工学科4年生および5年生 数名

（概 要）

昨年度、カリフォルニア州セバストポリにあるグルメ・マッシュルームズ社（GMI）に海外インターンシップとして土木工学科の学生2名を派遣した。この会社は、きのこの生産を手掛ける会社であり、都市環境デザイン工学科の山内教授の研究グループが連携をとっている。このインターンシップでは、きのこの栽培から減菌、培養、収穫までの一連の作業を実際に体験し、さら

には食品廃棄物を利用した菌床栽培について学ぶ。同社との連携を今後も継続していきたいと考えており、今年度も学生の派遣を予定している。

〔5〕留学生支援活動

①留学生パーティ

日 時：平成23年10月7日（金）

場 所：本校志学寮食堂

参加者：留学生、寮生会、関係教職員

（概要）

現在、本校には6名の留学生が在籍している（モンゴル1名、インドネシア1名、ウガンダ1名、ベトナム1名、スリランカ1名、カンボジア1名）。留学生と寮生との交流を深めるために年に1度、寮生会主導のもと留学生パーティが実施されている。今回のパーティでは、今年度入学した3Eリファン君と3Iオヤングさんによる自国紹介および寮生2名の地元紹介のプレゼンを皮切りに、約1時間の懇談を通し親睦を深め合った。



②九州沖縄地区留学生交流研修会

日 時：平成23年10月22日、23日

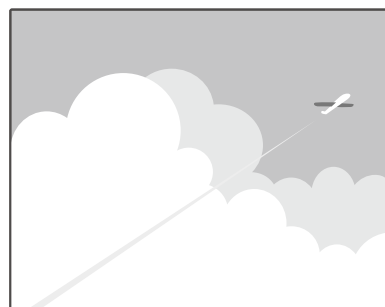
場 所：北九州市

参加者：3Iオヤングさん、3Eリファン君、4Sクー君、5Cティー君 計4名

引率者：椎

（概 要）

本研修会は、九州沖縄地区の高専に在籍する外国人留学生を対象とした、学校の枠を超えた留学生同士の交流研修会である。この研修会を通じて、九州沖縄各地の自然や生活文化および日本の工業技術に触れてもらい、留学生同士がお互いに意見交換を行う機会を提供するものである。研修会は二日間の日程で行われ、一日目は北九州市にあるエコタウンセンターと石油備蓄基地展示館を見学し、その後、スペースワールドにて各種アトラクションを楽しんだ。夜には懇親会が開かれ、総勢60名程の留学生が出席し親睦を深めた。二日目は下関市まで足をのばし、秋吉台の鍾乳洞を訪れた。留学生は互いに近況を報告したり、将来の進路について語りあうなどして二日間の研修会を楽しく過ごしていた。



平成23年度の広報委員会の活動について

広報委員会委員長 大竹 孝明

広報委員会の委員長を担当して4年が過ぎましたが、委員会の担当事項も、広報誌、ホームページ、「鹿児島高専の日」、「高専ロボットと音楽会」のイベント等や、今年度は特に、本校紹介用のプロモーションビデオ(DVD)の作製を行う等、非常に幅広くなりました。広報委員会の委員の皆様にはご協力を頂き、感謝申し上げます。

広報(PR)につきましても、学内の全ての部門に係り、学校内外の皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため今後ともよろしくお願い致します。

今年度の主な活動の代表例として、第3回目の「鹿児島高専の日：小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2011」」についてご報告致します。

「小中学生のためのものづくり・科学教室 「鹿児島高専の日2011」」について

1. 緒言

鹿児島高専では、鹿児島市立科学館との連携(共催)により、科学実験教室やロボットの動作説明等の各種イベントを通じて科学に対する興味や関心を高め、夢や創造性を育む機会を設ける事業を実施してきました。本事業は、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の「平成23年度科学コミュニケーション連携推進事業 機関活動支援」に“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2011」”のテーマで、平成21年度より連続して採択されました。

本企画を、鹿児島高専を地域へ広くPRし、科学技術者育成を行う本校への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づけ、科学実験教室や展示等を企画し、平成23年8月11日(木)に鹿児島市立科学館にて実施しました。

2. 科学実験教室等の内容と成果

平成23年度の活動内容については、表1に示すように、科学実験教室とロボットによる演奏・紹介や各科の科学実験、学校紹介等を企画しました。科学実験教室では、事前応募した小・中学生に対して、「紙飛行機を作ろう」等の五つのテーマを設定しました。ロボットによる演奏・紹介等については、鹿児島市立科学館の一般来館者に対して、高専で製作した音楽ロボットによる演奏会、学生が製作した高専ロボコンの全国大会で優勝した

ロボットの展示・紹介を行いました。また、学内の6学科による科学実験やパネル展示と資料配布を行い、学校紹介や進学相談等の企画も実施しました。

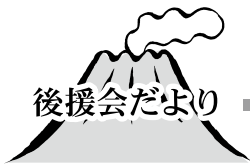
イベント終了時(16時)に1,196名の入館者、科学実験教室の受講者が66名であり、学内及び市立科学館等、各方面の協力で予定通り無事に終了することができました。受講者及び一般来館者へのアンケートでも、良い企画であり、来年度の継続を希望するという意見が多かったようです。

3. 結言

本事業は、JSTの「科学コミュニケーション連携推進事業」に採択されたこともあり、学内の広報委員会委員及び企画係で実行委員会を立ち上げ、準備段階から全学的に取り組むことができました。鹿児島市立科学館の依頼もあり、来年度以降も、JSTへ申請しながら、開催の準備を進めていく予定であります。本事業は、各科の実行委員等の多くの実施担当者、技術長を中心とした技術室、事務部門及び鹿児島市立科学館等、多くの支援を頂きました。ここに、深く感謝の意を表します。

表1 「鹿児島高専の日2011」の活動内容

Ⅰ 小学校5,6年生及び中学生対象の科学実験教室(事前応募)	
①紙飛行機を作ろう、	②光、音、電波を出そう!
③あなたもUFO キャッチャーの名手	
④ライトレーサロボットを作ろう	
⑤折り紙建築でつくる世界遺産	
Ⅱ ロボットによる演奏・紹介や各科の展示・科学実験(工作)教室、学校紹介等 (鹿児島市立科学館の一般来館者)	
1. 演奏ロボットによる音楽会	
2. 学生が製作した高専ロボコンのロボット展示および紹介	
3. 鹿児島高専学校紹介(進学相談コーナー)	
4. 一般教育科(物理)及び機械、電気電子、電子制御、情報、都市環境デザインの各工学科による展示・科学実験(工作)教室	
①太陽を見よう!+2012年5月21日の金環日食紹介	
②ロボットでボーリング、スターリングエンジンの世界	
③ボンボン船を作って走らせよう!	
④体験!エネルギーとエレクトロニクスショー	
⑤体験!超簡単エレクトロニクス工作	
⑥体験しよう!電子制御の世界、	
⑦体験、情報工学	
⑧人が憩えるまちづくりをめざして、目に見えない世界を観察してみよう	



鹿児島高専と後援会と「わたし」

後援会会長 花田 義隆

正確に何時頃から鹿児島高専という学校に、サッカーをとおして関わってきたかははっきりしませんが、昭和54年4月に県社会人サッカー連盟と県学生サッカー連盟が別組織となりそれぞれリーグ戦が始まり、あのドイツワールドカップ三位決定戦の主審を務められた上川徹さんが鹿児島高専の学生で選手として活躍し、全国高等専門学校サッカー選手権大会で七連覇の途中の頃、一人の審判員として試合の審判をさせて貰っていましたことを、つい最近の出来事のように錯覚を起こしている今日この頃です。全国七連覇を達成した昭和59年の祝勝会（現在のそれと比べると非常に「ささやかな」）で、当時部長の山口先生と山崎監督と精松先生の先生方と少人数の父母の会の中に参加させて戴いたことを昨日のこのように記憶しております。当時28歳独身の自分は一級審判員を目指して修行中の身でサッカー馬鹿の毎日、学生リーグの沢山の試合を通じて修行させて貰いましたが数年後の一級審判員チャレンジは不合格となり、気を取り直して県社会人サッカー連盟の仕事に没頭した時期、山崎先生に叱咤激励されご指導を受けながら過ごしてきた県サッカー協会役員・九州社会人サッカー連盟役員の時期、いつしか時が過ぎて我が長男を連れて、山崎監督に鹿児島高専入学の報告と長男のサッカー部への入部希望をお願いした日、さらに自分の我が儘をとおし県協会役員・九州協会役員としての辞表を山崎先生に手渡した日、その2年後には次男も無事鹿児島高専入学を果たして、どっぴりと鹿児島高専サッカー部にはまった自分を、サッカー馬鹿の私が自分の息子たちに感謝している次第です。

後援会の仕事は精松先生が土木工学科の長男の担任をしてくださり、前述のような関係で後援会理事を引き受けたことがきっかけでありました。後援会の果たすべき役割が大変重要なものであることを分かったのも理事会に参加させて貰えたからで、後援会会員の皆様にも是非このことをご理解頂きご協力をお願いいたしながら、現在の後援会の予算規模も相当なものであり「公平・公正」を大原則にできる限り学生のバックアップを図れるように努力していかなければならないと考えております。また学校側のご理解とご協力を得て、授業参観や後援会支部会（各地域で開催）も順調に後援会事業として定着しており皆様方に感謝いたしているところであります。本後援会予算は各年度により多少の増減はあります

が毎年学生諸君の教育や課外活動の補助として大変有効に活用されております。主に文化系クラブで英語・軽音楽系・芸術・ロボットコンテスト・エコノパワー燃費競技大会等に、体育系クラブで陸上・テニス・サッカー・野球・バスケット・バレーボール・水泳・卓球等に活用され、文化系では特にロボットコンテストがテレビ放映され全国の高専のなかでも有名になっており、一昨年は全国ロボットコンテストで念願の初優勝を飾りました。ロボットコンテストや全国高専体育大会等での活躍が我が鹿児島高専の活性化を図り、もって県内各地の中学生らが鹿児島高専を目指してやってくるのです。九州高専大会で優秀な成績をあげ全国高専体育大会出場が決定すれば、後援会としては非常にうれしい半面予算の心配をしなければなりません。現在このようなうれしい悲鳴を上げなければならなくなった理由は、数年前から鹿児島高専が取り組んできた「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」による「学外指導者登用」の効果が顕著に現れてきたものであります。学外指導者を招聘し、部活の指導に積極的に関わっていただいております。昨年は全国高専大会でソフトテニス部が二連覇を達成し、サッカー部も全国大会44回のうち21回目の全国制覇を成し遂げたところであります。学生諸君の頑張りはもちろんなのですが、指導手当等一切無い中で指導・監督に当たられた先生方大変な情熱と、人には話せない苦労や心労を乗り越えてこられたであろう並々ならぬご尽力のたまもの故、成し遂げられたものと考えております。

このような結果をふまえて後援会としても積極的なバックアップ体制を築いていかなければならないことが必要と考えられます。いまからのち少子高齢化を迎え今までと同じように鹿児島高専の発展を考えると、学校の活性化（元気良さ）にあつては、たくさんの部活動が活気をおび、内外に知らしめる活躍の場があり、リーダーシップをとれる優秀な人材を送り出し、県内外からたくさんの新たな学生を集めることだと考えます。

また、平成25年度には学校創立50周年を迎えることとなりますが、この件でも後援会の皆様にお力添えを戴くことにもなりましょう。「今まさに鹿児島高専の更なる発展の時期」ととらえ、後援会の皆様には現状をご理解いただき今まで以上に後援会活動にご理解とご協力を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。七年間後援会理事として席を与えて頂きましたことに感謝申し上げ、鹿児島工業高等専門学校の今後益々の御発展を記念いたし、50周年記念事業の成功を心よりお祈りいたします。

感動！の四年生 ～低学年の保護者の皆様へ～

副会長 機械工学科四年理事 堤 明美

高専では、本科四年生から「高学年」として名実共に大学生扱いになります。親としては、「数歩後ろから見守る」に徹したいところです。

4年生は学生活動の主役です。学生会、寮生会、高専祭実行委員会、各部活動等々、幹部学生として各々皆がんばりました！若さっていいな、何かに一途に取り組めるって素晴らしい。我が子が四年生の今年度は、格別な感動がありました。中でも1番は、やはり応援団です。

我が家は学校から徒歩15分。10月になると練習の太鼓と雄叫びが聞こえます。声の大きさや揃い具合の完成度と、次男の声の掠れ・疲労度が正比例していき、心配と同時に、一歩二歩と成長していく姿に喜びを感じました。

列隊長になった息子は、自腹で長ランを注文。バイト代で出したとは言え〇万円だそうです。本番が近づくと学科色に髪を染めますが、機械科も実は“まっ黒”に染めている事を初めて知りました。本番前日は、各自予約した美容院や床屋さんへ。夜中の2時、3時にセットしたら、枕で寝られないので座ってうたた寝とは、成人式のお嬢さん並みです。仕上げに「お母さん、サングラス借りるよ」-こうして、学校・保護者・地域公認期間限定ヤンキー集団が出現し、圧巻の演舞を見せてくれたのでした。

実は私は、演舞が終わり「やったー！」と拳を突き上げながら走って退場する学生たちの後ろ姿に、一番心を打たれます。やり遂げた充実感、重責からの開放感。

「うん、うん、よくがんばった！かつこ良かったよ」。一緒に感動できるのが、高専生保護者の特権でしょう。

応援団と櫓絵以外は、悪ふざけの様な体育祭。1年生のご家族は驚かれたことでしょう。でも、技を競う体育大会ではなくて、体育祭、文字通り“お祭”なんです。

学生が全て自分達で企画・運営する、若気の至りの祭典。

「ま、これもアリかな---」と保護者も思える（諦め？悟り？）ようになった頃、感動の四年生がやってくる-うまくできています。これが高専の魅力かも知れません。

PS 四年に進級する春休みにスーツを準備される事をお勧めします。11月の工場見学時は「スーツもしくは学生服着用」が決まりです。春のフレッシューズセールが一番品揃えが良い様です。皆さん早目に購入され、四年生4月のクラス写真撮影も、暗黙の了解でほぼ全員スーツです。長男の時はこれを知らなくて後悔しました---



突然の依頼

電子制御工学科 5 年理事 辻 喜美男

息子が高専に編入したいと言ってきたのは、加治木工業高校の3年生の夏の事で、無事編入出来ればいいなあと思い、自分の事のように心が落ち着きませんでした。

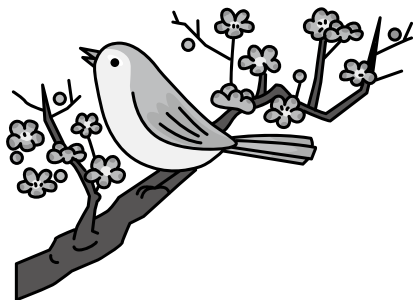
編入してから勉強についていけるか心配でしたが、なんとか大丈夫なようでした。4年生の高専祭で、応援団のリーダーの一人として頑張っているのを見てすごいなあと感じました。

息子が5年生に進級するある日の夜に電話が鳴り、受話器を取ると常務理事の岩元さんより、後援会の理事の依頼がありました。息子は4年生からの編入であり、お子さんが1年生から入学している他の保護者の方のほうがあふさわしいのではないかと思います、最初はお断りをしていましたが、再度依頼がきてお断りできませんでした。

理事を引き受け、早一年が過ぎようとしています。理事会に出席して、高専の良さに改めて気づかされました。寮生活の厳しさ、今までテレビで見ていたロボットコンテストや部活動の成績、就職率の良さなど、素晴らしい点ばかりだと感じました。

初めて支部会に出席し卒業生による社会人としての経験談を聞いて、息子も社会人としてやっていけるのではないかと思います。

息子も就職が今年の夏には決まり、先日内定式があり一安心しています。これから社会人として出発していきます、高専で学んだことを生かしてほしいと思っています。



5 年間の思い出にありがとう

情報工学科 5 年理事 新徳 なおみ

「絶対高専に行きたい」と言っていた娘の5年前の入試の日は、雪混じりの冷たい雨が降っていたことを思い出します。試験を終えた娘が車に乗るなり「ダメだったかも」と涙を流していましたが、合格の結果を聞き、親子で涙を流した日がこの前のようです。

あれから5年、良きクラスメートに恵まれ、毎日勉強に追われながらも吹奏楽部に入部し、初めてのフルートを担当。定期演奏会の他に、小学校などを回る巡回演奏や文化祭など、大きなステージで演奏するたびに娘も成長してきました。その度に心を和ませてもらいました。

本当に早かった5年間。今年娘は福岡の大学へ進学することも決まり、自分の道を歩き始めています。

私は、三年より理事を引き受けましたが、仕事もあるため、諸行事に参加できないことや至らない点多々あり、後援会役員の皆様にご迷惑をかけたこともあったと思います。

理事会に参加した時は、後援会役員の方々が一生懸命いろんなことを検討、計画して意見を出し合うことにびっくりしました。これも、子どもが通う高専の環境を整えるためだと思います。

これからも後援会活動が発展していくことを祈願します。

最後に、先生方、理事の方、クラスの保護者の方、吹奏楽部のみなさん、保護者の方ありがとうございました。お世話になりました。

そして、高専の思い出にありがとう。



みなさんに感謝

土木工学科 5 年理事 東 芦谷 誠

2 年間という理事の間、お会いしましたみなさんに感謝します。理事の方々との親としての思いを、共有できたこと。間近で、子供たちの状況を感じ取れたこと。私には、大変貴重な体験をさせていただきました。

なにもわからず引受けた当初、親切に教えて頂きました先輩理事の方々に感謝します。

子供がここ鹿児島高専に進学を希望し、試験を受けた日、忘れることが出来ません。当初他の科を志望しましたが、残念な結果になりました。ですが、ここ鹿児島高専は 2 次志望選択があり、子供は、これに救われました。

それが今の土木工学科です。これが最初の鹿児島高専に、感謝した日でした。

入学当初は、家を離れ寮生活と学業に両立出来るか、親は心配しました。子供は、部活に学生会にと参加し先輩方と交流を深め、自立していったようです。親の心配をよそに、子供は成長していきました。

なんとかダブらずに進級でき、4 年生で憧れの応援団の列隊長となり、団長と共に盛り上げた日々、インターシップ面接では、担任の教授に渴を入れられ、東京の会社に出向き、それから秋に 2 週間程、会社の業務を体験出来たこと、多くの方々に出会え社会人としての規律ある生活を学べました。今でも インターシップと一緒に参加された方からの連絡を頂けるほど親しく接していただき、ほんとに有り難く、親ながら驚いています。

いざ就職の年になって、ここの会社と決めていた時、順調に思っていた日、あの 3 月 11 日の大震災、待てど暮らせど、希望する会社からは試験案内はこず。結局、採用は無しとの連絡でした。失意の最中、担任の教授の薦めで、ある会社の採用試験を受け内定を頂いた日。科の教授方や、鹿児島高専に感謝いたしました。

寮生活で、社会人としての基本を教えて頂き、部活や学生会で、人との『絆』を築けたことは、子供にとって大切な力となることでしょう。

最後に、お世話になりました教授の方々、理事の方々、常務理事の久徳さん、ほんとうにありがとうございました。

後援会のますますのご発展をお祈りします。



平成23年度 ☆ 1 年生授業参観・懇談会アンケート集計結果☆

当日参加＝145名 内130名回収
鹿児島高専後援会

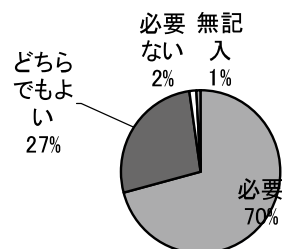
① 今回のこのような会は必要ですか？

Q1全体懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	20	10	19	22	21	92
どちらでもよい	7	10	7	8	3	35
必要ない	0	0	1	0	1	2
無記入	0	0	0	1	0	1
計	27	20	27	31	25	130

その他・意見詳細(学科)

- ・注意することなど学校(学生)の問題が分かってよかったです(M)
- ・現状、方針についての説明が必要だから(S)
- ・学校の近況が理解できました(S)
- ・全体会で話す内容を含め、クラスで話してくだされば不要かなと思います(S)
- ・近況報告は大事だと思います(S)
- ・寮の様子など詳しく聞きたいから(I)
- ・13時スタートにして頂ければと思いました(I)
- ・学校の身近な様子が聞けて良かった(I)
- ・後期からの入学だったので参考になった(I)
- ・学校側の話を聞くよい機会だと思います。(I)
- ・なかなか高専を知る機会がないので必要だと思います(C)
- ・学校の様子を話していただいて良かったです(C)

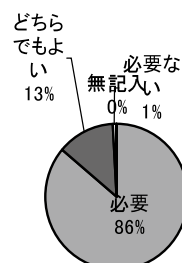


Q2授業参観について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	25	16	25	28	18	112
どちらでもよい	2	4	2	3	6	17
必要ない	0	0	0	0	1	1
無記入	0	0	0	0	0	0
計	27	20	27	31	25	130

その他・意見詳細

- ・機械科ならではの教科を実施してほしい(M)
- ・日頃みることができないので、良かったです(M)
- ・子供の普段の様子がみれて良かったです(M)
- ・通常の授業を参観させてほしい、できれば土日に開催してほしい(M)
- ・どんな勉強をしているのか、全く分からなかったので良い機会でした(M)
- ・先生、友達との関わりが見たいので(M)
- ・学ぶ姿が見学できて良かった(S)
- ・授業の様子がみられてよかったです(S)
- ・真面目に聞いていたので、普段もこうあるのかなと思いながら見てました(S)
- ・子供の様子がみられてよかったです(S)
- ・もう忘れてしまった内容にはついていけませんが、学んでいることが理解できて良いです(S)
- ・楽しい授業でした(I)
- ・子供の様子がわかり、参観して安心しました(I)
- ・面白かったです。日頃の様子が少し見ることができて嬉しかったです。(I)
- ・普段見れない授業の様子がみれて良かった(I)
- ・学校内での様子がわかり、すごく良かったです！！(I)
- ・子供、クラスの様子がみられてよかったです(I)
- ・LL教室でしたが、先生が楽しくなっている様子が印象的でした(I)
- ・クラスの様子を見れる良い機会なのでよかったです(I)
- ・専門授業も見てみたい(I)

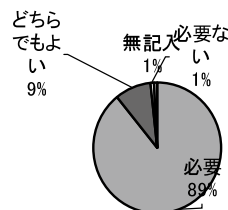


Q3クラス懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	26	18	26	24	22	116
どちらでもよい	1	2	1	7	1	12
必要ない	0	0	0	0	1	1
無記入	0	0	0	0	1	1
計	27	20	27	31	25	130

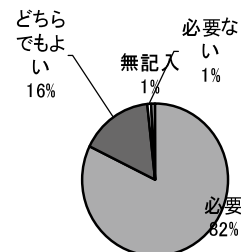
その他・意見詳細

- ・担任の先生の話で、子供の様子が聞けて良かった(M)
- ・先生のお話が聞けて良かったデス。鞍掛先生、いつも優しいですね(M)
- ・クラスの様子が聞けるので必要だと思う(M)
- ・教室を整理されて良かった(S)
- ・良かった(S)
- ・クラス全体のこと、様子が聞けて良い(S)
- ・就職の話なども聞かせてもらい、充実した懇談会でした(S)
- ・どなたともまだ知り合いになれていないので、早く顔見知りになれば嬉しいです(I)
- ・クラスの父兄の方と顔見知りになるいい機会だと思う(I)
- ・なかなか皆さんとお目にかかることもないので、良い機会です(I)
- ・子供たちの様子を知るのに良いと思います(I)



Q4個人面談について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	23	17	26	23	18	107
どちらでもよい	4	3	1	8	5	21
必要ない	0	0	0	0	1	1
無記入	0	0	0	0	1	1
計	27	20	27	31	25	130



その他・意見詳細

- ・1年生なので先生と話ができて安心しました(M)
- ・遠方のため時間的に都合がつかずすみません(M)
- ・子供からあまり話を聞けないので学校、寮のこと、聞きたい(M)
- ・個人面談等がないと先生と話す機会が殆どないので(E)
- ・ありがたいです(E)
- ・子供の様子が聞けるので安心する(E)
- ・今回は参加しなかったですが、あるといいと思います(E)
- ・子供の様子を伺えてよい、安心する(E)
- ・子供から聞けない話などを教えていただけるので必要だと思います(E)
- ・子供の学校での様子、クラスでの様子が聞ける機会なので必要だと思う(E)
- ・前回、出席できなかったのも、助かりました、(I)
- ・年に一度くらいは子供の様子など、直接担任と話してみたいです(C)

②学校に対する要望など

- ・自主性を尊重していただいてありがたいと思いますが、学校の評判があまり良くないことが残念です(M)
- ・就職・進学状況の情報共有(将来どんな企業、学校に進めるのかを知るため)(M)
- ・学校の様子がわかるので是非続けてほしいです(M)
- ・お世話になります。ご指導を宜しくお願いします(M)
- ・子供に対し、心つかいしていただき、ありがとうございます(M)
- ・学校が遠くなかなか様子がわからないので、こういった会がありますと、大変ありがたいです、
- ・お世話になります。宜しくお願い致します(M)
- ・校内の犯罪は厳格に対処すべき(S)
- ・初めての文化祭、体育祭の子供たちの活動がいきいきしていたのでとても良かった(S)
- ・ホームページの充実をお願いします(学生生活など細かい情報が載っていると有難いです)(I)
- ・高専らしさに好印象を持ちました。(型にはまった普通の高校生と違って)(C)
- ・郵送されてくる成績表と一緒に先生からの子供についての学校での様子などをコメントして下さっているのは有難く思っています(安心できます)(C)

③後援会に対する要望など

- ・学校の様子がわかるので是非続けてほしいです(M)
- ・いつもありがとうございます。(M)
- ・お世話になります、色々ありがとうございます。(M)
- ・下の子の運動会の時期と重なるので配慮してほしい(S)
- ・メールが送信されたのか不安でした(S)
- ・TOEICなど子供たちのやる気を応援する姿勢が嬉しいでした(I)
- ・準備等ありがとうございます。いつもお世話になります。本日もお疲れ様でした(C)
- ・感謝しております。ありがとうございました。(C)

平成24年度 行事予定表

No.1

平成24(2012)年4月										平成24(2012)年5月										平成24(2012)年6月										平成24(2012)年7月									
曜	日	本	専	回	本	専	曜	日	本	専	回	本	専	曜	日	本	専	回	本	専	曜	日	本	専	回	本	専												
日	出	科	攻	数	科	科	日	出	科	科	数	科	科	日	出	科	科	数	科	科	日	出	科	科	数	科	科												
曜	席	本	攻	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専	本	専												
1	日			1	1	火			期記念日振替代休	14	14	1	金								7	7	36	1	日														
2	月		語交交付式	2	2	水			一斉休業日／海の日振替代休	15	15	2	土								26	26		2	月														
3	火			3	3	木			憲法記念日	16	16	3	日																										
4	水			4	4	金			みどりの日	17	17	4	月			前学期中間試験／成績入力開始(13時)					1	7	37	4	水														
5	木		入学式(10時)／入寮式(14時)／開寮(9時)／部員募集／新入生オリエンテーション／開校(学年別)	1	1	5	土		こどもの日	18	18	5	火			前学期中間試験／欠課時数入力仮繰切(13時)					2	8	38	5	木														
6	金		卒業式／LHR／1年生オリエンテーション／総合学力調査(6年生)／写真撮影	2	2	1	6	日		19	19	6	水			前学期中間試験					3	7	39	6	金														
7	土		寮リガー研修	5	5	7	月		再試験結果入力開始(13時)	3	3	17	7	木							4	8	40	7	土														
8	日			6	6	8	火			4	4	18	8	金			短縮授業				8	8	41	8	日														
9	月		休講／身体測定／クラブ紹介／管任式／総合学力調査	3	3	2	9	水	短縮授業／消防訓練	4	4	19	9	土							28	28		9	月														
10	火		前学期授業開始／前学期進捗科目自受講席交付／再試験額交付	1	1	3	10	木		4	4	20	10	日							29	29		10	火														
11	水		1年生研修	1	1	4	11	金	再試験結果入力繰切(17時)／外部進学希望者説明会	4	4	21	11	月							7	8	42	11	水														
12	木		前学期進捗科目自受講席繰切／再試験額繰切	1	1	5	12	土		20	20	12	火								8	9	43	12	木														
13	金		運営会議	1	1	6	13	日		21	21	13	水								7	8	44	13	金														
14	土		除額交付1年生研修	7	7	14	月			4	4	22	14	木							8	9	45	14	土														
15	日			8	8	15	火			5	5	23	15	金			成績入力繰切(12時)／校務運営				9	9	46	15	日														
16	月			1	1	7	16	水	歓迎クラスマッチ	4	1	24	16	土							30	30		16	月														
17	火			2	2	8	17	木		5	5	25	17	日							31	31		17	火														
18	水		短縮授業／学費滞納訓練	2	2	9	18	金	校務運営	5	5	26	18	月							8	9	47	18	水														
19	木			2	2	10	19	土		22	22	19	火								9	10	48	19	木														
20	金		短縮授業／開校記念講演／前学期進捗科目自受講席繰切／再試験額繰切	2	2	11	20	日		23	23	20	水								8	9	49	20	金														
21	土		寮生マッチ	9	9	21	月			5	5	27	21	木							9	10	50	21	土														
22	日			10	10	22	火			6	6	28	22	金							10	10	51	22	日														
23	月		推薦書受付(26日まで)	2	2	12	23	水		推薦判定会議	5	5	29	23	土						32	32		23	月														
24	火			3	3	13	24	木		推薦者懇談会	6	6	30	24	日						33	33		24	火														
25	水			3	3	14	25	金	前学期中間試験時間割発表	6	6	31	25	月							9	10	52	25	水														
26	木			3	3	15	26	土	保護者懇談会	24	24	26	火			成績会議(休講)					34	34		26	木														
27	金			3	3	16	27	日		25	25	27	水								9	10	53	27	金														
28	土			11	11	28	月		欠課時数入力開始(13時)	6	6	32	28	木							10	11	54	28	土														
29	日		昭和の日	12	12	29	火			7	7	33	29	金							11	11	55	29	日														
30	月		振替休日	13	13	30	水			6	6	34	30	土							35	35		30	月														
						31	木			7	7	35												31	火														
家・ファミ分科説明会／心臓図検査／胸部レントゲンX線検査(4/9)										教員集会(5/6:午後)										交通安全講習会・自転車盗難防止講習会(4.5年、専攻科)										西日本地区高等専門学校大会(7/14・15:北九州・高専)									
4.5年生へのJABEEの学習教育目標の周知(4/5:LHR時)										授業観察・相互参観										二輪車乗技講習会										西日本地区高等専門学校大会(7/14・15:熊本・熊本)									
TOEIC IP(6年生)										交通安全講習会・自転車盗難防止講習会(1.2,3年)										授業評価アンケート(1～3年生)										新学期半試験／成績入力・再試験前記入力開始(13時)									
高専ロボット音楽会(4/22:かこしま民交流センター)										高校総体										新学期半試験／欠課時数入力繰切(13時)										新学期半試験／成績入力・再試験前記入力開始(13時)									
通学車両登録										卒業自転車登録										新学期半試験／欠課時数入力繰切(13時)										新学期半試験／成績入力・再試験前記入力開始(13時)									

平成24(2012)年8月										平成24(2012)年9月										平成24(2012)年10月										平成24(2012)年11月																													
曜 日	曜 日	曜 日	本 科 出 席	回 数	本 科 出 席	曜 日	曜 日	曜 日	本 科 出 席	回 数	本 科 出 席	曜 日	曜 日	曜 日	本 科 出 席	回 数	本 科 出 席	曜 日	曜 日	曜 日	本 科 出 席	回 数	本 科 出 席	曜 日	曜 日	曜 日	本 科 出 席	回 数	本 科 出 席																														
行 事																																																											
本 科					専攻科					本 科					専攻科					本 科					専攻科																																		
1 水	後学期選択科目受講票受付(8/7まで)	前期期末試験	14	4	77	1 土				69	0	1 月	後学期授業開始／短縮授業／生徒会申請書提出(5日まで)／後学期授業開始(10/15まで)／期終目標達成率発表	1	1	90	1 木																																										
2 木	前期期末試験／成績入力開始(13時)	補講／答案返却／解説	5	2	78	2 日				70	70	2 火				1	1	91	2 金																																								
3 金	前期期末試験		6	5	79	3 月				71	71	3 水	成績訂正入力締切(17時)			1	1	92	3 土																																								
4 土			46	46	4 火	編入学合格発表				72	72	4 木				1	1	93	4 日																																								
5 日			47	47	5 水					73	73	5 金	留学生・ハートイ			1	1	94	5 月																																								
6 月	前期期末試験	補講／答案返却／解説	7	3	80	6 木				74	74	6 土				94	94	6 火																																									
7 火	前期期末試験／後学期選択科目受講票締切	補講／答案返却／解説	8	4	81	7 金				75	75	7 日				95	95	7 水																																									
8 水	前期期末試験	補講／答案返却／解説	9	5	82	8 土				76	76	8 月	体育の日			96	96	8 木																																									
9 木	前期期末試験	補講／答案返却／解説(金曜日)	10	6	83	9 日				77	77	9 火	再試験結果入力開始(13時)			2	2	95	9 金																																								
10 金	1HR／清掃／追試験願出／部室整理	清掃／答案返却／解説	5	4	84	10 月				78	78	10 水	短縮授業／成績会議			2	2	96	10 土																																								
11 土		閉校(11時)	48	48	11 火					79	79	11 木				2	2	97	11 日																																								
12 日		一日休校入学	49	49	12 水					80	80	12 金	運営会議			2	2	98	12 月																																								
13 月		一斉休業日／夏季休業開始	50	50	13 木					81	81	13 土	プロコン本戦(有明)			97	97	13 火																																									
14 火			51	51	14 金	校務連				82	82	14 日	プロコン本戦(有明)			98	98	14 水																																									
15 水			52	52	15 土					83	83	15 月	再試験結果入力締切(17時)			2	2	99	15 木																																								
16 木			53	53	16 日					84	84	16 火	後学期選択科目受講票締切			3	3	100	16 金																																								
17 金	編入学試験	成績入力／再試験結果入力締切(17時)／後期時間調整	54	54	17 月					85	85	17 水				3	3	101	17 土																																								
18 土	全国高等学校体育大会(中国地区)		55	55	18 火					86	86	18 木				3	3	102	18 日																																								
19 日	全国高等学校体育大会(中国地区)		56	56	19 水					87	87	19 金	校務連			3	3	103	19 月																																								
20 月	全国高等学校体育大会(中国地区)		57	57	20 木					88	88	20 土				99	99	20 火	欠課時数入力開始(13時)																																								
21 火	全国高等学校体育大会(中国地区)		58	58	21 金					89	89	21 日	ロボコン九州府県大会(熊本・熊本)			100	100	21 水																																									
22 水	全国高等学校体育大会(中国地区)		59	59	22 土					90	90	22 月	後学期学力・社会人選抜願書受付(25日まで)			3	3	104	22 木																																								
23 木	全国高等学校体育大会(中国地区)		60	60	23 日					91	91	23 火	短縮授業／高専祭準備			4	4	105	23 金																																								
24 金	全国高等学校体育大会(中国地区)		61	61	24 月							24 水	短縮授業／高専祭準備／校内一斉清掃			4	4	106	24 土																																								
25 土	全国高等学校体育大会(中国地区)		62	62	25 火					15	8	25 木	短縮授業／高専祭準備／校内一斉清掃(土曜日)			4	4	107	25 日																																								
26 日	全国高等学校体育大会(中国地区)		63	63	26 水					15	9	26 金	高専祭準備／ハーバル(休養)			6	4	108	26 月																																								
27 月	全国高等学校体育大会(中国地区)		64	64	27 木					15	10	27 土	高専祭文化祭			7	101	109	27 火																																								
28 火	全国高等学校体育大会(中国地区)		65	65	28 金					15	11	28 日	高専祭(体育祭)			8	102	110	28 水																																								
29 水	後学期時間割編成		66	66	29 土					92	92	29 月	高専祭学生代休			101	4	29	木																																								
30 木			67	67	30 日					93	93	30 火	高専祭学生代休			102	5	30	金																																								
31 金	編入学判定会議		68	68								31 水				5	5	111																																									
全国高等学校フォーラム(8/20・福岡高専・京都府商会議場)																														教員集会(10/17・放課後)										・後援会支部総会										開島保護者懇談会									
全国高等学校フォーラム(8/28～8/30・東京高専)																														ISATE2012(9/19～9/21・北九州高専)										学習・教育目標達成度の確認(4年生及び5年生の専攻科入学予定者・10/1・1HR時)										授業参観(1～3年生)									
授業評価アンケート(4・5年生・専攻科生)																														2年生海外研修研修(カナダ)										中学生及び保護者のための学校説明会(10/6・本校・10/20・鹿児島市)										授業参観・相互参観									
																														3・4・5年生学生交流(テーマセッション)										中学校訪問訪問										JAABE技術者教育プログラムの説明(3年生の特別活動)									
																																								学校・施設試験対策										九州沖縄地区高専冬季体育大会(大分高専)									

平成24(2012)年12月										平成25(2013)年1月										平成25(2013)年2月										平成25(2013)年3月									
日	曜	行	事	回 数	本 科 出 席	日	曜	行	事	回 数	本 科 出 席	日	曜	行	事	回 数	本 科 出 席	日	曜	行	事	回 数	本 科 出 席	日	曜	行	事	回 数	本 科 出 席										
1	土			112 112	1	火		元日		128 128	1	金	入学願書受付(7日まで)／再 試験結果入力開始(13時)	後学期末試験	13 9 166	1	金	終業式／清掃／LHR／蒙清 1年生成績入力・再試験結果 入力締切(17時)	13 154 182																				
2	日			113 113	2	水				129 129	2	土			141 141	2	土	閉寮(11時)	153 155																				
3	月			8 9 133 3	木					130 130	3	日			142 142	3	日		154 156																				
4	火			8 10 134 4	金		一斉休業日			131 131	4	月			14 10 167	4	月	成績入力締切(15時)	155 157																				
5	水			9 10 135 5	土					132 132	5	火	次年度前期通招科目受講 金曜日の授業／再試験結果 入力受付(21日まで)	補講／答案返却・解説 (金曜日の補講／答案返却・ 解説)	14 13 168	5	火		160 168																				
6	木	寮生講話		9 10 136 6	日		閉寮(10時)			133 133	6	水	金曜日の補講／答案返却・ 解説	補講／答案返却・解説	14 16 169	6	水		157 159																				
7	金			7 9 137 7	月		仕事始め／短期授業／授業開始 ／他県入学願書受付(10日まで)			11 12 148	7	木	後学期末試験	補講／答案返却・解説	15 17 170	7	木		158 160																				
8	土			114 114	8	火				10 12 149	8	金	後学期末試験／成績入力開 始(13時)／運営会議	特別研究発表会(2年)／特別 研究(1年)	16 5 171	8	金	卒業判定会議(13時30分) ／運営会議	159 161																				
9	日			115 115	9	水				12 13 150	9	土			143 143	9	土		160 162																				
10	月	成績入力締切(17時)		9 10 138 10	木		休講／1,2,4年キャリア教育/3年 学習到達度試験/5年講話	補講、特別研究		10 13 151	10	日			144 144	10	日		161 163																				
11	火			9 11 139 11	金		運営会議			10 12 152	11	月	後学期末試験／欠課時数入 力(15時)／2年生生成績入 力締切(17時)	月曜日の補講／答案返却・解 説	16 15 145	11	月	平成25年度前期時間割編成	162 164																				
12	水			10 11 140 12	土					134 134	12	火	後学期末試験	補講／答案返却・解説	18 19 173	13	水	進級判定会議(10時30分)	163 165																				
13	木			10 11 141 13	日					135 135	13	水	後学期末試験		19 20 174	14	木		164 166																				
14	金	運営会議		8 10 142 14	月		成人の日			136 136	14	木	後学期末試験		20 21 175	15	金	校務進	165 167																				
15	土			116 116	15	火				11 13 153	15	金	後学期末試験／特別研究発表 会(2年)／特別研究(1年)		20 21 175	15	金	校務進	166 168																				
16	日		学位小論文試験	117 117	16	水	休講／送別クラスマッチ	補講、特別研究		11 14 154	16	土			146 146	16	土		167 169																				
17	月			10 11 143 17	木					12 13 155	17	日			147 147	17	日		168 170																				
18	火	成績会議(休講)学生自主催 行事・学生記念	補講、特別研究	9 12 144 18	金		短期授業／再評価試験入力 締切／校務進	短期授業		11 13 156	18	月	答案返却・解説(短期授業)	特別研究(1年)	15 22	18	月		169 171																				
19	水			11 12 145 19	土		推薦入試			137 137	19	火	答案返却・解説(短期授業)	特別研究(1年)／修了判定会 (15時30分)	15 23	19	火	卒業式	14 7 183																				
20	木			11 12 146 20	日					138 138	20	水	答案返却・解説(短期授業) ／後学期末試験	特別研究(1年)	15 6	20	水	春分の日	170 172																				
21	金	短期授業／清掃／LHR ／校務進	短期授業	9 11 147 21	月		志学寮パーティー(寮長退席)			12 13 157	21	木	答案返却・解説(短期授業) ／後学期末試験	特別研究(1年)	15 24 176	21	木	学年末休業開始	171 173																				
22	土		閉寮(11時)	118 118	22	火				12 14 158	22	金	答案返却・解説(短期授業) ／後学期末試験	特別研究(1年)	15 25 177	22	金		172 174																				
23	日		天皇誕生日	119 119	23	水	推薦入学判定会議			13 14 159	23	土			148 148	23	土		173 175																				
24	月		振替休日	120 120	24	木				13 14 160	24	日	入学試験		149 149	24	日		174 176																				
25	火		冬季休業開始	121 121	25	金				12 14 161	25	月	休講／祭点		150 150	25	月		175 177																				
26	水			122 122	26	土	学生命/リーダー研修/金国南軍 英語プレゼンテーションコンテスト			139 139	26	火	休講／祭点予備日		161 161	26	火		176 178																				
27	木			123 123	27	日	全国英語英語プレゼンテーション コンテスト			140 140	27	水	休講／祭点予備日/入試 制度会議		162 162	27	水		177 179																				
28	金	仕事納め		124 124	28	月	後学期末試験時間割発表/ 推薦入学合格発表	特別研究論文提出締切(17時) ／成績入力開始(13時)		13 14 162	28	木	卒業研究発表式/ 1年生以下休講		12 153 181	28	木		178 180																				
29	土			125 125	29	火				13 6 163						29	金	離任式	179 181																				
30	日			126 126	30	水				14 7 164						30	土		180 182																				
31	月			127 127	31	木	欠課時数入力開始(13時)			14 8 165						31	日		181 183																				
学生会長立会談/委員会・選挙										TOEIC Bridge (1～3年生)										実業部アンケート(1～3年生、4・5年生、専攻科生)										学力合格者内定通知/内定者集校日(合格発表)									
										4年TOEICP																				全国高等学校選考委員会(長野県)									
																														平成25年度 特別研究テーマ提出締切									
																														1年生諸学研修(オーストラリア)									
																														●学生交流(アメリカ/オーストラリア)									

編 集 後 記

「高専だより」第66号をお届けいたします。

今回の特集は、昨年8月23～25日に行われた「平成23年度全国高専教育フォーラム」についてです。のべ1200名の参加者を迎え、教育研究や学生指導、国際交流などに関して199件の発表が行われました。本校が主幹校として行った、投稿システムの構築や会場設営など裏方としての役割や、当日のポスター発表の様子について紹介します。

さて、年度も終わりに近づくと、入学試験が行われ、鹿児島高専へ入学を希望する若者たちを多数迎えます。面接で彼らに接すると、それぞれ将来に夢を持ち、熱意を持って新しい世界に飛び込もうとしていることを強く感じます。その気持ちに負けない様に、こちらも改めて準備を整え新年度を迎えなければと考えます。

最後になりますが、高専だよりの発行にあたり、ご多忙の中、原稿執筆を快くお引き受けいただきました執筆者各位に対して、委員一同厚く御礼申し上げます。

一般教科理系 篠原 学

「高専だより」専門委員会委員

委員長 篠原 学（一般教科理系）

委 員 塚崎 香織（一般教科文系）

江崎 秀司（機械工学科）

井手 輝二（電気電子工学科）

新田 敦司（電子制御工学科）

幸田 晃（情報工学科）

毛利 洋子（都市環境デザイン工学科）

担当事務 脇園 好光（総務課企画係長）

「鹿児島高専だより」第66号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1